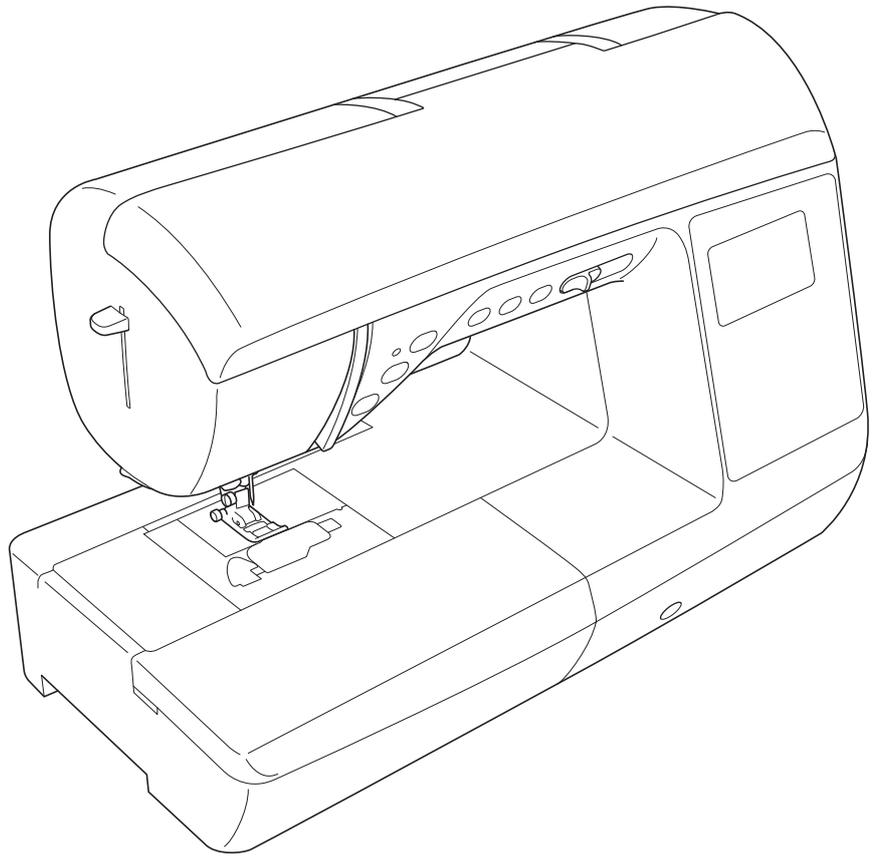


取扱説明書

コンピューターミシン
CPF73シリーズ



- ご使用になる前に必ず本書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 本書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、取扱説明書で機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。

また取扱説明書は、読み終わったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

取扱説明書および本製品で使われている表示や絵文字は、本製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

その表示や意味は次のとおりです。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をする、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をする、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。

	特定しない 禁止事項		特定しない 義務行為		感電の危険が あります
	分解しては いけません		電源プラグを 抜いてください		火災の危険が あります
	水に濡らしては いけません		特定しない 危険通告		針の下に指を入れ ないでください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

 警告	
	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき
 注意	
	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠️ 注意

	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
 	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
	電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
 	直射日光の当たるところや、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ~ 40 °C です。マシン内部の温度が上がったり、マシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
 	火の気のあるもののそばでは使用しないでください（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）。火災の原因となります。
 	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
 	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
 	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。 マシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
 	マシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
   	マシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、マシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
  	マシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
	マシン本体の重さは約 9.8kg あります。マシン本体を持ち運ぶ際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 温度が著しく高くなる場所 ・ 温度が著しく低くなる場所 ・ 急激に温度が変化する場所 ・ 湿気、湯気の多い場所 ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・ 屋外や直射日光の当たる場所 ・ ほこり、油煙の多い場所
	マシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべって落したりして、けがの原因となります。

! 注意

	ミシン本体には取扱説明書に記載されている正規の部品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。
	ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。 けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	針の下などに指を入れしないでください。 けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示どおりに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
 	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するとき、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが・故障の原因となります。

- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様を使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

商標

App Store は、Apple Inc. のサービスマークです。

Android、Google Play は、Google LLC の商標です。これらの商標の使用は、Google 使用許諾の対象となります。ブラウザ製品および関連資料等に記載されている社名及び商品名はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

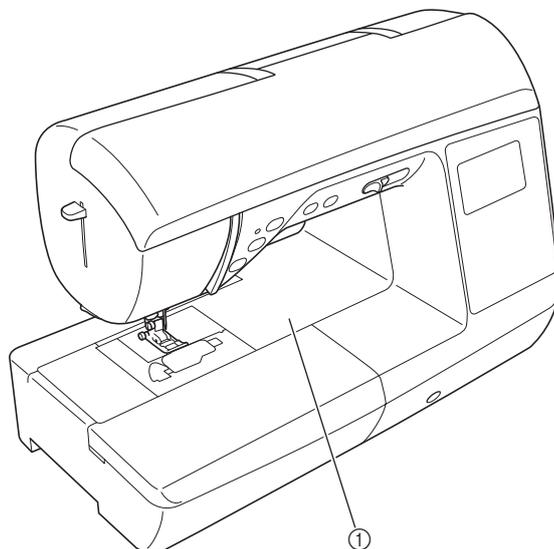
警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告ラベルが表示されています。

警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。

万一ラベルがはがれていたり、読みとれなくなった場合は速やかに「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。



① ラベルの場所

このミシンでできること

B 基本機能編

本機をご使用になる前に、「基本機能編」をお読みください。ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明しています。

第1章 ぬう前の準備

[B-2 ページ](#)

ミシンの基本的な操作方法を説明します。

第2章 基本のぬい方

[B-32 ページ](#)

ぬう前に必要な準備と基本的なぬい方を説明します。

S 実用ぬい編

ここでは、実用ぬいのさまざまな機能を紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ものぬいやボタン穴かがりなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

第1章 きれいに仕上げるために

[S-2 ページ](#)

上手にぬうコツやさまざまな布地をぬうコツなどを説明します。

第2章 いろいろなぬい方

[S-6 ページ](#)

内蔵模様の使い方を紹介します。

D 文字・飾りぬい編

ここでは、文字模様・飾り模様のぬい方や、調整・編集のしかたを紹介しています。さらに、オリジナルの模様を作成できるマイイラスト機能の使い方も紹介します。

第1章 文字模様／飾り模様

[D-2 ページ](#)

文字・飾りぬいの手順を説明します。

第2章 マイイラスト機能

[D-12 ページ](#)

オリジナルの模様の作り方と記憶のしかたを説明します。

A 付録

ここでは、困ったときのヒントや、本機を長くお使いいただくためのお手入れ方法などを紹介しています。

第1章 お手入れ／困ったときには

[A-2 ページ](#)

ミシンのお手入れ、困ったときの対処方法などを紹介します。

「実用ぬい編」の模様表の見方

実用模様の模様番号は、ミシンのシリーズによって異なり、この表は、複数のシリーズの模様番号を掲載しています。

お使いのミシンは CPF73 シリーズです。
「CPF73 シリーズ」の列をご覧ください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	 CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
しつけぬい		1-08	08	J
直線 (左基線)		1-01	01*	
		1-02	02*	
直線 (中基線)		1-03	03*	
直線 (中基線)		1-04	04*	
3重ぬい		1-05	05*	

目次

安全にお使いいただくために	i
商標	iv
警告ラベルについて	iv
このミシンでできること	v
「実用ぬい編」の模様表の見方	vi

B 基本機能編

第1章 ぬう前の準備 2

各部の名称とはたらき	2
主要部	2
針と押え部分	3
操作スイッチ	3
操作パネルと操作キー	4
補助テーブル	4
付属品	5
別売品	6
電源の入れ方	7
電源を入れる	8
電源を切る	8
ミシンを初めて使うとき	8
液晶画面	9
液晶画面の見方	9
設定画面	10
表示言語を設定する	12
操作キーの感度を調節する	12
下糸の準備	13
下糸を巻く	13
下糸をセットする	16
上糸通し	19
上糸を通す	19
針に糸を通す	21
手で針に糸を通すとき	22
下糸を引き出す	23
2本針を使用する	23
布地と糸の種類による針の使い分け	26
針の交換	27
正しい針の見分け方	27
針の交換	27
押えの交換	29
押えを交換する	29
押えホルダーを取り外す／取り付ける	30

第2章 基本のぬい方 32

ぬってみましょう	32
模様の選択方法	32
模様を選択する	33
模様をぬう	34
返しぬい／止めぬいをする	36
自動で返しぬい／止めぬいをする	36
模様の設定	38
振り幅を調節する	38
ぬい目の長さを調節する	38
糸調子を調節する	39
模様の設定を記憶させる	40
便利な機能	41
自動で糸を切る	41
模様を左右反転させる	41
押え圧を調節する	42
自動押え圧補正	42
ピボット	43
フリーモーションモードでぬう	44
二ーリフターを使用する	44

ぬい方早見表	46
--------------	----

S 実用ぬい編

第1章 きれいに仕上げるために 2

上手にぬうコツ	2
試しぬいをする	2
ぬう方向を変える	2
カーブをぬう	2
筒ものをぬう	2
ぬいしろの幅をそろえる	3
いろいろな素材をぬう	4
厚い布地をぬう	4
薄い布地をぬう	4
伸びる布地をぬう	5
ビニールや皮革をぬう	5
面ファスナー（マジックテープ®）をぬう	5

第2章 いろいろなぬい方 6

しつけぬいをする／布をぬい合わせる	6
しつけぬい	6
布をぬい合わせる	6
すそ上げをする	8
布端を始末する	11
たち目かがり押え<G>を使うたち目かがり	11
ジグザグ押え<J>を使うたち目かがり	12
サイドカッター押え<S>（別売）を使うたち目かがり	13
ボタン穴かがり／ボタンつけ	15
ボタン穴かがり	15
ボタンつけ	18
ファスナーつけ	21
つき合わせ	21
片返し	22
伸びる布地やゴムテープをぬう	25
伸縮ぬい	25
ゴムテープつけ	25
アップリケ／パッチワーク／キルトぬい	27
アップリケ	27
パッチワーク（クレイジーキルト）	28
ピーシング	28
キルティング	30
フリーモーションキルト	31
振り幅コントロールを使用したサテンぬい	35
丈夫にしたいところをぬう	37
3重ぬい	37
かんどめ	37
つくろいぬい（ダーニング）	38
はとめ穴を作る	40
横送り（直線・ジグザグ）	41
飾りぬいをする	43
ファゴティング	43
スカラップ	44
スモッキング	44
シェルタック	45
つき合わせ	45
ヘアールーム	46

D 文字・飾りぬい編

第1章 文字模様／飾り模様	2
飾り模様をぬう	2
模様を選択する	2
模様を消去する	3
きれいにぬうために	3
基本的なぬい方	4
模様を組み合わせる	5
組み合わせ模様を繰り返しぬう	5
模様を確認する	6
模様の変更	6
模様の変更	6
模様の変更	7
文字間を変更する	7
ステップ模様をつくる	7
模様を反転させる	8
模様の始めに戻る	9
模様を記憶させる	9
模様を呼び出す	10
模様の調整をする	10
第2章 マイイラスト機能	12
イラストデザイン	12
模様のデザインを描く	12
イラストを入力する	12
作品例	14

A 付録

第1章 お手入れ／困ったときには	2
お手入れのしかた	2
注油に関して	2
ミシンを保管するときのご注意	2
画面の汚れの掃除	2
ミシンの汚れの掃除	2
かまの掃除	2
困ったとき	4
よくあるご相談	4
上糸がつる	4
布裏で糸がからまる	5
糸調子が合わない	6
布がミシンに入り込んでとれなくなった	7
ポビン受け座の下に糸がからまってしまった	10
こんなときは	12
エラーメッセージ	17
電子音	19
液晶画面に何も表示されないとき	19
仕様	19
索引	20



基本機能編

ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明します。
ページ数は、「B」の記号で始まります。

第1章 ぬう前の準備.....B-2

第2章 基本のぬい方.....B-32

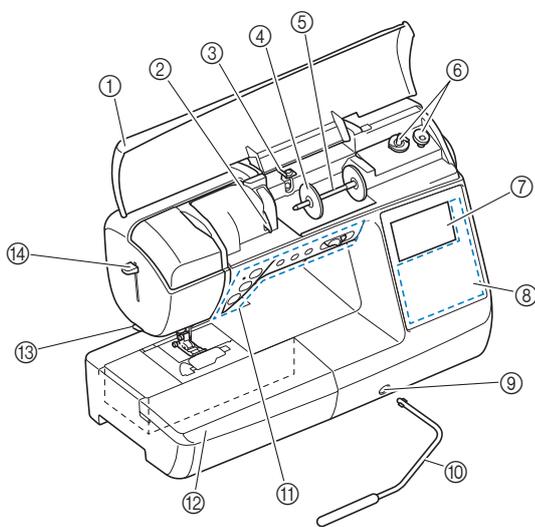
第1章 めう前の準備

各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをお使いになる前に、よく読んで覚えておきましょう。

主要部

■ 正面

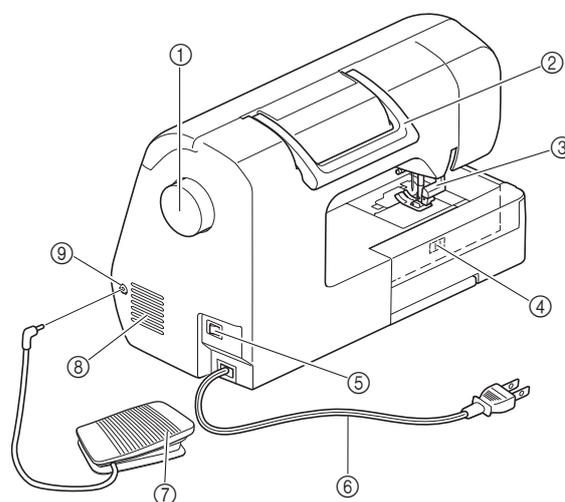


- ① **上ふた**
上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。
- ② **糸案内板**
上糸を通すときに糸をかけます。
- ③ **下糸巻き案内**
下糸を巻くときに糸をかけます。
- ④ **糸こま押え**
糸こまが抜けないように押さえます。
- ⑤ **糸たて棒**
糸こまを差し込みます。
- ⑥ **下糸巻き装置**
下糸をボビンに巻くときに使用します。
- ⑦ **液晶画面**
選択した模様の設定やエラーメッセージが表示されます。
(B-9 参照)
- ⑧ **操作パネル**
模様の選択をするとき、ミシンの設定をするときなどに使用します。
(B-4 参照)
- ⑨ **ニーリフター差し込み口**
ニーリフターを差し込みます。
- ⑩ **ニーリフター**
ひざで押えを上げ下げするときに使用します。(B-44 参照)
- ⑪ **操作スイッチとスピードコントロールレバー**
ミシンのさまざまな操作に使用します。(B-3 参照)
- ⑫ **補助テーブル**
中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときには外します。
- ⑬ **糸切り**
糸を引っかけて切ります。

⑭ 糸通しレバー

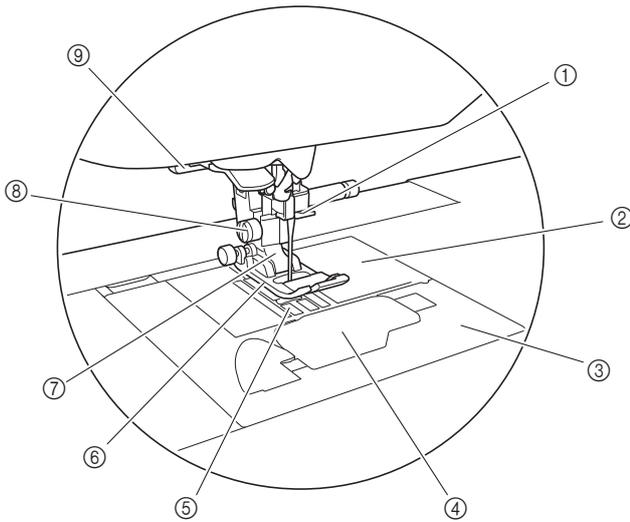
針穴に糸を通すときに使用します。

■ 右側面・背面



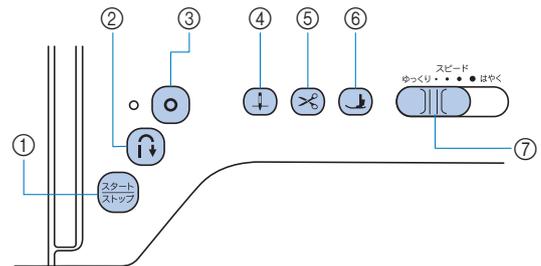
- ① **プーリー**
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ② **ハンドル**
ミシンの持ち運びに使用します。
- ③ **押えレバー**
押えを上げ下げします。
- ④ **ドロップレバー**
送り歯を下げる時と、元に戻すときに使用します。
- ⑤ **電源スイッチ**
ミシンの電源を「入」や「切」にするスイッチです。
- ⑥ **電源コード**
家庭用電源コンセント (AC100V) に接続します。
- ⑦ **フットコントローラー**
ミシンを足で操作したいときに使用します。
- ⑧ **換気口**
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがないでください。
- ⑨ **フットコントローラージャック**
フットコントローラーのプラグを差し込みます。

針と押え部分



- ① 針棒糸かけ
上糸をかけます。
- ② 針板
まっすぐにぬうための目盛りがついています。
- ③ 針板カバー
かまの掃除をするときに取り外します。
- ④ 針板ふた／内かま
針板ふたを開けて、中の内かまにポピンをセットします。
- ⑤ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑥ 押え
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
- ⑦ 押えホルダー
ここに押えを取り付けます。
- ⑧ 押えホルダーのネジ
押えホルダーを固定します。(B-30 参照)
- ⑨ ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりやかんどめをするときに使用します。

操作スイッチ



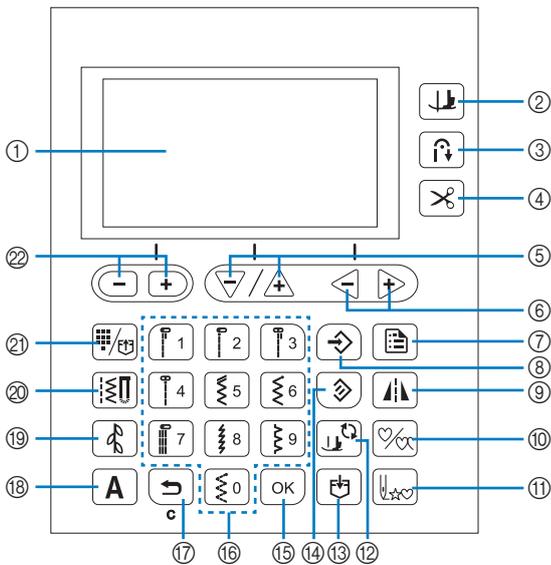
- ① スタート/ストップスイッチ (スタート/ストップ)
ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった(布地に刺さった)状態で止まります。詳細は、B-32の「基本のぬい方」で説明します。
スイッチはミシンの状態によって色が変わります。
緑： スタートできる状態のとき／縫製中
赤： スタートできない状態のとき
橙： 下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき
- ② 返しぬいスイッチ (返しぬい)
返しぬいを行う直線またはジグザグ模様の場合、このスイッチを押している間だけ低速で返しぬいをします(逆方向にぬいます)。そのほかの模様では、ぬい始めやぬい終わりの止めぬいをするときに使います。このスイッチを押し続けると、同じ場所で3針重ねてぬって止まります。(B-36 参照)
- ③ 止めぬいスイッチ (止めぬい)
このスイッチを押すと1針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。(B-36 参照)
- ④ 針上下スイッチ (針上下)
このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。繰り返し押し続けると、1針ぬいができます。
- ⑤ 糸切りスイッチ (糸切り)
ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切ります。詳細は、B-34の「模様をぬう」の手順⑩を参照してください。
- ⑥ 押え上下スイッチ (押え上下)
このスイッチを押すと、押えが下がり布地を押さえます。もう一度押し続けると押えが上がります。
- ⑦ スピードコントロールレバー
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

⚠ 注意



- 糸を切った後に(糸切りスイッチ)を押さないでください。針が折れたり糸がからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネルと操作キー



* 印のキーは、押すと点灯します。

- ① **液晶画面**
選択した模様の設定値や、操作を誤ったときのエラーメッセージが表示されます。
詳細は、B-9の「液晶画面」を参照してください。
- ② **ピボットキー** *
ミシンをピボットモードに設定するときに押します。
- ③ **自動返しぬい／止めぬいキー** *
自動返しぬい／止めぬいを設定するときに押します。
- ④ **自動糸切りキー** *
自動糸切りを設定するときに押します。
- ⑤ **ぬい目の長さ調節キー／設定項目選択キー**
ぬい目の長さを調節するときや、設定画面で設定する項目を選択するときに押します。
- ⑥ **糸調子キー／設定値選択キー**
上糸調子を調節するときや、設定画面で設定値を選択するときに押します。
- ⑦ **設定キー**
設定画面を表示するときや設定画面で次のページへ移動するときに押します。
- ⑧ **模様設定記憶キー**
振り幅やぬい目の長さ、糸調子の設定を記憶させておくときに押します。
- ⑨ **左右反転キー**
選択した模様を左右反転させるときに押します。
- ⑩ **連続／単独ぬいキー**
連続ぬいか単独ぬいかを選ぶときに押します。
- ⑪ **模様の頭出しキー**
停止時に押すと、縫製中の模様を先頭に戻すことができます。
- ⑫ **針・押え交換キー**
針や押えを交換するときなどに押します。ミシンが作動しないように他のすべてのキーと操作スイッチがロックされます。
- ⑬ **組み合わせ模様記憶キー**
組み合わせた模様を記憶することができます。
- ⑭ **模様設定リセットキー**
選択した模様の設定を初期値に戻すときに押します。
- ⑮ **OK キー** **OK**
選択した内容を確認したり、操作を実行するときに押します。
- ⑯ **数字キー**
使う頻度の高い10模様の中からひとつを選択するときに押します。
その他の模様を選ぶ際は、模様番号を入力するのに使います。

- ⑰ **戻るキー** **⏪**
操作をキャンセルし、液晶画面の表示を1つ前に戻すときに押します。
文字模様、飾り模様の組み合わせの際は、最後に追加した模様を削除するときに押します。
- ⑱ **文字模様キー** **A***
文字模様を選択するときに押します。
- ⑲ **飾り模様キー** *
飾り模様を選択するときに押します。
- ⑳ **実用模様キー** *
実用模様を選択するときに押します。
- ㉑ **ダイレクト選択／模様呼び出しキー** *
数字キーに割り当てられた実用模様をダイレクト選択するとき、または記憶しておいた模様を呼び出すときに押します。
- ㉒ **振り幅調節キー／設定画面ページ選択キー** **-** **+**
模様の振り幅を調節するときや、設定画面で前後のページへ移動するときに押します。

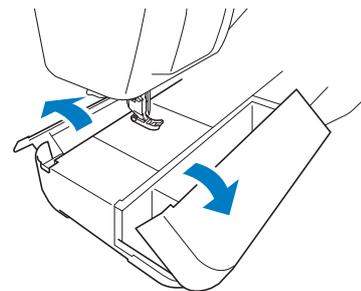


お願い

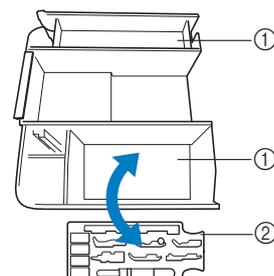
- 操作キーは静電容量式タッチセンサーです。指で直接触れて操作してください。操作する人によって反応が異なりますが、キーを押す強さによって反応が変わるわけではありません。
- 操作キーは操作する人によって反応が異なりますので、感度設定を調節して使用してください。（B-12 参照）
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、タッチペンの先が8mm以上のものを使用してください。先の細いタッチペン、特殊な形状のタッチペンは使用しないでください。

補助テーブル

補助テーブルの中に付属品を収納することができます。図のようにふたを開けてください。



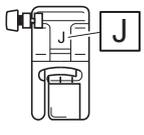
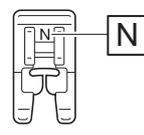
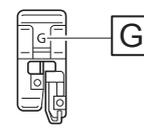
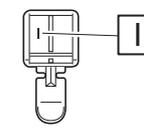
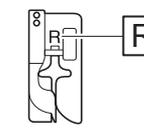
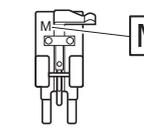
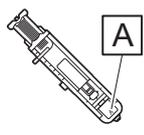
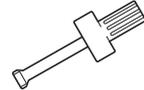
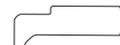
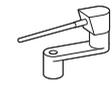
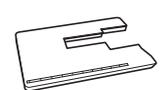
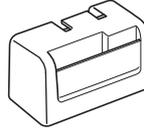
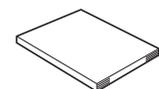
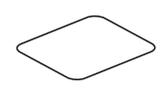
補助テーブルの付属品収納スペースの中には、押え収納トレイが入っています。



- ① 補助テーブルの中の付属品収納スペース
- ② 押え収納トレイ

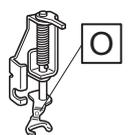
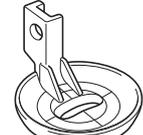
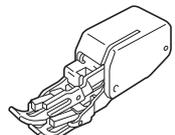
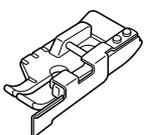
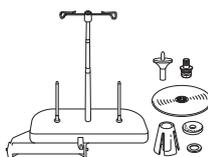
付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

<p>1.</p>  <p>ジグザグ押え<J> (ミシンに取り付けてあります)</p>	<p>2.</p>  <p>模様ぬい押え<N></p>	<p>3.</p>  <p>たち目かがり押え<G></p>	<p>4.</p>  <p>片押え<I></p>	<p>5.</p>  <p>まつりぬい押え<R></p>	<p>6.</p>  <p>ボタン付け押え<M></p>
<p>7.</p>  <p>ボタン穴かがり押え<A></p>	<p>8.</p>  <p>ミシン針 (HA×1) 黄 # 11 (2本) 赤 # 14 (2本) 緑 # 16 (1本) ニット用・金 # 11 (1本)</p>	<p>9.</p>  <p>2本針 #11</p>	<p>10.</p>  <p>ボビン<4個> (1つはミシンのかまにセットされています)</p>	<p>11.</p>  <p>リッパー</p>	<p>12.</p>  <p>ミシンブラシ</p>
<p>13.</p>  <p>はとめ穴パンチ</p>	<p>14.</p>  <p>ドライバー (大)</p>	<p>15.</p>  <p>L型ネジ回し</p>	<p>16.</p>  <p>ネジ回し</p>	<p>17.</p>  <p>補助糸たて棒</p>	<p>18.</p>  <p>糸こま押え (大)</p>
<p>19.</p>  <p>糸こま押え (中) <2個> (ひとつはミシンの糸たて棒にセットされています)</p>	<p>20.</p>  <p>糸こま押え (小)</p>	<p>21.</p>  <p>糸こま押え (特殊)</p>	<p>22.</p>  <p>糸こまネット</p>	<p>23.</p>  <p>フットコントローラー (型式: MODEL T)</p>	<p>24.</p>  <p>ワイドテーブル</p>
<p>25.</p>  <p>ニーリフター</p>	<p>26.</p>  <p>付属品バッグ</p>	<p>27.</p>  <p>ハードケース</p>	<p>28.</p>  <p>マイラスト用紙</p>	<p>29.</p>  <p>取扱説明書</p>	<p>30.</p>  <p>かんたん操作ガイド</p>
<p>31.</p>  <p>ニーリフター</p>	<p>模様一覧</p>				

別売品

別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

1.  オープンフット押し <O> (モデル名: F061J)	2.  エコフット押し<E> (モデル名: XE0766-001)	3.  フリーモーションフット押し <C> (モデル名: XE0765-001)	4.  ウォーキングフット (モデル名: F033)	5.  ガイド付きピーシング押し (モデル名: F057)	6.  フィルタ (モデル名: F016N)
7.  直線針板と直線押し (モデル名: SNP02AP)	8.  ボビン (モデル名: B051 (5個入り)) (モデル名: B101 (10個入り))	9.  糸立てスタンド (モデル名: TS7AP)	10.  マルチ機能フット コントローラ (モデル名: MFFC2AP)		



お知らせ

- 仕様は予告なしに変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

電源の入れ方

⚠ 警告

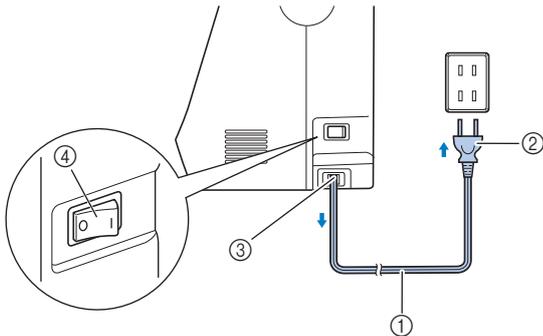
- 一般家庭用電源 **AC100V** の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 使用中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

- 1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。
- 2 電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



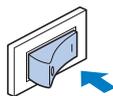
- ① 電源コード
- ② 電源プラグ
- ③ 赤い印
- ④ 電源スイッチ



お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（|側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面、スタート/ストップスイッチが点灯します。

お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。
- 縫製中に電源が切れると、再度電源を入れなおしても、ミシンは縫製の中断点を記憶していません。もう一度初めから縫製の手順を行ってください。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。
- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（○側）を押して「切」にします。



- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。
電源プラグを持って抜いてください。
- 4 電源コードを少し引っ張って手を離し、収納します。

ミシンを初めて使うとき

初めて本機の電源を入れたときは、液晶画面に表示する言語を設定します。設定画面が自動で表示されますので、以下の手順に従って設定してください。

- 1 ◀ ▶を押して、言語を選択します。

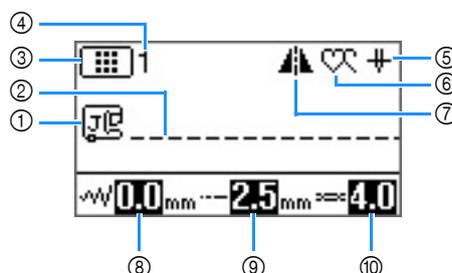


- 2 OKを押します。

液晶画面

液晶画面の見方

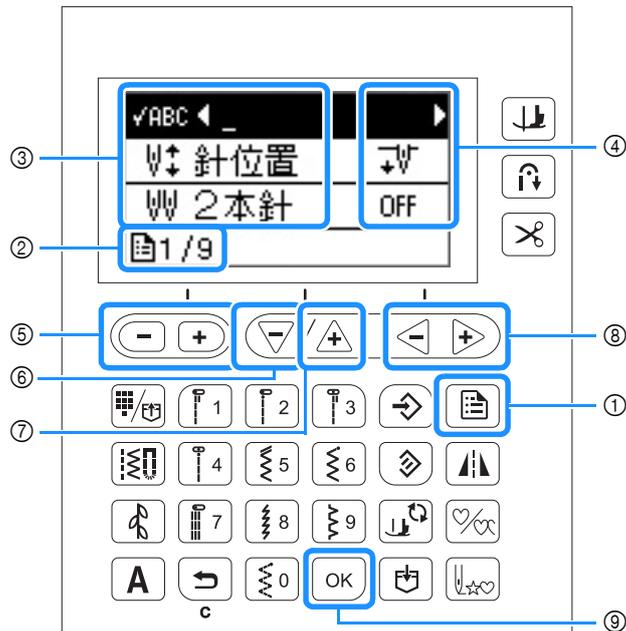
電源を入れると、液晶画面が点灯し、以下のような画面が表示されます。
表示されている内容を変更するには、画面の下にある操作キーを使います。



No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①		押え表示	選択中の模様に対し、使用する押えを表示します。 * 片押え<I>やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。	B-29
②	-	模様イメージ	選択中の模様イメージを表示します。	B-33
③		模様カテゴリ表示	選択中の模様カテゴリを表示します。 : 実用ダイレクト選択模様 : 実用模様 : 飾り模様 (カテゴリ-1) : 飾り模様 (カテゴリ-2) : 飾り模様 (カテゴリ-3) : 文字模様 (ゴシック体) : 文字模様 (筆記体) : 文字模様 (アウトライン文字) : 文字模様 (キリル文字) : 文字模様 (ひらがな/カタカナ/数字/漢字)	B-32
④	-	模様番号表示	選択中の模様番号を表示します。	B-46
⑤		針位置設定表示	1本針と2本針のどちらに設定されているかを表示します。針位置が上下どちらに設定されているかも表示します。 : 1本針/針位置下 : 1本針/針位置上 : 2本針/針位置下 : 2本針/針位置上	B-10
⑥		連続/単独ぬい設定表示	単独ぬいと連続ぬいのどちらに設定されているかを表示します。 : 単独ぬい : 連続ぬい	D-5
⑦		左右反転設定表示	模様が左右反転されているときに表示されます。	B-41
⑧		振り幅設定表示	選択中の模様設定されている振り幅を表示します。	B-38
⑨		ぬい目の長さ設定表示	選択中の模様設定されているぬい目の長さを表示します。	B-38
⑩		糸調子設定表示	選択中の模様設定されている糸調子を表示します。	B-39

設定画面

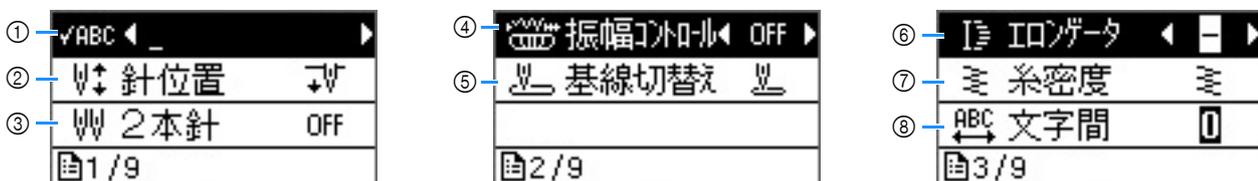
を押すと、設定画面が表示され、ミシンのさまざまな設定を変更することができます。



- ① 設定画面を表示するときに押します。また、再度を押すと、設定画面の次のページに移動します。
- ② 現在表示しているページ数と総ページ数を示します。
- ③ 選択している設定項目が反転表示されます。
- ④ 設定項目の値（設定状態）が表示されます。
- ⑤ 設定画面のページを移動させるときは、またはを押します。
- ⑥ 次の設定項目に移動するとき、（下矢印）を押します。
- ⑦ 前の設定項目に移動するには、（上矢印）を押します。
- ⑧ 選択した設定項目の値を変更するとき、（左矢印）または（右矢印）を押します。
- ⑨ 設定が終わったらを押します。元の画面に戻ります。

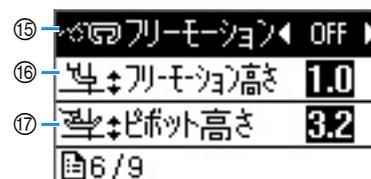
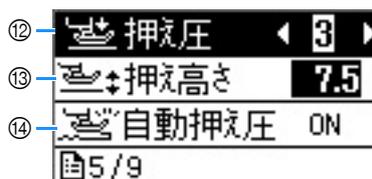
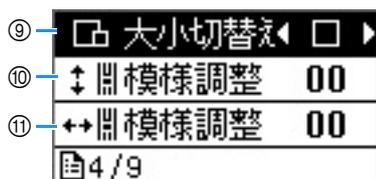
お知らせ

- 変更した設定は、電源を切ってもミシンに記憶されています。

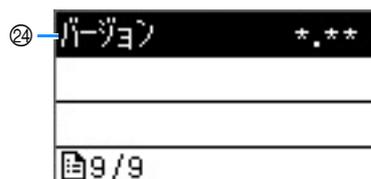


- ① 模様全体が画面に表示しきれない場合に、模様を確認するのに使用します。（「文字・飾りぬい編」の「模様を確認する」参照）
- ② ミシンが停止したときの針位置（上／下）を選択します。
- ③ 2本針を使用するときに「ON」に設定します。（B-23の「2本針を使用する」参照）
- ④ この設定を「ON」にすると、スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅調節レバーに切り替わります。（「実用ぬい編」の「振り幅コントロールを使用したサテンぬい」参照）
- ⑤ 電源を入れたときに自動的に選択される模様として、「1 直線（左基線）」または「3 直線（中基線）」を選択します。
- ⑥ 7mm サテンステッチの模様を選択しているときに、模様の長さを変更します。（「文字・飾りぬい編」の「模様の長さを変える」参照）

- ⑦ 大型サテンステッチの模様を選択しているときに、糸の密度を変更します。（「文字・飾りぬい編」の「模様の密度を変える」参照）
- ⑧ 文字模様の文字間を変更します。（「文字・飾りぬい編」の「文字間を変更する」参照）



- ⑨ 模様のを大きさを変更します。（「文字・飾りぬい編」の「模様のを大きさをえる」参照）
- ⑩ 模様をたて方向に調整します。（「文字・飾りぬい編」の「模様のを調整をする」参照）
- ⑪ 模様をよこ方向に調整します。（「文字・飾りぬい編」の「模様のを調整をする」参照）
- ⑫ 押え圧を調節します。数字が大きいほど押え圧は強くなります。（B-42の「押え圧を調節する」参照）
- ⑬ 押えが上がった状態の、押えの高さを調節します。
- ⑭ この設定を「ON」にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取って、スムーズに布送りすることができます。（B-42の「自動押え圧補正」参照）
- ⑮ フリーモーションモードでぬうときに「ON」にします。^{*1}（B-44の「フリーモーションモードでぬう」参照）
- ⑯ フリーモーションモードに設定したときの、押えの高さを設定します。^{*1}（B-44の「フリーモーションモードでぬう」参照）
- ⑰ ピボット機能を有効にしたときの、縫製停止時の押えの高さを変更します。（B-43の「ピボット」参照）
- ^{*1} このモードを使用するためには別売の押え（オープントゥキルト押え<O>、フリーモーションキルト押え<C>、またはエコーキルト押え<E>）が必要です。



- ⑱ 操作音のON/OFFを選択します。（「付録」の「電子音」参照）
- ⑲ ミシンのライトのON/OFFを選択します。
- ⑳ 液晶画面の明るさを調節します。
- ㉑ この設定を「ON」にして止めぬいをする模様をぬうと、ぬい始め/ぬい終わりに、返しぬいスイッチを押しても止めぬいをします。（B-36の「自動で返しぬい/止めぬいをする」参照）
- ㉒ 操作キーの感度を調節します。（B-12の「操作キーの感度を調節する」参照）
- ㉓ 液晶画面に表示される言語を設定します。（B-12の「表示言語を設定する」参照）
- ㉔ ミシンにインストールされているプログラムのバージョンです。

お知らせ

- 元の画面に戻るには、またはを押します。

表示言語を設定する

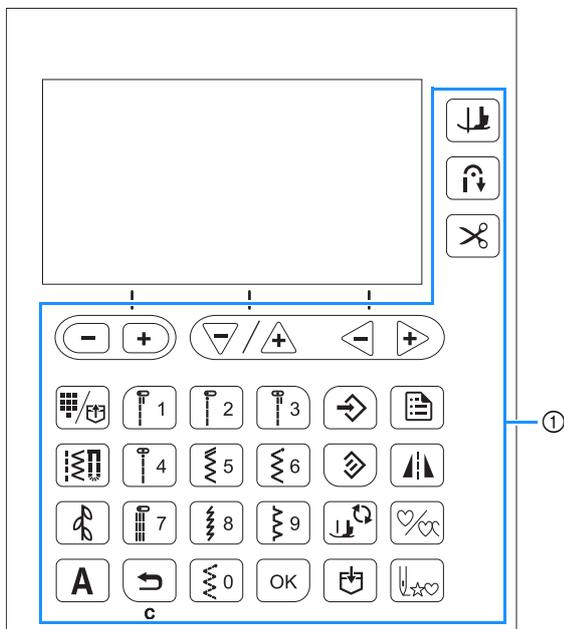
- 1 [設定]を押して、設定画面の8ページを表示します。
- 2 [下]/[上]を押して、[言語設定] (言語設定) を選択します。
- 3 [左]/[右]を押して、言語を選択します。



- 4 [戻る]を押して、元の画面に戻ります。

操作キーの感度を調節する

操作キーの感度は、5段階から選択することができます。設定画面で、使いやすい感度を選択してください。



① 操作キー

- 1 [設定]を押して、設定画面の8ページを表示します。

- 2 [下]/[上]を押して、[キーの感度] (キーの感度) を選択します。
- 3 [左]/[右]を押して、感度を調節します。
 - 数値が低いほど感度は低くなり、数値が高いほど感度は高くなります。初期設定値は、3です。



お知らせ

- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、感度を最高に設定することをお勧めします。

■ 操作キーを押してもミシンが動かないときは

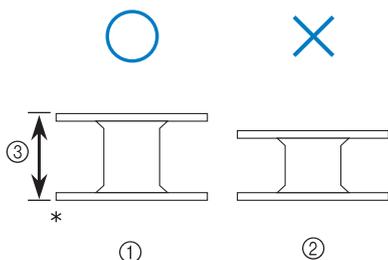
[電源] (糸切りスイッチ) を押しながらミシンの電源を入れてください。キーの感度の設定がリセットされます。その後、設定の画面で、感度の調節をしてください。

下糸の準備

⚠ 注意

- 付属のボピンは本機純正品です。純正ボピンをご使用ください。純正品以外の付属品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。

※ 純正品以外のものすべてが必ず不具合を起こすわけではありません。



* プラスチック製

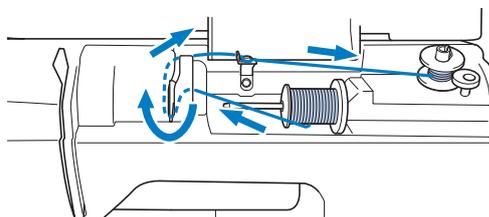
- ① 純正品
- ② 厚みの違うボピン
- ③ 11.5mm

📖 お知らせ

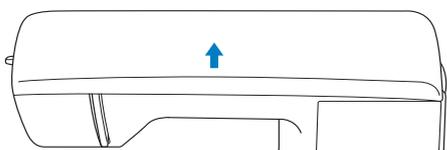
- フットコントローラーが接続されている場合は、下糸巻きのスタートとストップはフットコントローラーで操作します。フットコントローラーの使い方については、B-35の「フットコントローラーを使う」を参照してください。

下糸を巻く

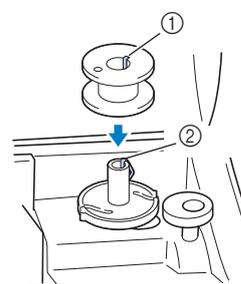
下糸用の糸をボピンに巻きます。



- 1 上ふたを開けます。

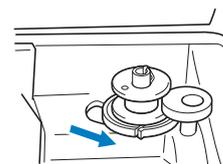


- 2 ボピンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボピンを下糸巻き軸にカチッとハマるまで差し込みます。

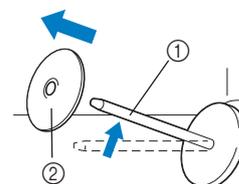


- ① ミゾ
- ② 下糸巻き軸のバネ

- 3 ボピンを右側へカチッと音がするまで押し込みます。

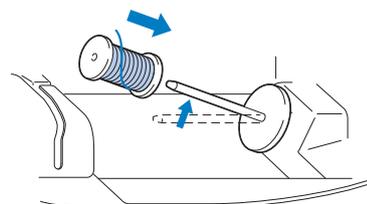


- 4 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



- ① 糸たて棒
- ② 糸こま押え

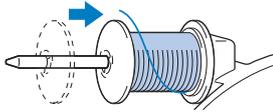
- 5 下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。
糸が手前から出るように差し込みます。



- 糸こまを正しい向きにセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。

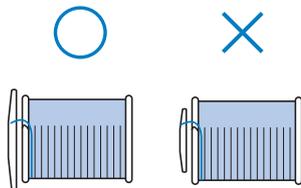
6 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒を元の平行の位置に戻します。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



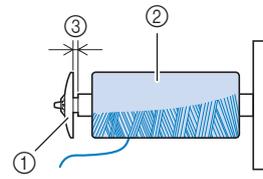
⚠ 注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。
- 糸こま押え (大) (中) (小) は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。また、使用する糸こまによっては、糸こま押え (特殊) を使用します。



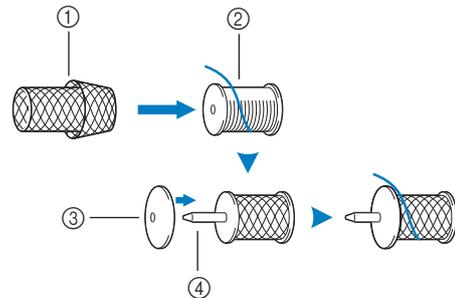
📖 お知らせ

- 下図のような糸こまを使用するときは、糸こま押え (小) を使用し、糸こま押えと糸こまとの間に少しすきまを残してください。



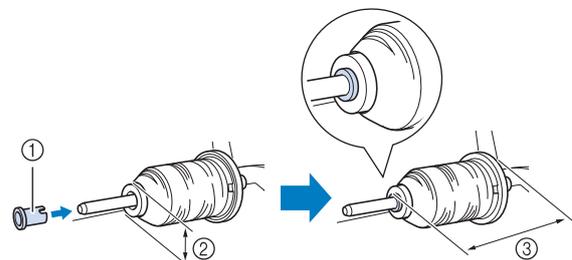
- ① 糸こま押え (小)
- ② 糸こま
- ③ すきま

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



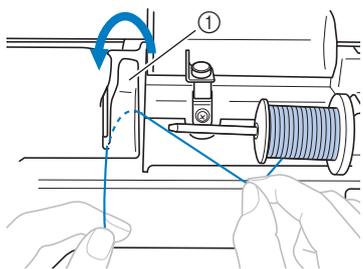
- ① 糸こまネット
- ② 糸こま
- ③ 糸こま押え
- ④ 糸たて棒

- 高さ 75mm、芯の直径が 12mm の糸こまを使用する場合は、付属の糸こま押え (特殊) を使用してください。



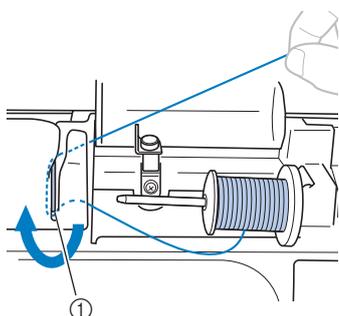
- ① 糸こま押え (特殊)
- ② 12mm
- ③ 75mm

- 7 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



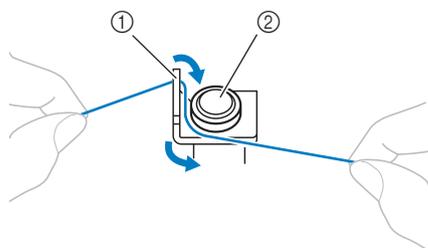
① 糸案内カバー

- 8 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 9 下糸巻き案内の凸部の下から糸をかけて、皿の下に通します。

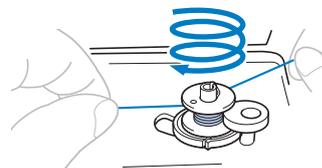


- ① 下糸巻き案内
② 皿
③ しっかり奥まで入れるようにひっぱります。

**お願い**

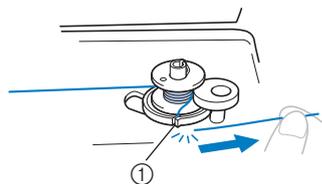
- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

- 10 糸を時計まわりに5～6回ボビンに巻きつけます。引き出した糸がたるまないように左手で糸を持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。

**お願い**

- 糸は、必ずピンと張った状態にしてください。
- 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

- 11 糸端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切ります。

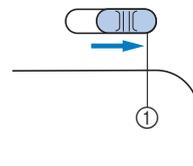


① ガイドミゾ (カッター付)

注意

- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 12 スピードコントロールレバーを右側 (はやく) へ動かします。



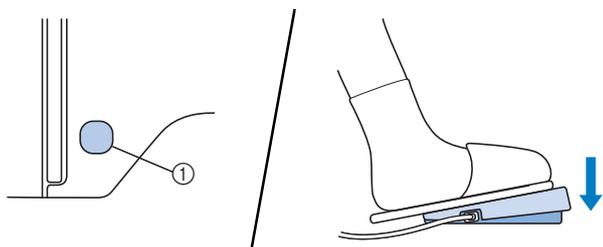
① スピードコントロールレバー

**お知らせ**

- 糸を巻くスピードは、糸によって異なります。

- 13 電源を入れます。

- 14 スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをスタートします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。



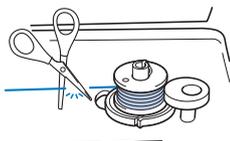
① スタート/ストップスイッチ

- 15 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをストップします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。

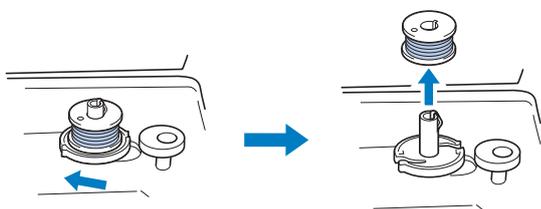
⚠ 注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。無理に続けると故障の原因となります。

- 16 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 17 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビン抜きます。



📖 お知らせ

- ボビンが右側になっている状態では、針が動かず、縫製ができません。

- 18 スピードコントローラーを元の位置に戻します。

- 19 糸こまを糸たて棒から外します。

📖 お知らせ

- 下糸を巻いた後にミシンをスタートさせたりプーリーを回したりすると、ガチャッという音がすることがありますが、故障ではありません。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。

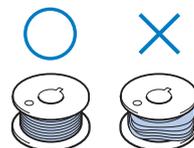
ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。

📖 お知らせ

- ギャザーなどをぬうとき、フリーモーションキルト*をするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、B-23の「下糸を引き出す」を参照してください。
*フリーモーションキルトをする場合は、別売の押えが必要です。

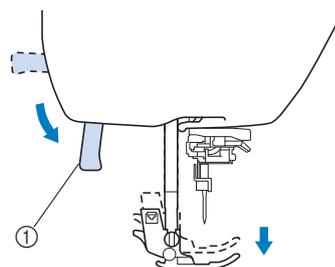
⚠ 注意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



- 下糸をセットするときや交換するときは、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押してください。 が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 1 押えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

2 ④ (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

3 ④ を押します。

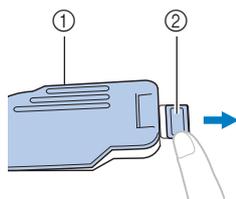
- 押えが上がった状態で④を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。

→ 画面が以下のように変わり、④以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



4 押えレバーを上げます。

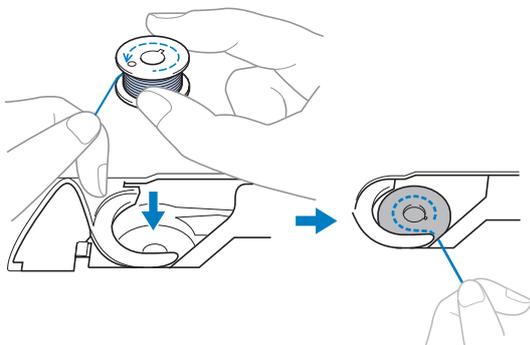
5 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせます。



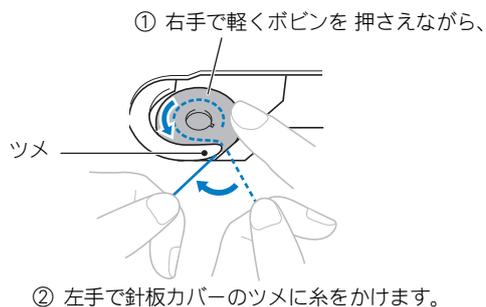
- ① 針板ふた
- ② つまみ

6 針板ふたを取り外します。

7 糸が左巻きになるように右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま、右手でボビンをかまに入れます。



8 右手でボビンを軽く押さえながら ①、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます ②。

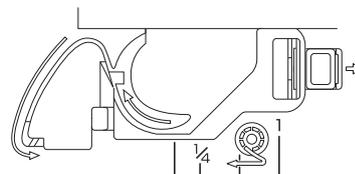


注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

お知らせ

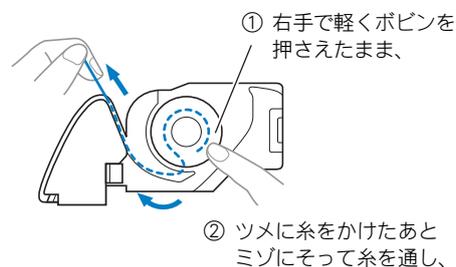
- ボビンのセットのしかたは、針板カバーにも表示されています。必ず、表示されているとおりに糸を通してください。



9 右手でボビンを軽く押さえたまま ①、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し ②、左上で糸を軽くひっぱります ③。

- 内かまの板バネに糸が入ります。

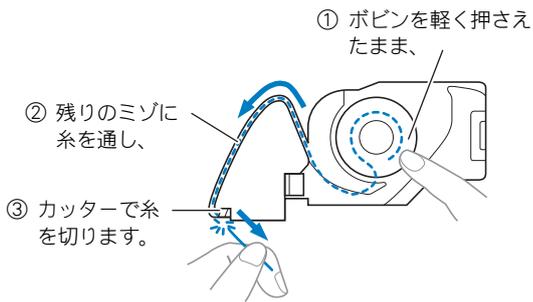
③ 左上で糸を軽くひっぱります。



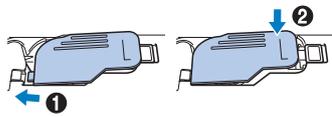
- ① 右手で軽くボビンを押さえたまま、

- ② ツメに糸をかけたあとミゾにそって糸を通し、

- 10 右手でボビンを軽く押さえたまま ①、左手で残りのミゾに糸を通します ②。最後に手前に引いてカッターで糸を切ります ③。



- 11 針板ふたを元に戻します。
針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



→ 下糸のセットが完了します。

次に、上糸を通します。引き続き B-19 の「上糸通し」を参照してください。



お知らせ

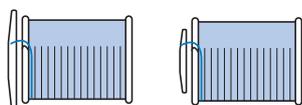
- 下糸を引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、B-23 の「下糸を引き出す」を参照してください。

- 12 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

上糸通し

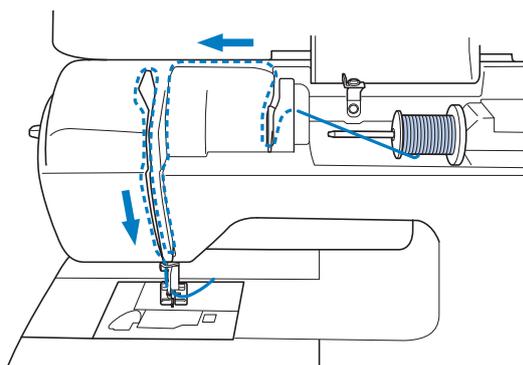
⚠ 注意

- 糸こま押え (大) (中) (小) は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。また、使用する糸こまによっては、糸こま押え (特殊) を使用します。適切な糸こま押えの選び方については、B-14 を参照してください。



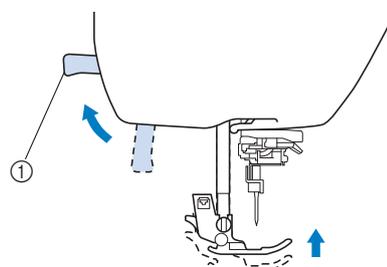
- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 針と糸は、B-26 の「布地と糸の種類による針の使い分け」を参照して、適切な組み合わせでお使いください。

上糸を通す



1 電源を入れます。

2 押えレバーで押えを上げます。



① 押えレバー

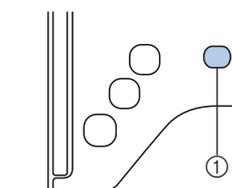
→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。



お願い

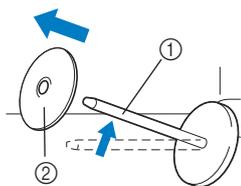
- 押えを上げてください。押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

3 ⬆ (針上下スイッチ) を 1 回または 2 回押して、針を上げます。



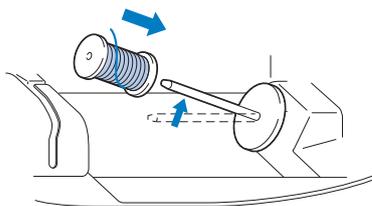
① 針上下スイッチ

- 4 糸たて棒を起こし、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



- ① 糸たて棒
② 糸こま押え

- 5 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。糸が手前から出るように差し込みます。

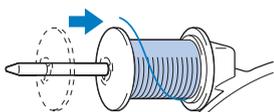


⚠ 注意

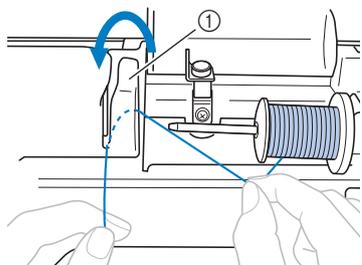
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。

- 6 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒を元の平行の位置に戻します。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

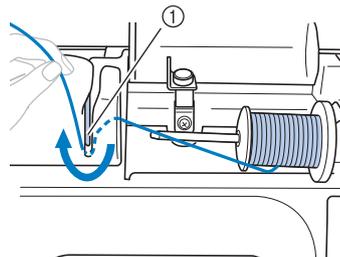


- 7 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



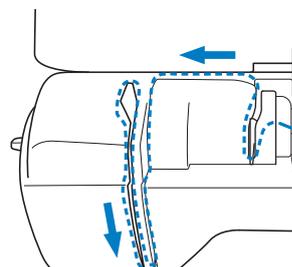
- ① 糸案内カバー

- 8 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



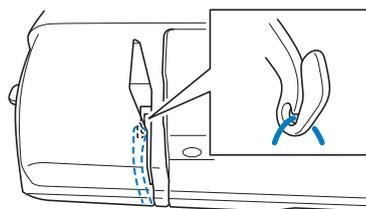
- ① 糸案内板

- 9 矢印のように、ミゾにそって糸を通します。引き出した糸をたるまないように右手で持ち、左手で糸を通します。



💡 お願

- 押えを上げるとシャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- このミシンには、てんびんの位置を確認する窓があります。てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



- 10 押えを下げます。

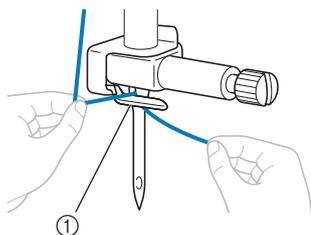
- 11  を押します。

- 押えが上がった状態で  を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
- 画面が以下のように変わり、 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



12 針棒系かけに糸をかけます。

左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。



① 針棒系かけ

13 押えレバーを上げます。

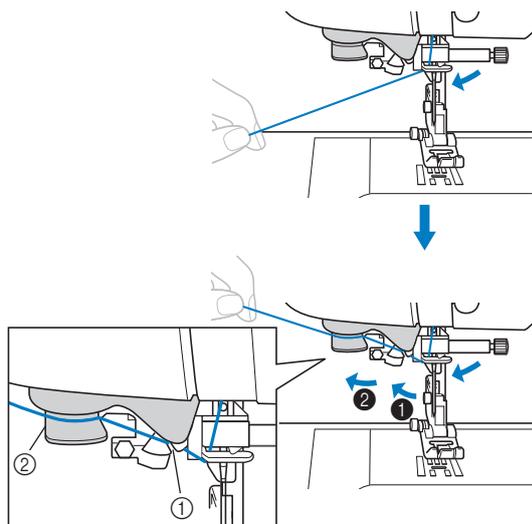
針に糸を通す

お知らせ

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- 別売りのウィングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、B-22の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。

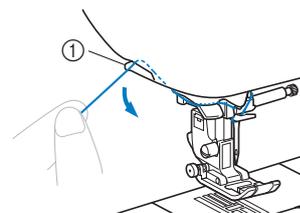
1 糸を左へ引いて、糸ガイドのミゾに通し(①)、糸案内皿(7のしるし)に糸をかけます(②)。

- 糸が糸ガイドのミゾを確実に通っていることを確認してください。



① 糸ガイドのミゾ
② 糸案内皿

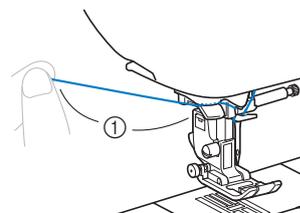
2 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。



① 糸切り

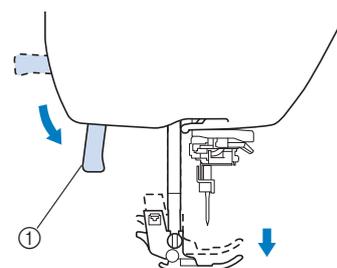
お願い

- 糸切りで糸がうまく切れないときは、押えを下げてから切ってください。糸が固定されて切りやすくなります。糸を切った後は④に進んでください。
- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿(7のしるし)に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を8cm以上引き出してください。



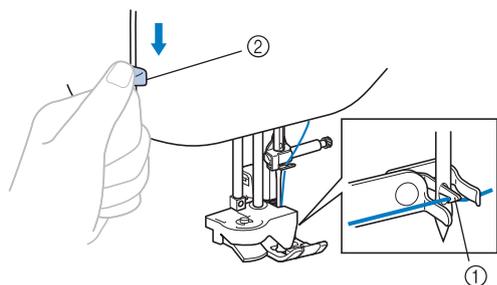
① 8cm以上

3 押えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

- 4 ミシン本体左側面の糸通しレバーをガチャと音がするまで下げ、ゆっくりと元へ戻します。



- ① フック
② 糸通しレバー

→ フックが回転し、針穴に糸が通ります。

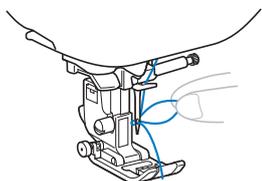


お願い

- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、プーリーを手前に回し、一番上まで上げてください。針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。B-19の手順③を参照してください。

- 5 針穴を通った糸をゆっくり引っ張ります。

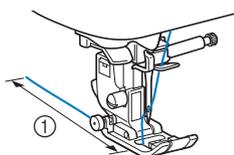
針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくり引っ張り、針穴から糸を引き出します。



注意

- 糸の輪を針穴から引き出すときは、ゆっくり引き出してください。強く引くと、針折れの原因となります。

- 6 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ5cmほど引き出します。



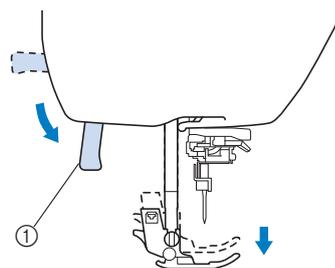
- ① 5cm

- 7 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

手で針に糸を通すとき

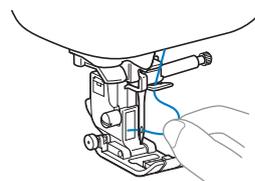
糸通し装置が使用できないナイロン透明糸や特殊な糸、別売のウィングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

- 1 針棒糸かけまで上糸を通します。
- 詳細は、B-19の「上糸通し」を参照してください。
- 2 押えレバーを下げます。



- ① 押えレバー

- 3 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



注意

- 手で針に糸を通すときは、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押してください。  が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをすることがあります。

- 4 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ5cmほど引き出します。

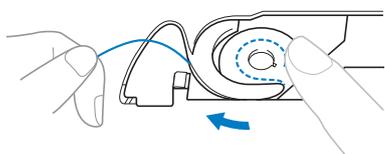
- 5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

下糸を引き出す

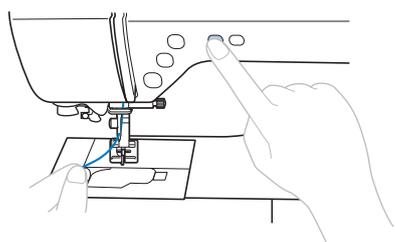
ギャザーなどをぬうとき、フリーモーションキルトをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

- 1 B-19の「上糸を通す」を参照して、針に糸を通します。
- 2 B-16の「下糸をセットする」の⑤～⑦を参照して、ボビンをかまに入れます。
- 3 引き出した糸をミゾにそって途中まで通します。

カッターで糸を切らないでください。

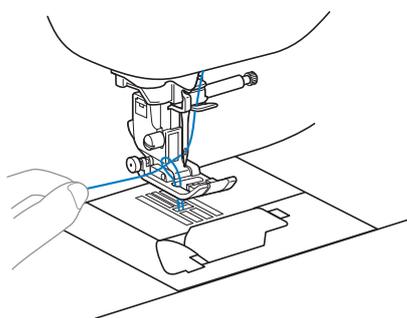


- 4 左手で上糸の端を軽く持ち、④（針上下スイッチ）を2回押して、針を上げます。

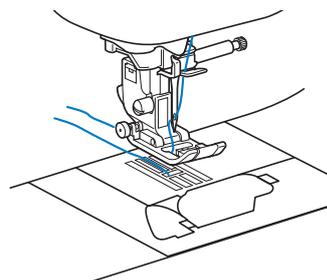


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

- 5 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。

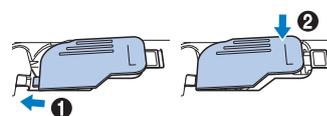


- 6 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



- 7 針板ふたを元に戻します。

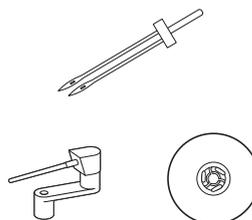
針板ふたのタブを針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



2本針を使用する

2本針を使用すると、2色の上糸で同じ模様をぬうことができます。上糸は同質で同じ太さのものを用意します。必ず2本針、補助糸たて棒と適切な糸こま押えを使用してください。

2本針でぬえる模様については、B-46の「ぬい方早見表」を参照してください。



⚠ 注意

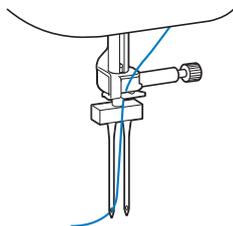
- 2本針は、ブラザー専用2本針を使用してください。
- 他の針を使用すると、針折れや故障の原因となります。曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

- 1 2本針を取り付けます。

- 詳細は、B-27の「針の交換」を参照してください。

- 2** 1本目の上糸を針棒糸かけに通します。
- 詳細は、B-19の「上糸を通す」の①～⑫を参照してください。

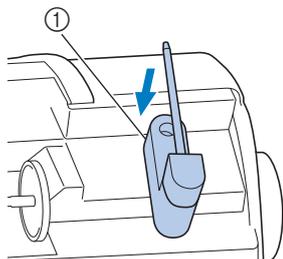
- 3** 1本目の上糸を手で左側の針に通します。
針穴の手前から後ろへ糸を通します。



⚠ 注意

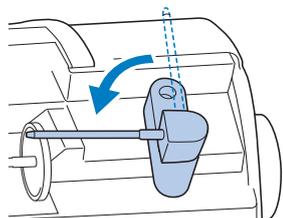
- 針に糸を通すときは、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押してください。 が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをすることがあります。

- 4** 補助糸たて棒を下糸巻き軸に差し込みます。
下糸巻き軸に対して垂直になるように差し込みます。

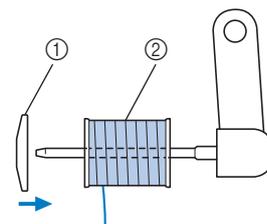


① 下糸巻き軸

- 5** 補助糸たて棒を左側へ倒します。

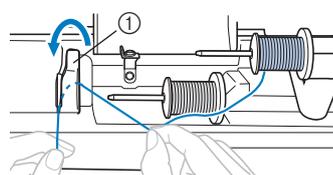


- 6** 2本目の上糸の糸こまと糸こま押えを補助糸たて棒に差し込みます。
糸が奥から出るように差し込みます。



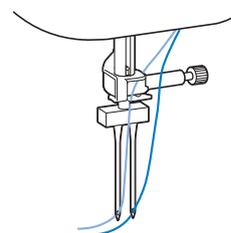
① 糸こま押え
② 糸こま

- 7** 1本目の上糸と同様に、2本目の上糸を通します。



① 糸案内カバー
• 詳細は、B-19の「上糸を通す」の⑦～⑨を参照してください。

- 8** 針棒糸かけにかけずに、2本目の上糸を手で右側の針に通します。
針穴の手前から奥へ通します。



- 糸通し装置を使用して2本針に上糸を通すことはできません。無理に使用すると故障の原因となります。

- 9** ジグザグ押え<J>を取り付けます。
- 押えの交換については、B-29の「押えを交換する」を参照してください。

⚠ 注意

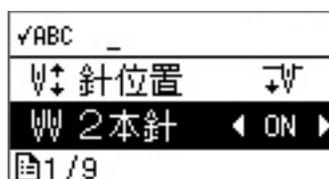
- 2本針を使用するときは、必ずジグザグ押え<J>を使用してください。ぬい目がつまるようなら、<N>押えを使用するか、別売の接着芯をつけてぬってください。

10 電源を入れて、模様を選択します。

- 模様の選択については、B-34の「模様をぬう」を参照してください。
- 2本針を使用できる模様については、B-46の「ぬい方早見表」を参照してください。

注意

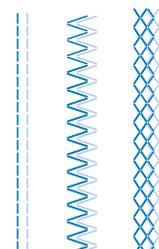
- 2本針を使用するときは、必ず2本針が使用できる模様を選択してください。2本針が使用できない模様を選択すると、針折れや故障の原因となります。

11 を押して、設定画面を表示します。**12**  (2本針) を「ON」に設定します。**13** を押します。**注意**

- 2本針を使用するときは、必ず2本針の設定をしてください。設定せずに2本針を使用すると、針折れや故障の原因となります。

14 ミシンをスタートさせます。

- 詳細は、B-32の「基本のぬい方」を参照してください。
- 同じ模様が2本ぬわれます。

**お願い**

- ぬう方向を変えるときは、 (針上下スイッチ) を押して針を布地から抜いてから、押えを上げて布地を回転させてください

注意

- 布地に2本針が刺さったまま布地を回転させると、針折れや故障の原因となります。

布地と糸の種類による針の使い分け

- このミシンで使用できる針：家庭用ミシン針（HAx1 シリーズの太さ 9～16 番） 例） HAx1、HAx1SP など
- このミシンで使用できる糸：30～90 番
* 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選択してください。
 - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
 - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。針交換の目安は B-27 の「正しい針の見分け方」を参照してください。

* 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
* 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（B-38）

布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ mm
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ポイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル糸	60～90	9～11	細かいぬい目（1.8～2.5）
		綿糸、絹糸	50～80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンプレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル糸	60～90	11～14	普通のぬい目（2.0～3.0）
		綿糸、絹糸	50～60		
厚地	デニム（12オンス以上）、帆布 など	ポリエステル糸、綿糸	30	16	粗いぬい目（2.5～4.0）
	デニム（12オンス以上）、帆布、ツイード、コーデュロイ、ペロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル糸	60	14～16	
		綿糸、絹糸	30～50		
のびる布地（ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金）11～14	布地の厚みに応じて設定 * 伸びる布地に適した模様を選択をおすすめします。（「伸びる布地をぬう」（S-5））
ステッチをかける場合 * 20 番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル糸	30 50～60	14～16 11～14	布地の厚みに応じて設定

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14～16 番の針を使用します。

■ 文字模様・飾り模様をぬうとき（針・糸）

針は、薄地・普通地・伸びる布地のときは、ニット用針（金色）11 番、厚地のときは家庭用ミシン針 14 番を使用します。糸は 50～60 番を使用します。

⚠ 注意



- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9～11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

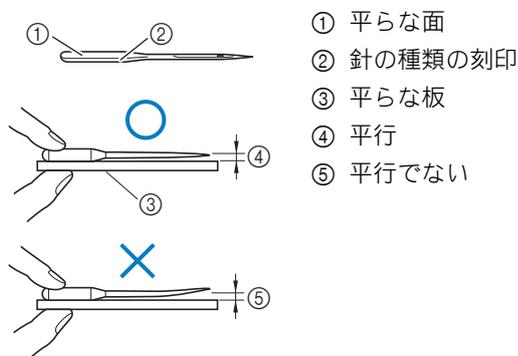
針の交換

⚠ 注意

- 針は必ず家庭用ミシン針（HA×1）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、ミシンが故障する原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをすることおそれがあります。

正しい針の見分け方

針を使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



💡 お願い

- 針は消耗品です。次の事例にあてはまるときは、針を交換して下さい。
 - 針が布地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッバスッなど）が出るとき（針先が折れていたりつぶれていたりする可能性があります。）
 - 目とびが起きるとき（針が曲がっている可能性があります。）
 - 目安として、洋服などを1作品ぬい終えたとき

針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- ④（針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。
- 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。



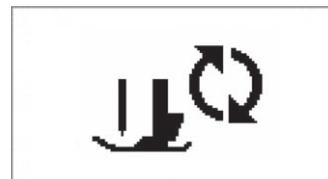
お願い

- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

- 押えを下げます。

- ⏮ を押します。

- 押えが上がった状態で⏮ を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。→ 画面が以下のように変わり、⏮ 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



⚠ 注意

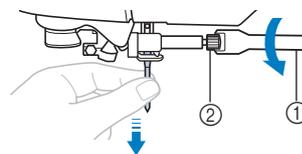


- 針は、必ず操作パネルの⏮（針・押え交換キー）を押してから交換してください。⏮ が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをすることおそれがあります。

- 付属のドライバー（大）で針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。

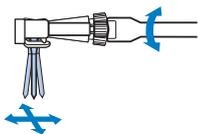
左手で針を持ち、右手でドライバーを手前（時計と反対回り）に回します。

- 針のとめネジは、L型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。

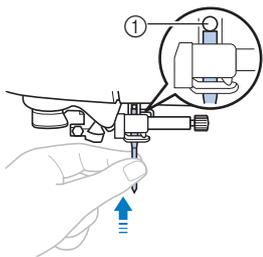


- ドライバー（大）
- 針のとめネジ

- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。故障の原因となります。

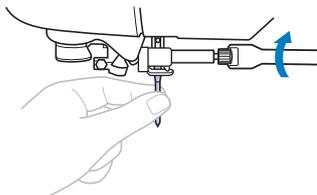


- 6** 平らな面が後ろ側になるように、新しい針を針棒に差し込みます。
針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



① 針棒のストッパー

- 7** 針のとめネジをしめます。
左手で針を支え、右手でドライバーを奥側（時計回り）に回します。



⚠ 注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

- 8** を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

押えの交換

⚠ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは純正品を使用してください。純正品以外の付属品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
※ 純正品以外のものすべてが必ず不具合を起こすわけではありません。



押えを交換する

- ① (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。
- ② 押えレバーを下げます。
- ③  を押します。
 - 押えが上がった状態で  を押すと、エラーメッセージが表示されます。押えを下げてください。
 → 画面が以下のように変わり、 以外の操作キーと操作スイッチがすべてロックされます。



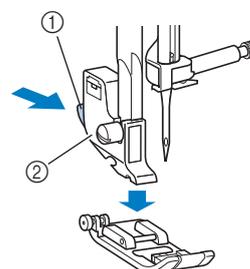
⚠ 注意



- 押えは、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押してから交換してください。  が押されていない状態でスタート/ストップスイッチまたは他のスイッチを押すと、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

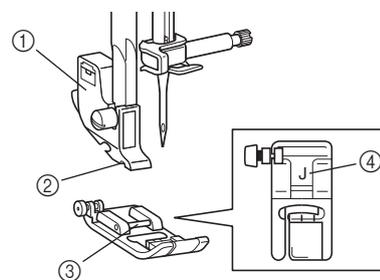
- ④ 押えレバーを上げます。

- ⑤ 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



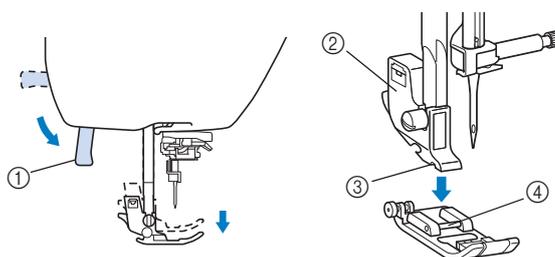
- ① 黒いボタン
- ② 押えホルダー

- ⑥ 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



- ① 押えホルダー
- ② ミゾ
- ③ ピン
- ④ 押え記号

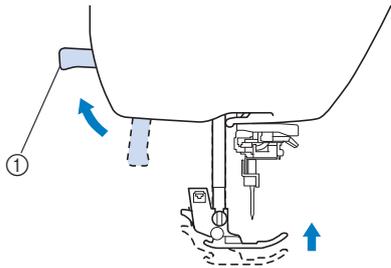
- ⑦ 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



- ① 押えレバー
- ② 押えホルダー
- ③ ミゾ
- ④ ピン

→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

- 8 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。



① 押えレバー

- 9 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、正しい押えを取り付けてください。



- ジグザグ押え < J >
- 模様ぬい押え < N >
- たち目がかり押え < G >
- ボタン穴かがり押え < A >
- まつりぬい押え < R >
- ボタン付け押え < M >
- サイドカッター押え < S > (別売)

- 各模様で使用する押えについては、B-46の「ぬい方早見表」を参照してください。

押えホルダーを取り外す／取り付ける

お手入れをするとき、また、別売のウォーキングフットやキルト押えなど、押えホルダーを使わない押えを使用するときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバー（大）を用意します。

■ 押えホルダーを取り外すとき

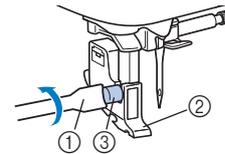
- 1 押えを取り外します。

- 詳細は、B-29の「押えを交換する」を参照してください。

- 2 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥側（時計と反対回り）に回します。

- 押えホルダーのネジは、L型ネジ回し（またはネジ回し）でも回すことができます。

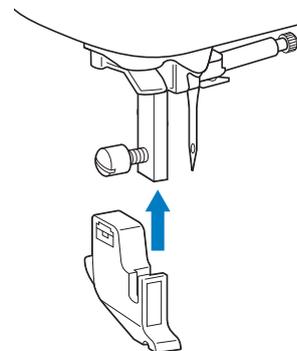


- ① ドライバー（大）
- ② 押えホルダー
- ③ 押えホルダーのネジ

■ 押えホルダーを取り付けるとき

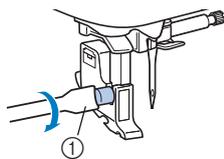
- 1 押えレバーを上げます。

- 2 押えホルダーを押え棒に合わせます。



3 押えホルダーのネジをしめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前（時計回り）に回します。



① ドライバー（大）

⚠ 注意

- 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。しめ方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

**お願い**

- 押えホルダーは正しく取り付けてください。正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

第2章 基本のぬい方

ぬってみましょう



注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押ししたりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

模様を選択方法

模様を選択するには、以下の方法があります。

ダイレクト選択：各模様に割り当てられたキーを押すことによって選択します。

番号選択：模様のカテゴリーを選択した後、番号を入力することによって選択します。

内蔵模様の種類については、別冊の「模様一覧」を参照してください。

■ダイレクト選択

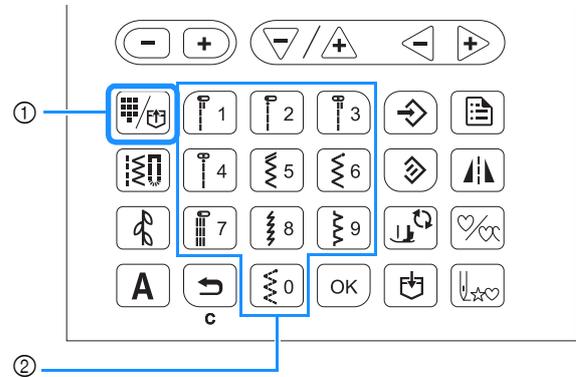
ダイレクト選択には以下の2つのモードがあります。を押すごとに、モードが切り替わります。

□ 実用ダイレクト選択模様

- よく使う実用模様を、数字キーにひとつずつ割り当ててあります。該当するキーを押すだけで、模様が選択できます。詳細は、B-51の「実用ダイレクト選択模様」を参照してください。

□ ミシンに記憶させた模様

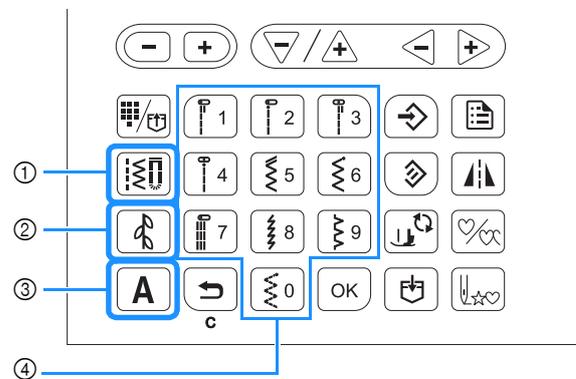
- よく使う模様や組み合わせた模様を、ミシンに記憶させておき、で呼び出すことができます。詳細は、「文字・飾りぬい編」の「模様を記憶させる」を参照してください。



- ① ダイレクト選択／模様呼び出しキー
- ② 数字キー

■番号選択

、またはを押して模様のカテゴリーを選んでから、数字キーを使って、ぬいたい模様の番号を入力します。



- ① 実用模様キー
- ② 飾り模様キー
- ③ 文字模様キー
- ④ 数字キー

□ 実用模様

直線、たち目かがり、ボタン穴かがりなど、さまざまな実用模様があります。

□ 飾り模様

飾り模様には1 ()、2 ()、3 ()の3つのモードがあります。詳細は、「文字・飾りぬい編」の「模様を選択する」を参照してください。

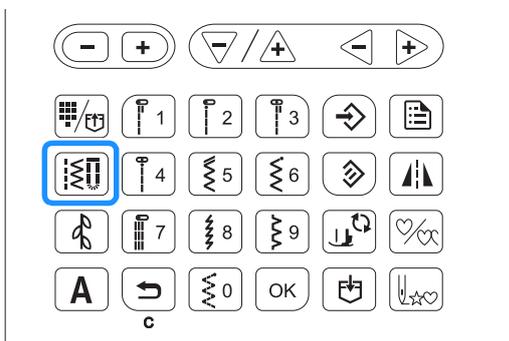
□ A 文字模様

文字模様には、ゴシック体 (A B)、筆記体 (C)、アウトライン文字 (A B)、キリル文字 (A B)、ひらがな/カタカナ/数字/漢字 (あ い) の5つのモードがあります。詳細は、「文字・飾りぬい編」の「模様を選択する」を参照してください。

模様を選択する

■ 実用模様を選択するとき

1 を押します。



→ 液晶画面の左上に が表示されます。



2 数字キーを使って、ぬいたい模様の番号を入力します。

- 各模様の番号については、B-46の「ぬい方早見表」または別冊の「模様一覧」を参照してください。
- 01～09番の模様については、番号を1桁で入力した後に を押すことでも入力できます。
- 番号を入力して間違えたときは、を押すと、入力した数字を消去できます。

→ 選択した模様が液晶画面に表示されます。



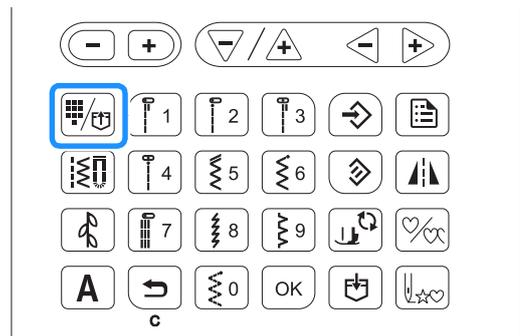
■ 実用ダイレクト選択模様を選択するとき

各数字キーにひとつずつ割り当てられている10模様は、該当の数字キーを押すだけで簡単に選択できます。

1 画面の左上に が表示されていることを確認します。



他のアイコンが表示されている場合は、を押します。



2 ぬいたい模様が割り当てられている数字キーを押します。

- 数字キーに割り当てられた模様については、B-46の「ぬい方早見表」または別冊の「模様一覧」を参照してください。

■ 文字模様/飾り模様を選択するとき

操作パネルの または を、必要な回数だけ押した後、番号を入力します。詳細は、「文字・飾りぬい編」の「模様を選択する」を参照してください。

模様をぬう

- 1 ミシンの電源を入れ、④（針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。
- 2 前項「模様を選択する」の手順に従って、ぬいたい模様を選択します。
- 3 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。
 - 振り幅とぬい目の長さの調節については、B-38の「振り幅を調節する」と「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。
- 4 押えを取り付けます。
 - 押えの交換については、B-29の「押えの交換」を参照してください。

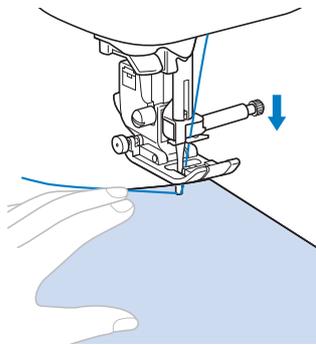
お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、正しい押えを取り付けてください。

注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。模様に適した押えについては、B-46を参照してください。

- 5 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プリーを回して、または④（針上下スイッチ）を押してぬい始め位置に針を刺します。

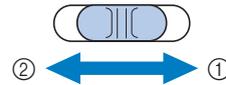


お知らせ

- ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンは、布地を送らないときや布地に段差があるときに使用します。（「実用ぬい編」の「厚い布地をぬう」参照）通常は黒いボタンを使わずにぬいます。

- 6 押えを下げます。
 - 下糸を引き出す必要はありません。
- 7 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

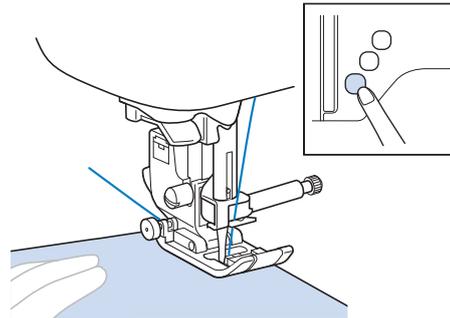
ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



- ① はやく
- ② ゆっくり

- 8 スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

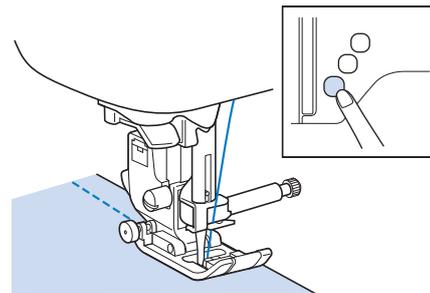
布地に軽く手を添えます。



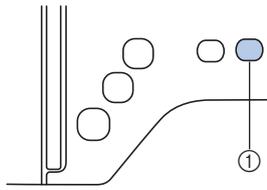
お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。

- 9 ぬい終わったら、もう一度スタート/ストップスイッチを押します。



- 10 (⊗) (糸切りスイッチ) を押して糸を切ります。



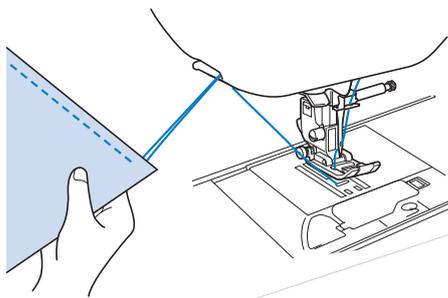
- ① 糸切りスイッチ
→ 針が自動的に上がります。

⚠ 注意

- 糸を切った後は、(⊗) (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときや、ミシンが動いているときは、(⊗) (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がらみや故障の原因となります。

💡 お願い

- ナイロン糸・メタリック糸など特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



- 11 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出します。

■ フットコントローラーを使う

フットコントローラーを使って、ミシンを操作することもできます。

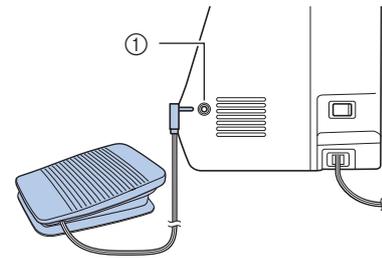
⚠ 注意

- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。

📖 お知らせ

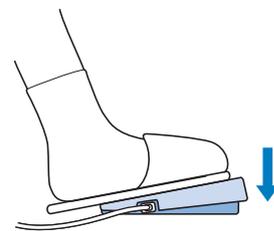
- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。下糸巻きも、フットコントローラーで操作します。

- 電源を切ります。
- ミシン本体右側面のフットコントローラージャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



① フットコントローラージャック

- 電源を入れます。
- フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。



📖 お知らせ

- スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調整することができます。

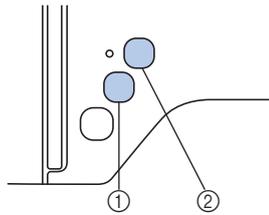
- ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

① (返しぬいスイッチ) を押している間、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。
(B-46の表の「返しぬいスイッチ」の欄を参照)

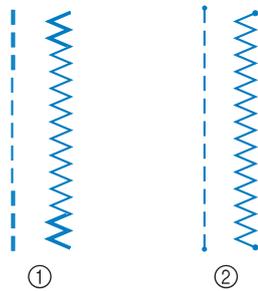
② (止めぬいスイッチ) を長押しすると、同じ場所で3～5針ぬってから止まります。



- ① 返しぬいスイッチ
- ② 止めぬいスイッチ

自動返しぬい／止めぬいが設定されているときは、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めるときに自動的に返しぬい（または止めぬい）がぬわれます。

ぬい終わりは、① (返しぬいスイッチ) または② (止めぬいスイッチ) を押し、返しぬいまたは止めぬいができます。



- ① 返しぬい
- ② 止めぬい

ミシンの動きは、選択している模様によって異なります。

次項「自動で返しぬい／止めぬいをする」を参照してください。

お知らせ

- 文字・模様ぬいをしているときに② (止めぬいスイッチ) を押し、模様の途中でスイッチが押されたときも、1模様がぬい終わってから止めぬいがぬわれます。
- 1模様がぬい終わるまでの間は、② (止めぬいスイッチ) の左横にある緑のランプが点灯します。止めぬいが終わると、ランプは消えます。

自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選んだときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておく、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい（模様によっては返しぬい）をします。

B-37の表を参照してください。

1 模様を選択します。

2 ① を押して、自動返しぬい／止めぬいを設定します。

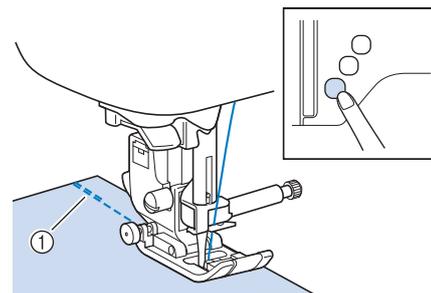


→ キーが点灯します。

お知らせ

- ボタン穴かがりやかんどめなどの一部の模様は、ぬい始めに止めぬいを行う必要があります。これらの模様は、止めぬいが自動的に設定されます（模様を選択するとキーが点灯します）。

3 ぬい始めの位置に針を刺し、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。



① 返しぬい（または止めぬい）

→ 自動的に返しぬい（または止めぬい）をしてぬい始めます。

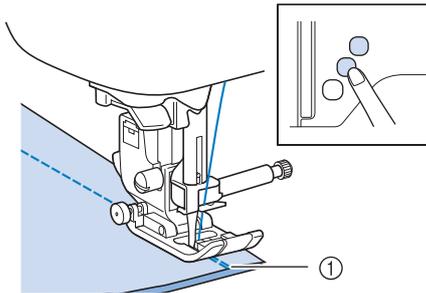
お知らせ

- 以下の模様を選んだ場合は、ぬい始めは自動的に返しぬいをします。



- ぬっている途中でスタート/ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止/再開できます。

4 ぬい終わりの位置まできたら、**↶** (返しぬいスイッチ) または **○** (止めぬいスイッチ) を押します。



- ① 返しぬい (または止めぬい)
→ 自動的に返しぬい (または止めぬい) をして止まります。

お知らせ

- 自動返しぬい/止めぬいを解除するときは、もう一度 **↶** を押します。解除されると、キークが消灯します。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、選択している模様によって異なります。次の表の説明を参照してください。

	返しぬいスイッチ ↶	止めぬいスイッチ ○
自動返しぬい/止めぬい = OFF で、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ~ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい = ON で、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で返しぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい = OFF で、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。*	止めぬいスイッチを押している間 3 ~ 5 針の止めぬいをします。

	返しぬいスイッチ ↶	止めぬいスイッチ ○
自動返しぬい/止めぬい = ON で、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、返しぬいをしてぬい終わります。 * (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい = OFF で、直線、ジグザグ以外の実用模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間 3 ~ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間 3 ~ 5 針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい = ON で、直線、ジグザグ以外の実用模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)
自動返しぬい/止めぬい = OFF で、文字模様・飾り模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間 3 ~ 5 針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい = ON で、文字模様・飾り模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押すと、止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)	止めぬいスイッチを押すと、1 模様を完成させてから止めぬいをしてぬい終わります。 (ぬい始めは自動で止めぬいをします。)

* 設定画面で **!** (止めぬい優先) を「ON」にしている場合は、返しぬいの代わりに止めぬいを行います。

模様の設定

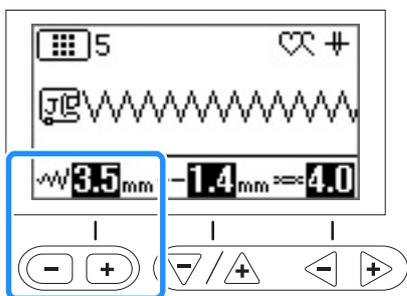
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さ、糸調子は、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変更することができます。

お知らせ

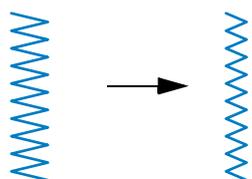
- 設定を変更した後に、ミシンの電源を切ったり他の模様を選択したりすると、元の数値に戻ります。設定を記憶させておきたいときは、B-40の「模様の設定を記憶させる」を参照してください。

振り幅を調節する

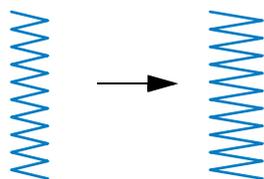
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



◀を押すごとに、ジグザグの幅がせまくなります。



▶を押すごとに、ジグザグの幅が広がります。



お知らせ

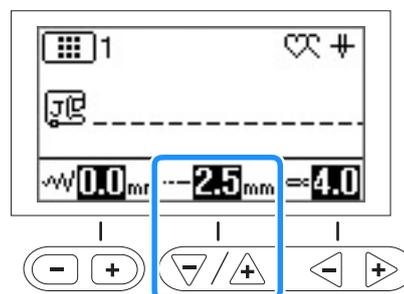
- 元の設定に戻すときは、を押します。
- 直線模様（直線、3重ぬいなど）を選択した場合は、模様の振り幅を変更すると針の位置が移動します。振り幅を広くすると針は右に移動し、せまくすると左に移動します。
- と表示されているときは、設定を変更することができません。

注意

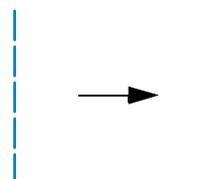
- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

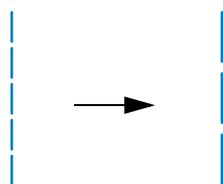
ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



◀を押すごとに、ぬい目が細かく（短く）なります。



△を押すごとに、ぬい目があらく（長く）なります。



お知らせ

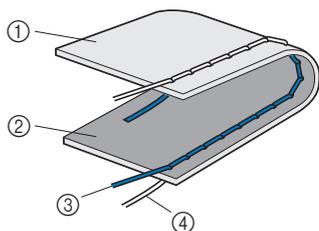
- 元の設定に戻すときは、を押します。
- と表示されているときは、設定を変更することができません。

糸調子を調節する

布や糸の種類によって、糸調子を調節します。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸

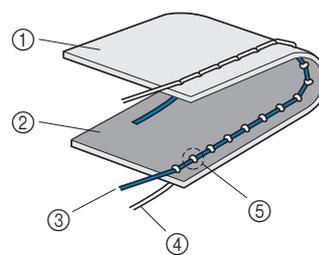
■ 上糸が強すぎる時

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。



お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなることがあります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。B-16の「下糸をセットする」を参照してください。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸
- ⑤ 上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできません。

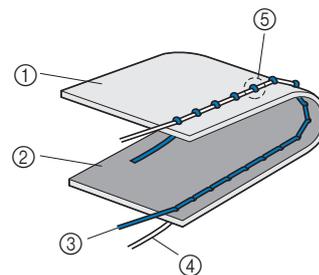
■ 上糸が弱すぎる時

上糸が布地の裏に出る場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。



お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。B-19の「上糸通し」を参照してください。



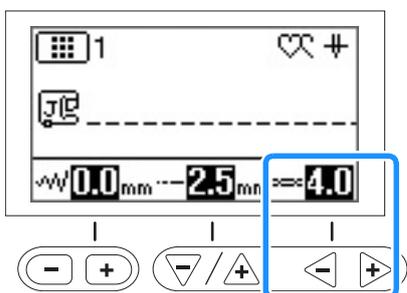
- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸
- ⑤ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできません。

■ 糸調子を調節する

操作パネルの糸調子キーで、上糸調子を調節します。

◀を押すごとに、上糸調子が弱くなります。

▶を押すごとに、上糸調子が強くなります。



お知らせ

- 元の設定に戻すには、◀を押します。

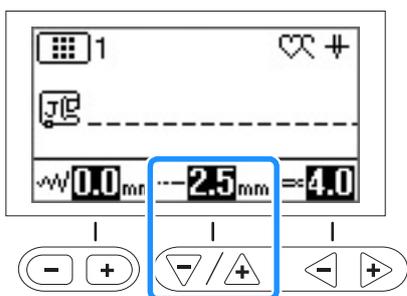
模様の設定を記憶させる

変更した設定を後で使いたい場合は、▶を押して設定を記憶させておくことができます。

直線のぬい目の長さを、いつも 2.0mm でぬう場合

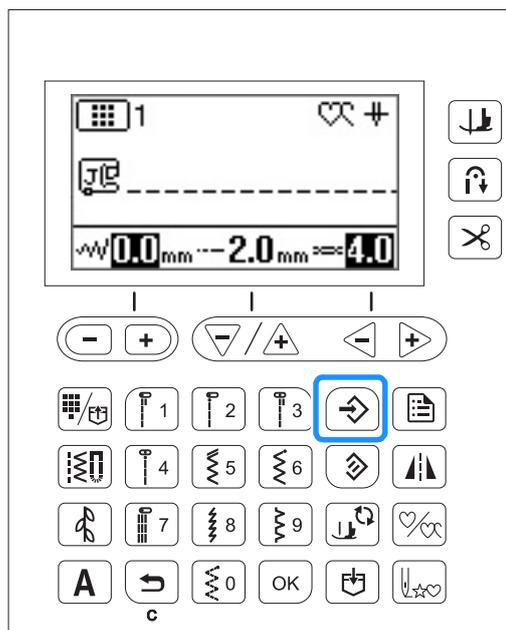
1 直線模様を選択します。

2 ぬい目の長さを 2.0mm に設定します。



3 ▶を押します。

- 元の設定に戻すときは、▶を押した後、◀を押します。



お知らせ

- 次に同じ直線模様を選択すると、ぬい目の長さが 2.0mm に設定されます。
- 模様の振り幅（ジグザグの振り幅）、ぬい目の長さ、糸調子は、設定を変更した項目だけではなく、すべての項目の設定が記憶されます。ミシンの電源を切っても、次に同じ模様を選択したときには、最後に記憶させた設定が表示されます。記憶させた設定を呼び出した後、再度設定を変更した場合や▶を押して設定を元に戻した場合も、その後に▶を押さない限り、新しい設定は記憶されません。また、自動糸切り、自動返しぬい/止めぬいの設定は、▶を押しても元に戻りません。

便利な機能

自動で糸を切る

ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。
自動糸切りを設定すると、自動返しぬい/止めぬいも一緒に設定されます。

- 1 電源を入れます。
- 2 模様を選択します。
 - 模様の選択については、B-33の「模様を選択する」を参照してください。
- 3  を押します。



-  と  が点灯して、自動糸切りと自動返しぬい/止めぬいが設定されます。
- 自動糸切りを解除するときは、 を押します。

- 4 布地をセットし、スタート/ストップスイッチを1回押します。

→ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。
- 5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりやかんどめなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

- 返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。



- ① スタート/ストップスイッチを押した地点
- ②  (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を押した地点
- ③ ここで糸が切れる

お知らせ

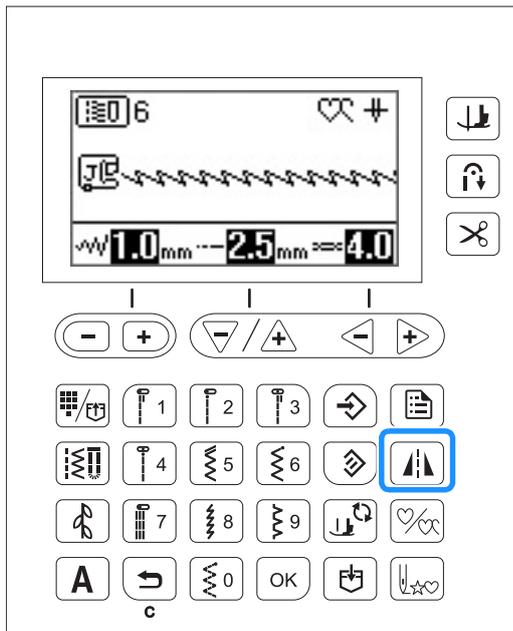
- ぬっている途中で、スタート/ストップスイッチを押したときは、自動糸切りは行われません。ぬい終わりで  (返しぬいスイッチ) または  (止めぬいスイッチ) を押してください。
- 電源を切ると、自動糸切りの設定は解除されます。

模様を左右反転させる

模様を左右反転させてぬうことができます。

- 1 電源を入れます。
- 2 模様を選択します。
 - 模様の選択については、B-33の「模様を選択する」を参照してください。

3 ▲ を押します。



→ ▲ が画面に表示され、画面に表示されている模様が反転します。



- 反転を解除するには、もう一度 ▲ を押します。

お知らせ

- ボタン穴かがりなど、一部の模様は反転ができません。
- 電源を切ると、反転は解除されます。

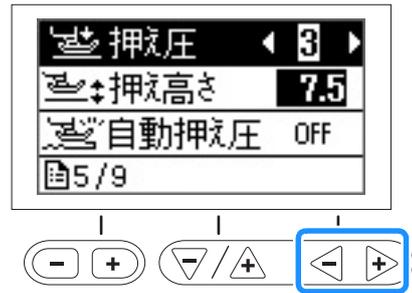
押え圧を調節する

押え圧（押えが布地を押さえる強さ）を、設定画面で調節することができます。

数値が高いほど押え圧が高くなります。通常は「3」にセットしておきます。

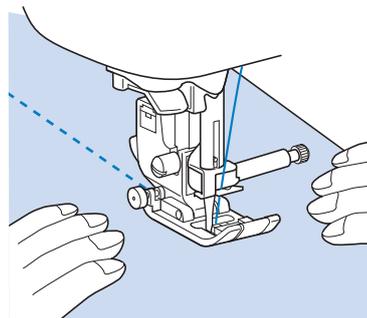
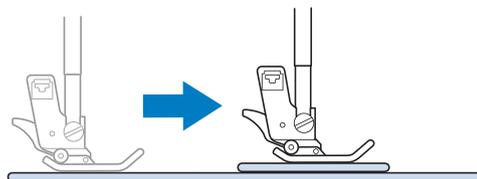
1 設定画面で5ページを表示し、▽/△を押して 押え圧 を選択します。

2 ◀ ▶ キーを押して、押え圧を調節します。



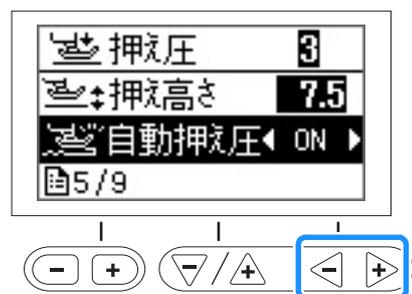
自動押え圧補正

縫製中、内蔵センサーが布地の厚さを感知し、自動的に押え圧を調節します。そのため、布地をスムーズに送ることができます。厚地をぬうときや、キルトをぬうときに便利です。「実用ぬい編」の「厚い布地をぬう」、「キルトイング」を参照してください。



1 設定画面で5ページを表示し、▽/△を押して 自動押え圧 を選択します。

2 ◀ ▶ を押して、自動押え圧を「ON」にします。



ピボット

ピボット設定を選択してスタート/ストップスイッチを押すと、針が下がった（針が布に刺さった）状態でミシンは停止し、押えは自動的に設定した高さに上がります。もう一度スタート/ストップスイッチを押すと、押えは自動的に下がり、続きをぬいます。この機能は、ミシンを止めて布地を回転させるときの便利です。

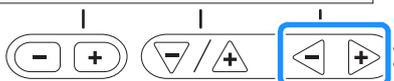
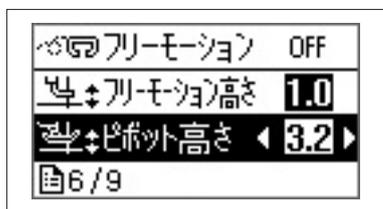
⚠ 注意



- ピボット設定が選択されている場合、スタート/ストップスイッチや、フットコントローラーを押すと、（押え上下スイッチ）で押えを上げていてもミシンが作動します。事故を防ぐために、針の付近に手や物を近づけないように注意してください。

📖 お知らせ

- ピボット設定が選択されている場合、使用している布地の種類に合わせて、ぬい終わりの押えの高さを変えることができます。設定画面で （ピボット高さ）を表示し、3つの高さ（3.2mm、5.0mm、7.5mm）のいずれかを選びます。通常は、3.2mm に設定します。



💡 お願い

- ピボット機能を使用するには、設定画面で （針位置）が下に設定されている必要があります。 （針位置）が上に設定されていると、 が使用できません。画面に押え < J > または < N > が表示されている模様にも、ピボット機能が使用できません。他の模様を選択されているときは、 が使用できません。
- （押え上下スイッチ）で確実に押えを下げてから、スタート/ストップスイッチを押して操作を続けてください。
- ピボット設定を選択している場合は、設定画面の （押え高さ）を変更することはできません。

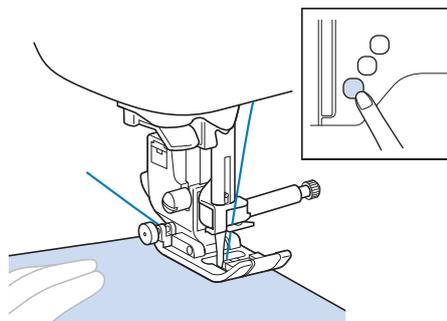
1 模様を選択します。

2  を押して、ピボット設定を選択します。



→ キーが点灯します。

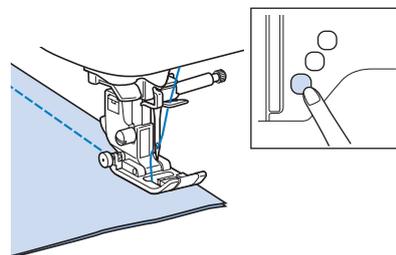
3 布地をぬい始めの位置に合わせ、押えを下げて、スタート/ストップスイッチを押します。ミシンがぬい始めます。



📖 お知らせ

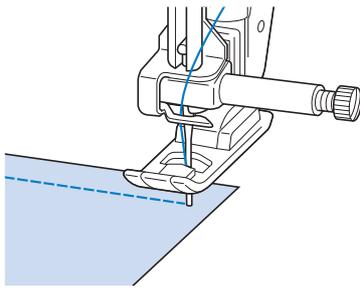
- 縫製中にスタート/ストップスイッチを押して止めた後に、再びぬい始めた場合は返しぬい（または止めぬい）をしません。

4 スタート/ストップスイッチを押して、方向を変える位置でミシンを止めます。



→ 針が布地にささった状態でミシンが止まります。このとき、押えは上がっています。

- 5 布地を回転して、スタート/ストップスイッチを押します。



→ 押えが自動的に下がり、ぬい始めます。

フリーモーションモードでぬう

フリーモーションモードでは、押えはフリーモーションに適切な高さに上がります。ぬい始めると、内部センサーが布地の厚さを感知し、キルト押え（別売）* が、設定画面で設定された高さまで上がります。

* このモードを使用するためには別売の押え（オープントウキルト押え<O>、フリーモーションキルト押え<C>、またはエコキルト押え<E>）が必要です。

このモードでは、ドロップレバーで送り歯を下げ、布地が自由な方向に動くようにします。

フリーモーションキルトについては、「実用ぬい編」の「フリーモーションキルト」を参照してください。

■ ミシンをフリーモーションモードに設定する

- 1 模様を選択します。
- 2 設定画面で6ページを表示し、 ∇/Δ を押して フリーモーション を選択します。
- 3 $\leftarrow \rightarrow$ を押して、フリーモーションを「ON」にします。



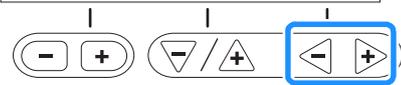
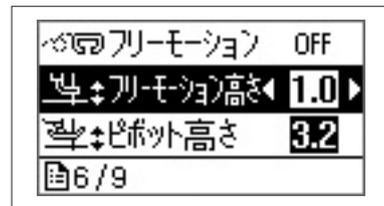
⚠ 注意



- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

■ フリーモーション時の押えの高さを調節する

- 1 設定画面で フリーモーション高さ を選択します。
- 2 $\leftarrow \rightarrow$ を押して、キルト押えの高さを選択します。
 - \rightarrow を押すと、設定値が高く（押えの位置が高く）なり、たとえば、伸縮性のある布地をぬうときなどに、ぬいやすくなります。



📖 お知らせ

- バランスのとれた糸調子でぬうには、上糸の調節が必要です。キルト地のはぎれで、試しぬいを行ってください。糸調子の調節については、B-39の「糸調子を調節する」を参照してください。

■ ニーリフターを使用する

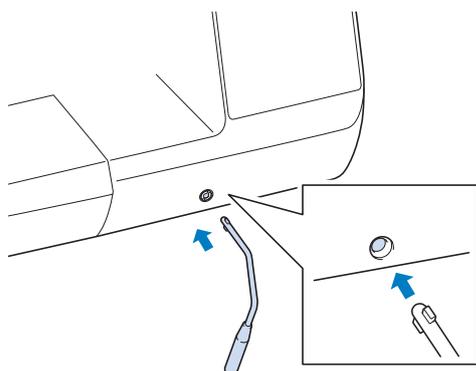
ニーリフターを使うと、ひざで押えの上げ下げができ、両手が使え便利です。



■ ニーリフターを取り付ける

- 1 電源を切ります。
- 2 ニーリフターを、ミシン本体の前面にある差し込み口に差し込みます。

ニーリフターの先端の突起部を差し込み口のミゾに合わせ、ニーリフターをしっかり奥まで差し込みます。



お願い

- ニーリフターは差し込み口の奥までしっかりと差し込んでください。正しく差し込まれていないと、使用中に外れることがあります。

■ ニーリフターを使用する

1

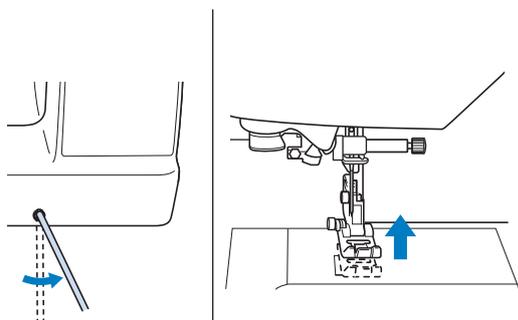
ミシンを止めます。

- ミシンの作動中にニーリフターを使用しないでください。

2

ニーリフターをひざで右に押します。

右に押したまま維持してください。



→ 押えが上がります。

3

ニーリフターからひざを離します。

→ 押えが下がります。

⚠ 注意



- 縫製中は、ニーリフターにひざが触れないように注意してください。縫製中にニーリフターを押すと、針が折れたり、ミシンが故障する可能性があります。

ぬい方早見表

この表では、実用模様について、用途、振り幅やぬい目の長さの設定、2本針を使用できるかどうかなどを紹介しています。

- *1 該当する数字キーを押すだけでダイレクトに選択できる模様です。詳細は、B-51の「実用ダイレクト選択模様」を参照してください。
- *2 フリーモーションキルトの際には、オープントウキルト押え<O>（別売）を使用します。
- *3 （自動返しぬい/止めぬいキー）で自動返しぬい/止めぬいを設定しているときは、ぬい始めに止めぬいを行います。設定画面で（止めぬい優先）を「ON」にしている場合は、ぬい終わりにも止めぬいを行います。
- *4 フリーモーションキルトの際には、フリーモーションキルト押え<C>（別売）またはオープントウキルト押え<O>（別売）を使用します。



• ウォーキングフット（別売）を使用するときは、返しぬいをしないでください。

ぬい方	☑️ 番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]		ぬい目の長さ [mm]		2本針	返しぬい スイッチ	ウォーキング フット
					自動	手動	自動	手動			
	01*1	直線 (左基線)	J*2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい	×		
	02*1	直線 (左基線)	J*2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	03*1	直線 (中基線)	J*2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい	×		
	04*1	直線 (中基線)	J*2	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	05*1	3重ぬい	J*2	丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×		
	06*1	伸縮ぬい	J*2	伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×		
	07	飾りぬい	N*2	飾りぬいに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×		
	08	しつけぬい	J*2	しつけに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	20 5 - 30	×	止めぬい	×		
	09*1	ジグザグ (中基線)	J*2	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	○ (J)	返しぬい	×		
	10*1	ジグザグ (中基線)	J*2	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	11	ジグザグ (右基線)	J*2	右の針位置からぬい始まります。	3.5 2.5 - 5.0	1.4 0.3 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	12	ジグザグ (左基線)	J*2	左の針位置からぬい始まります。	3.5 2.5 - 5.0	1.4 0.3 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	13	2点ジグザグ	J*2	普通地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	○		
	14*1	3点ジグザグ	J*2	普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	○ (J)	返しぬい*3	×		

ぬい方	☐ 番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	2本針	返しぬい スイッチ	ウォーキング フット
					自動 手動	自動 手動			
	15*1	たち目かがり	G	薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	3.5 2.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	16	たち目かがり	G	厚地のたち目かがりに使用します。	5.0 2.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	17	たち目かがり	G	厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	18	たち目かがり	J*2	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	19	たち目かがり	J*2	普通地、厚地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	20	たち目かがり	J*2	伸びる布地のたち目かがりや飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	21	たち目かがり	J*2	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	22	たち目かがり	J*2	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	23	たち目かがり	J*2	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.8 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	24	サイドカッター	S	布を切りながら直線ぬいをします。	0.0 0.0 - 2.5	2.5 0.2 - 5.0	×	止めぬい	×
	25	サイドカッター	S	布を切りながらジグザグぬいをします。	3.5 3.5 - 5.0	1.4 0.0 - 5.0	×	止めぬい	×
	26	サイドカッター	S	布を切りながらたち目かがりをします。	3.5 3.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	27	サイドカッター	S	布を切りながらたち目かがりをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	28	サイドカッター	S	布を切りながらたち目かがりをします。	5.0 3.5 - 5.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	29	ピーシング直線 (右基線)	J*2	ピーシング用の直線です。押えの右端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が7.0mmでぬえるように針位置が設定されています。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.2 - 5.0	×	返しぬい*3	○
	30	ピーシング直線 (中基線)	J*4	ピーシング用の直線です。	—	1.6 0.2 - 5.0	×	返しぬい*3	○
	31	ピーシング直線 (左基線)	J*2	ピーシング用の直線です。押えの左端に布地を合わせてぬうと、ぬいしろの幅が7.0mmでぬえるように針位置が設定されています。	2.0 0.0 - 7.0	1.6 0.2 - 5.0	×	返しぬい*3	○
	32	手ぬい風直線	J*2	上糸にナイロン透明糸、下糸にキルトに合った色の糸を使うと手ぬい風のキルト直線がぬえます。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	33	ジグザグ	J*2	アップリケキルトやフリーモーションキルト、サテンぬいなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	×	返しぬい*3	○
	34	アップリケ	J*2	アップリケやバインディングをするときに使用します。	1.5 0.0 - 7.0	1.2 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	35	キルティング模様	J*2	キルトで背景を埋めるときに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	36	まつりぬい	R	普通地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	37	まつりぬい	R	伸びる布地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×

ぬい方	 番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	2本針	返しぬい スイッチ	ウォーキング フット
					自動 手動	自動 手動			
	38	アップリケ	J	アップリケに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	39	シェルタック	J*2	シェルタックは貝殻を直線状にならべたような円弧状のひだを作るもので、ふち取りなどに用いるほか、ブラウス、ワンピースなどの胸元や袖に飾りぬいとして使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	40	サテンスカラップ	N*2	スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	0.5 0.1 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	41	スカラップ	N*2	スカラップは半月状の丸いカーブの連続した波形の模様をいいます。ブラウスやハンカチなどのふち飾りに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.4 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	42	つきあわせ	J*2	パッチワークや飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	43	つきあわせ	J*2	パッチワークや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	44	つきあわせ	J*2	コードなどを使った飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.2 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	45	スモッキング	J*2	スモッキングや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	46	ファゴティング	J*2	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	47	ファゴティング	J*2	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	48	ゴムひもつけ	J*2	伸びる布地にゴムひもをつけるときに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	49	飾りぬい	J*2	飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	50	飾りぬい	J*2	飾りぬいに使用します。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	51	飾りぬい	J*2	飾りぬいに使用します。	5.5 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	52	飾りぬい	N*2	飾りぬいやゴムひもつけに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	53	飾りぬい	N*2	飾りぬいやアップリケに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	54	飾りぬい	N*2	飾りぬいに使用します。	7.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	55	飾りぬい	N*2	左基線の3重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	56	飾りぬい	N*2	中基線の3重ぬいで、すそ飾りなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	57	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×

ぬい方	☐ 番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	2本針	返しぬい スイッチ	ウォーキング フット
					自動 手動	自動 手動			
	58	飾りぬい	N*2	レースつけやふち飾りなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	59	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。	3.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	60	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	61	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	62	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	63	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	64	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	65	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	66	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	67	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	3.5 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	68	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	69	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	70	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	6.0 0.0 - 7.0	4.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	71	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	4.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	72	飾りぬい	N*2	ふち飾りなどに使用します。薄地、普通地の平織りの布に適しています。	5.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	73	飾りぬい	N*2	つき合わせや飾りぬいに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	2.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	74	飾りぬい	N*2	ふち飾りやぬった後にリボンを通して飾りとして使用します。	5.0 0.0 - 7.0	3.0 0.4 - 5.0	○ (J)	止めぬい	×
	75	飾りぬい	N*2	飾りぬいやスモッキングに使用します。	6.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	76	飾りぬい	N*2	飾りぬいやスモッキングに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 5.0	×	止めぬい	×
	77	ボタン穴かがり	A	ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	78	ボタン穴かがり	A	横穴用。ウエストベルトなど力がかかるところに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	79	ボタン穴かがり	A	横穴用。厚地のボタン穴かがりに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	×	自動止めぬい	×

ぬい方	番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	2本針	返しぬい スイッチ	ウォーキング フット
					自動 手動	自動 手動			
	80	ボタン穴かがり	A	両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	81	ボタン穴かがり	A	伸びる布地や編み地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.0	1.0 0.5 - 2.0	×	自動止めぬい	×
	82	ボタン穴かがり	A	伸びる布地のボタン穴かがりに使用します。芯ひもを入れてぬいます。	6.0 3.0 - 6.0	1.5 1.0 - 3.0	×	自動止めぬい	×
	83	ボタン穴かがり	A	玉ぶち穴かがり（バウンドボタンホール）を作るときに使用します。	5.0 0.0 - 6.0	2.0 0.2 - 4.0	×	自動止めぬい	×
	84	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。プレザー、スーツ、コートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	85	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。普通地から厚地のボタン穴かがりに使用します。ジーンズ、ズボンなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	86	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。厚地や毛足の長い布の横穴ボタン穴かがりに使用します。厚手のコートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	87	ダーニング	A	普通地のつくろいぬいに使用します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5	×	自動止めぬい	×
	88	ダーニング	A	厚地のつくろいぬいに使用します。	7.0 2.5 - 7.0	2.0 0.4 - 2.5	×	自動止めぬい	×
	89	かんどめ	A	ぬい目がほどこやすい箇所やポケット口などのあき止まり部分の力の加わる部分を補強したい場合に用います。	2.0 1.0 - 3.0	0.4 0.3 - 1.0	×	自動止めぬい	×
	90	ボタンつけ	M	ボタンつけに使用します。	3.5 2.5 - 4.5	—	×	自動止めぬい	×
	91	アイレット	N	ベルトの調節用の穴をかかるときのなどに使用します。普通地に使用します。	7.0 7.0 6.0 5.0	7.0 7.0 6.0 5.0	×	自動止めぬい	×
	92	横送り直線	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	93	横送り直線	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	94	横送り直線	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	95	横送り直線	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	96	横送りジグザグ	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	97	横送りジグザグ	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	98	横送りジグザグ	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×
	99	横送りジグザグ	N	でき上がった服の袖やズボンのすそにワッペンをつけるときに使用します。	—	—	×	止めぬい	×

■ 実用ダイレクト選択模様

よく使う実用模様が、各数字キーにひとつずつ割り当てられています。ダイレクト選択モードで該当のキーを押すだけで、模様が選択できます。

 実用ダイレクト 選択模様	名前	 番号
 1	直線 (左基線)	01
 2	直線 (左基線)	02
 3	直線 (中基線)	03
 4	直線 (中基線)	04
 5	ジグザグ (中基線)	09
 6	ジグザグ (中基線)	10
 7	3重ぬい	05
 8	伸縮ぬい	06
 9	たち目かがり	15
 0	3点ジグザグ	14

実用ぬい編

ここでは、実用ぬいのさまざまな機能を紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ぬいやボタンぬいなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。ページ数は、「S」の記号で始まります。

第1章 きれいに仕上げるために S-2

第2章 いろいろなぬい方 S-6

⚠ 注意



- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。押えの交換については、「基本機能編」の「押えの交換」を参照してください。

第1章 きれいに仕上げるために

上手にぬうコツ

試しぬいをする

本製品は、ぬう布地に適した糸と針をセットし、模様を選択すると、自動的に適切な糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さが設定されるようになっています。

しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思いどおりにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

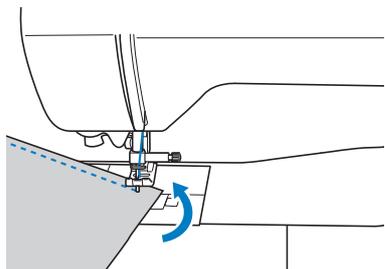
試しぬいをするときは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうときと同じ状態で試しぬいをします。

ぬう方向を変える

- 1 角までぬったら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、**(+) (針上下スイッチ)** を押して針を下げます。

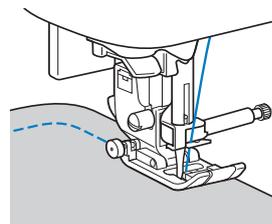
- 2 押えを上げ、布地を持って回転させます。
針位置を基点に回転させます。



- 3 押えを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しずつ向きを変えてぬいます。S-3の「ぬいしろの幅をそろえる」を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。

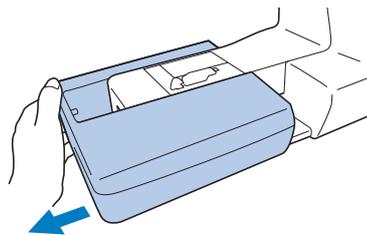


ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。

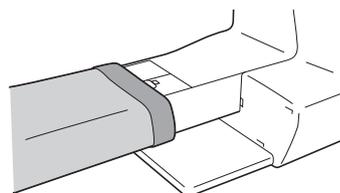
筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



- 2 下図のように布地をアームにセットし、布地を回しながらぬっていきます。



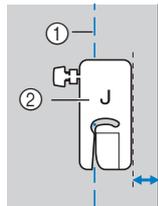
- 3 ぬい終わったら、補助テーブルを元に戻します。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。

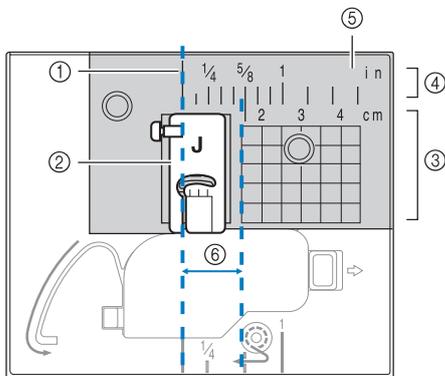


- ① ぬい目
- ② 押え

■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ (約 3mm) 単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

左基線の模様の場合 (振り幅: 0.0mm)



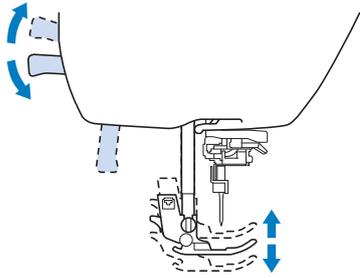
- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ cm 目盛り
- ④ インチ目盛り
- ⑤ 針板
- ⑥ 1.5cm

いろいろな素材をぬう

厚い布地をぬう

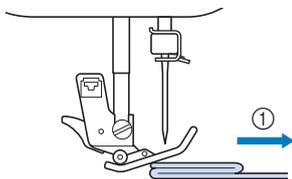
■ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



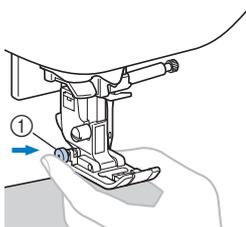
■ 布地が送られない場合

厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンを使うと、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。



① ぬう方向

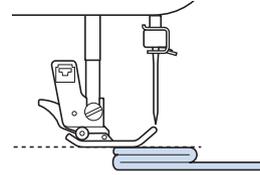
- 1 押えを上げます。
- 2 ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。
- 3 ジグザグ押え<J>を水平に保持して、左側の押え固定ピン（黒いボタン）を押したまま、押えを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

- 4 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えは元に戻ります。

📖 お知らせ

- 厚い布地をぬうときには、設定画面で「押え圧」を調整すると、ぬいやすくなります。
- 設定画面で「自動押え圧補正」または「自動押え圧」を ON にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取ります。スムーズに布送りでき、きれいに仕上げることができます。「自動押え圧補正」機能の詳細は、「基本機能編」の「自動押え圧補正」を参照してください。

⚠️ 注意

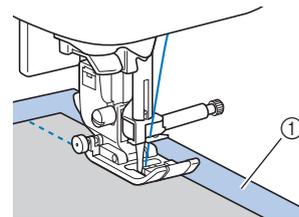


- 6mm以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れけがをするおそれがあります。

薄い布地をぬう

薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

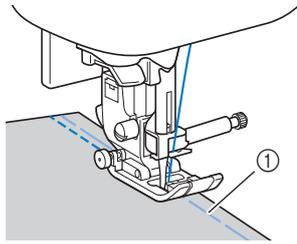
状態の良い針を使い、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。布が巻きこまれてしまう場合は、布地の下にハトロン紙などの薄い紙や接着芯をしいて、布地と一緒にぬいます。ぬい終わったら、紙や接着芯をやぶって取り除きます。



① 接着芯または薄い紙

伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。



① しつけ

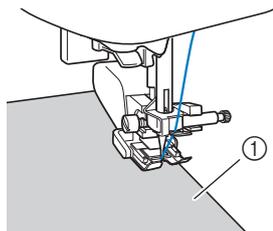
ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。

模様					
EMG03 シリーズ	1-05	1-06	1-13	1-14	2-13
CPF73 シリーズ 	05*	06*	13	14*	48

* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

ビニールや皮革をぬう

ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材にはウォーキングフット(別売)を使用します。



① 皮革

お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。自動返しぬい/止めぬいを設定するときは、ぬい始めに返しぬいをしない直線またはジグザグ模様を選択してください。詳細は、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをして、生地に押えのあとが残らないことを確認してください。

面ファスナー (マジックテープ®) をぬう

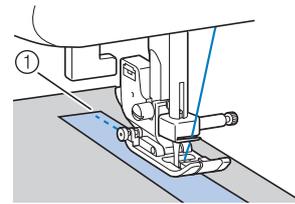
注意

- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針 (9~11番) でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プーリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。(「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の使い分け」参照)



① 面ファスナーの端

お知らせ

- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

第2章 いろいろなぬい方

しつけぬいをする／布をぬい合わせる

基本となる直線ぬいをします。

- 次の表の見方は、巻頭の『実用ぬい編』の模様表の見方で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMC03	シリース	押え
		模様番号		
しつけぬい		1-08	08	J
直線 (左基線)		1-01	01*	
		1-02	02*	
直線 (中基線)		1-03	03*	
直線 (中基線)		1-04	04*	
3重ぬい		1-05	05*	

* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

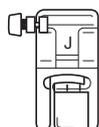
⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

しつけぬい

しつけぬいのぬい目の長さは、0.5cm ~ 3cm の範囲で設定できます。

- ジグザグ押え < J > を取り付けます。



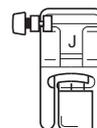
- 模様 を選択します。

- ミシンをスタートさせます。

布をぬい合わせる

- ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

- ジグザグ押え < J > を取り付けます。



- 模様を選択します。

- ぬい始めの位置に針を刺します。

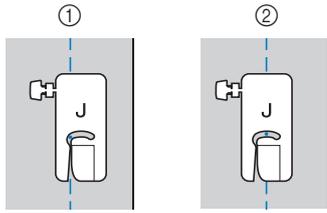
- 押えを下げ、ミシンをスタートさせます。

- ぬい終わったら、糸を切ります。



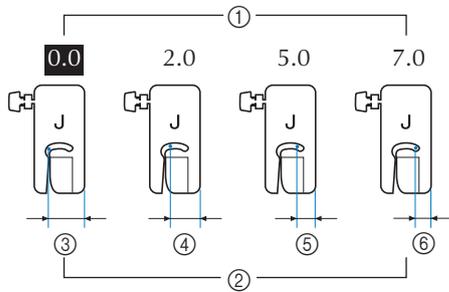
■ 針位置を変えるとき

直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。

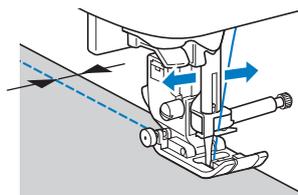


- ① 直線 [左]
- ② 直線 [中]

直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変更されます。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



- ① 振り幅
- ② 針位置から押え右端までの幅
- ③ 12.0mm
- ④ 10.0mm
- ⑤ 7.0mm
- ⑥ 5.0mm



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	 CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
まつりぬい		2-01	36	R
		2-02	37	

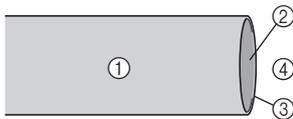
⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

📖 お知らせ

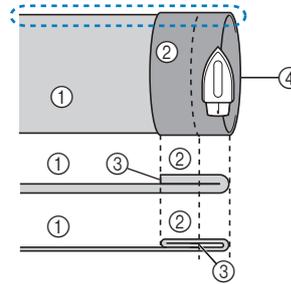
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

- 1** すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ すそ側

- 2** できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



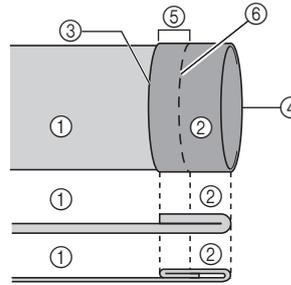
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線

< 厚い布地 >

< 普通地 >

<  を横から見た図 >

- 3** 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



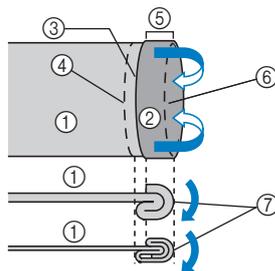
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

- 4** しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



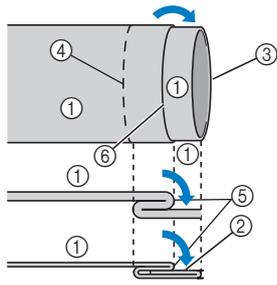
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ
- ⑦ しつけの位置

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

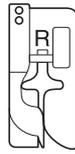
5 布端を開いて裏返します。



- ① 裏
 - ② 表
 - ③ 布端
 - ④ できあがり線
 - ⑤ しつけの位置
 - ⑥ しつけ
- < 厚い布地 >
- < 普通地 >

< 横から見た図 >

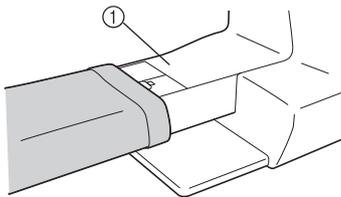
6 まつりぬい押え < R > を取り付けます。



7 模様 または を選択します。

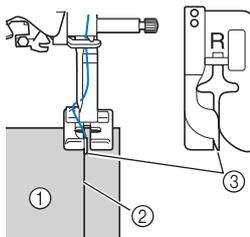
8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地を回せることを確認して、ミシンをスタートさせます。



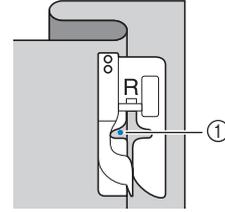
① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



① 裏
② 折り山
③ ガイド

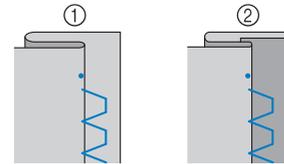
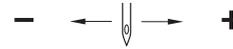
11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を変更します。

* 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



① 厚い布地
② 普通地

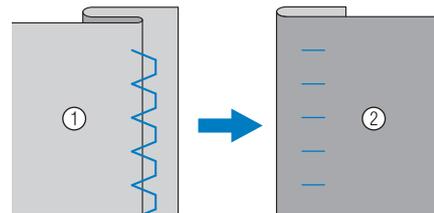
お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりにません。うまくまつりぬいをできないときは、以下の解決方法を参照してください。

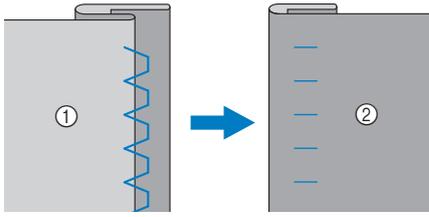
■ 針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。振り幅を小さくして、針が折り山に少しかかるように調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地

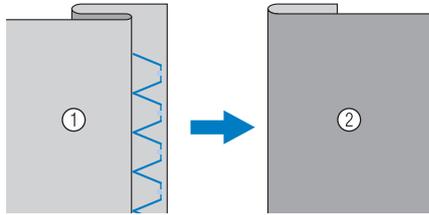


- ① 裏
- ② 表

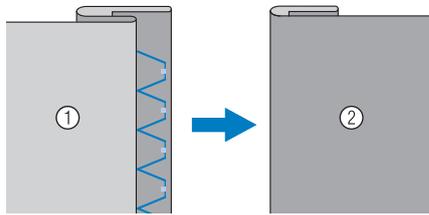
■ 針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
振り幅を大きくして、針が折り山に少しかかるように調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地



- ① 裏
- ② 表

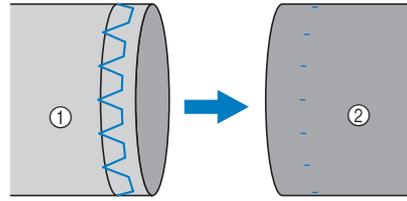
12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

13 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に戻します。



- ① 裏
- ② 表

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

たち目かがり押え<G>を使う たち目かがり

- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

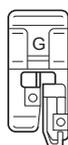
名前	ぬい方	EMIG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
たち目かがり		1-15	15*	G
		1-16	16	
		1-17	17	

* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

1 たち目かがり押え<G>を取り付けます。

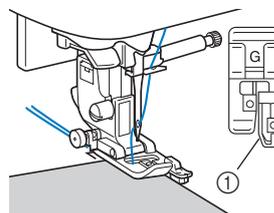


2 模様を選択します。

⚠ 注意

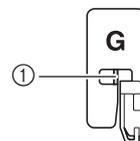
- たち目かがり押え<G>を使用するときは、必ずたち目かがり押え<G>用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

3 押えのガイドに布端を当て、押えを下げます。



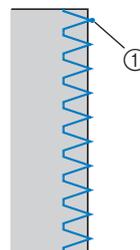
① ガイド

4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。



① 針落ち位置

⚠ 注意

- 押えを最上位置まで上げると、針が押えに当たるおそれがあります。

S
いろいろぬい方

- 6 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。
- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えを上げると、押えが破損するおそれがあります。

ジグザグ押え<J>を使うたち目かがり

- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
ジグザグ (中基線)		1-09	09*	J
ジグザグ (右基線)		1-11	11	
2点ジグザグ		1-13	13	
3点ジグザグ		1-14	14*	
たち目かがり		1-18	18	
		1-19	19	
		1-20	20	
		1-21	21	
		1-22	22	
		1-23	23	

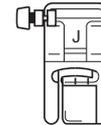
* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

注意



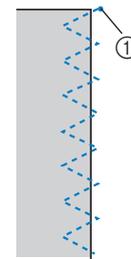
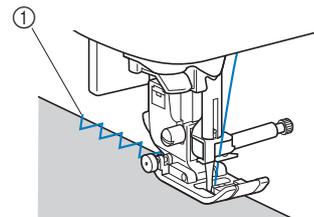
- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 2 模様を選択します。

- 3 針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置

サイドカッター押え<S> (別売) を使うたち目かがり

別売のサイドカッター押え<S>を使用して、布端を切りながらぬいしろを始末することができます。次の5模様のいずれかを選択します。

- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

お願い

- サイドカッター押え<S>を使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通しレバーを使用する場合は、糸を通した後、サイドカッター押え<S>を取り付けてください。

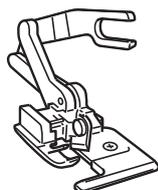
名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
サイドカッター		1-24	24	S
		1-25	25	
		1-26	26	
		1-27	27	
		1-28	28	

注意

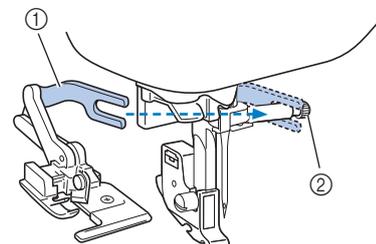


- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

□ サイドカッター押え<S>

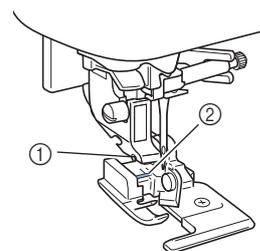


- 1 押えを取り外します。
- 2 サイドカッター押え<S>の作動レバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒を後ろからはさみます。



- ① 作動レバー
- ② 針のとめネジ

- 3 サイドカッター押え<S>のピンと押えホルダーのミゾが合う位置にサイドカッター押え<S>を置き、押えレバーをゆっくり下げます。

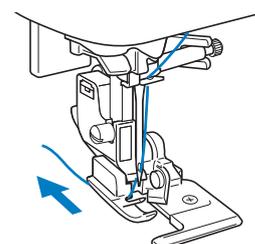


- ① 押えホルダーのミゾ
- ② ピン

お知らせ

- 押えホルダーの下にセットしにくい場合は、押えレバーをさらに押し上げると、押えホルダーがもう一段上がり、セットしやすくなります。

- 4 押えを上げて、サイドカッター押え<S>が取り付けられていることを確認します。
- 5 上糸はサイドカッター押え<S>の下を通して、後ろ側に引き出します。

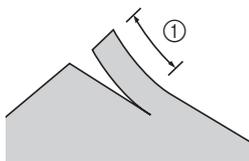


S

いろいろぬい方

⑥ 模様を選択します。

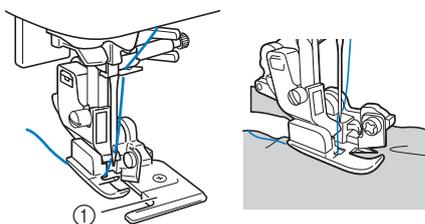
⑦ 布地のぬい始めの部分に2cmの切り込みを入れます。



① 2 cm

⑧ 布地をセットします。

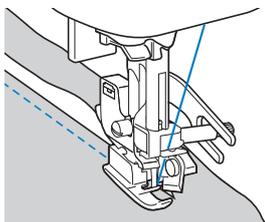
布地の切り込みを入れた部分を、サイドカッター押え<S>のガイドプレートの上に置きます。



① ガイドプレート

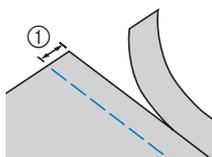
- 布地を正しく置かないと、布地が切れません。

⑨ 押えを下げ、ミシンをスタートさせます。



→ ぬいしろを裁断しながらぬっていきます。

- 模様を直線 $\begin{matrix} \text{P} \\ | \\ \text{S} \end{matrix}$ にしてぬった場合、ぬいしろは約5mmになります。



① 5mm



お知らせ

- サイドカッター押え<S>で切れる布地の厚さは、13オンスデニム1枚程度までです。
- サイドカッター押え<S>を使用したあとは、糸くずやほこりを取り除いてください。
- 布地が切れなくなってきたときは、サイドカッター押え<S>の刃を少量の油を含ませた布でふいてください。

ボタン穴かがり／ボタンつけ

- 次の表の見方は、巻頭の『実用ぬい編』の模様表の見方で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
ボタン穴かがり		4-01	77	A
		4-02	78	
		4-03	79	
		4-04	80	
		4-05	81	
		4-06	82	
		4-07	83	
		4-08	84	
		4-09	85	
		4-10	86	
ボタンつけ		4-14	90	M

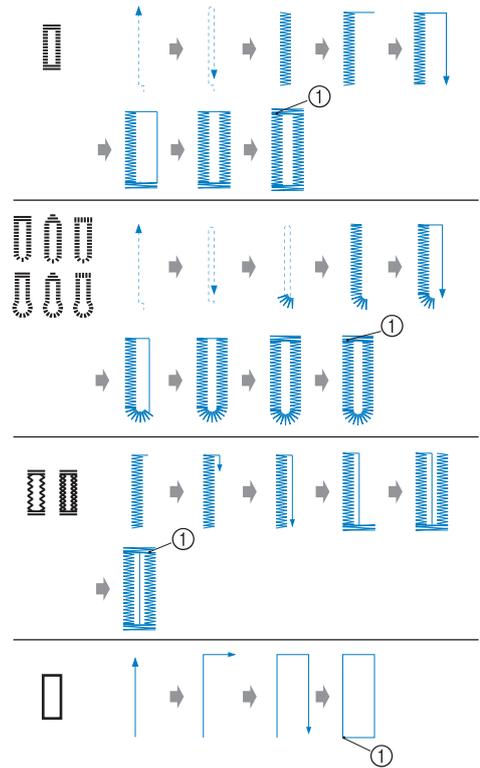
⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

ボタン穴かがり

「ボタンの直径+厚み」が 28mm までのボタン穴を作ることができます。

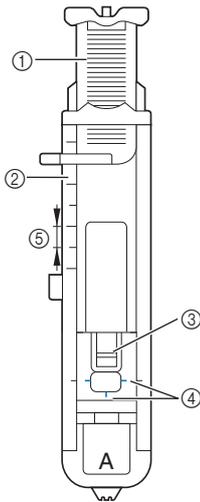
ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。



① 止めぬい

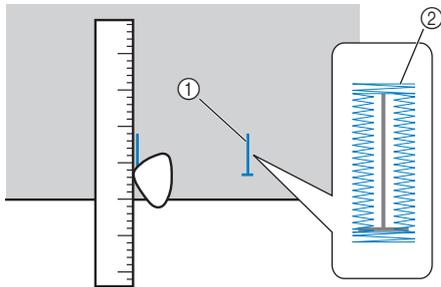
S
いろいろぬい方

ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え< A >の各部の名称は以下のとおりです。



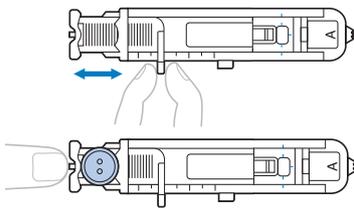
- ① 台皿
- ② 押えスケール
- ③ ピン
- ④ しるし
- ⑤ 5mm

1 布地の穴かがりをする位置に、ボタンの直径と厚みを合わせた長さのしるしをつけます。



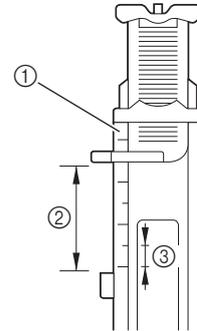
- ① しるし
- ② 出来上がり

2 押えの台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



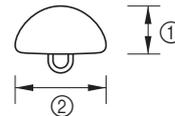
■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。
押えスケールの目盛りをボタンの直径 + 厚みの寸法に合わせてください。



- ① 押えスケール
- ② でき上がり寸法 (直径 + 厚み)
- ③ 5mm

□ 例：直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



- ① 厚み 1cm
- ② 直径 1.5cm

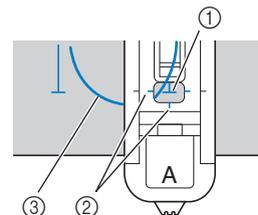
→ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え< A > を取り付けます。

ボタン穴かがり押え< A >を取り付ける前に、上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

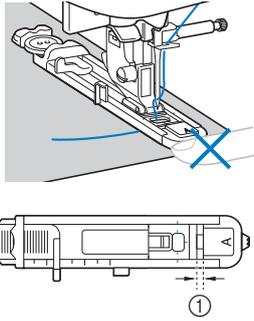
4 模様を選択します。

5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



- ① 布地のしるし (手前)
- ② 赤のしるし
- ③ 上糸

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

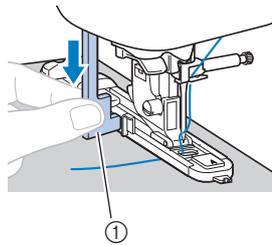


① すきまをなくさない

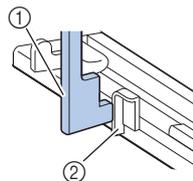
お知らせ

- しるしの位置を合わせにくい場合は、プリーをゆっくりと手前に回して針が刺さる位置を確認し、そこに布地のしるしを合わせます。

6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

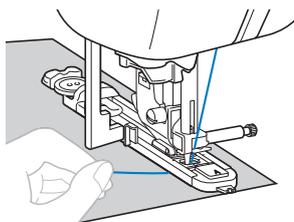


① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー
② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

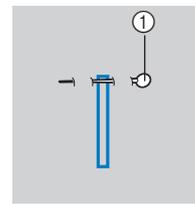
8 ⊗(糸きりスイッチ) を1回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出します。

お知らせ

- あらかじめ自動糸切りを設定しておく、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸を切ります。
- 詳細は、「基本機能編」の「自動で糸を切る」を参照してください。
- ミシン左側の糸切りやはさみを使って糸を切る場合は、⊕(針上下スイッチ) で針を上げ、押えも上げて、布を引き出してから糸を切ってください。

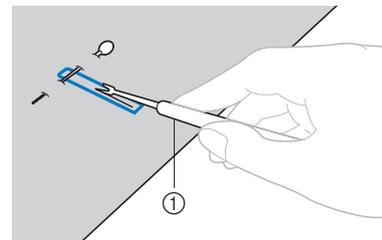
9 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



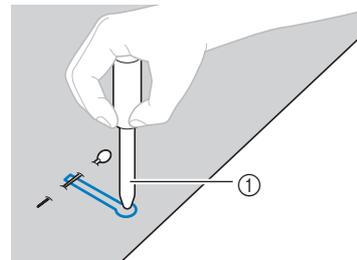
① まち針

11 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。

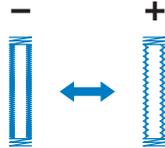
⚠ 注意



- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

■ ぬい目のあらさを変えるとき

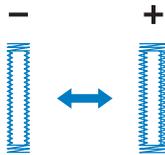
ぬい目の長さを調節します。



- 詳細は、「基本機能編編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

■ 振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

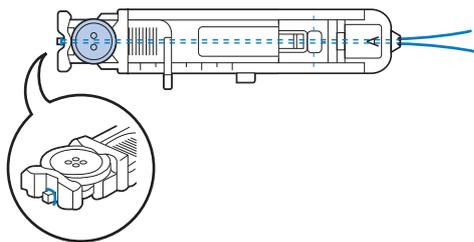
📖 お知らせ

- ボタン穴かがりをする前に、模様の長さと同幅を確認するために、はぎれを使って試しぬいをしてください。

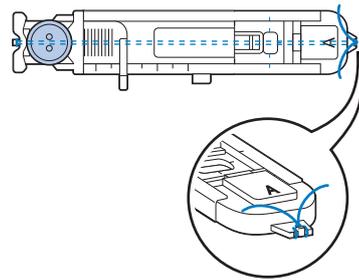
■ 伸びる布地をぬうとき

伸びる布地にボタン穴かがりをするときは、芯ひもを入れてぬいます。

- ボタン穴かがり押え< A > の図の部分に芯ひもをかけます。



- 芯ひもの端を反対側のミゾにはさんで軽く結びます。



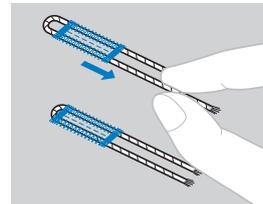
- ボタン穴かがり押え< A > を取り付けます。

- 模様 または を選択します。

- 芯ひもの太さより大きめに振り幅を設定します。

- 押えを下げ、ボタン穴かがりレバーを下げて、ミシンをスタートさせます。

- ぬい終わったら、芯ひもを引いてたるみをなくします。

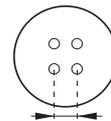


- 手ぬい針を使用して布地の裏側に芯ひもを引き出して結びます。

ボタンつけ

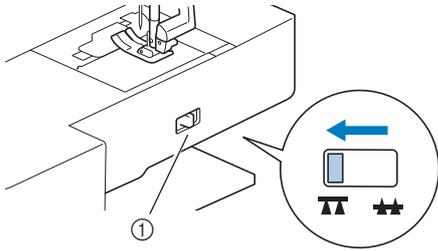
このミシンではボタンつけができます。ボタンつけができるのは、2つ穴または4つ穴のボタンです。

- ぬい付けるボタンの穴の距離を測ります。



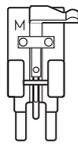
2 押えレバーを上げ、補助テーブルを外します。

3 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側 (TT) にします。



① ドロップレバー (背面から見た図)

4 ボタン付け押え < M > を取り付けます。



5 模様 ⊖ を選択します。

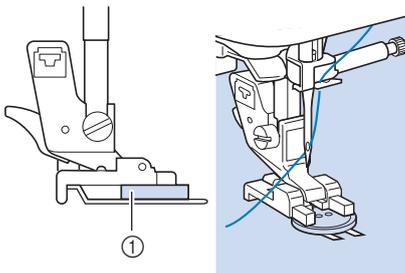


お願い

- あとで糸端を結ぶので、自動糸切りは設定しないでください。

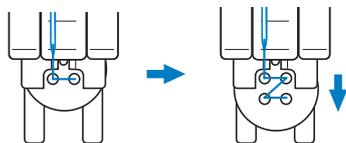
6 ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。

7 ぬい付ける位置にボタンを置き、押えを下げます。



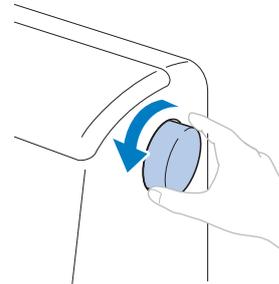
① ボタン

- 4つ穴のボタンをつけるときは、手前の穴を先にぬいます。手前の穴がぬい終わったら、ボタンをずらして後ろの穴に合わせ、もう一度ぬいます。



8 プーリーを手前に回し、針がボタンに当たらずにボタン穴に交互に入るか確認します。

針がボタンに当たりそうな場合は、ボタン穴の距離を計り直し、ジグザグの振り幅を穴の距離に合わせます。



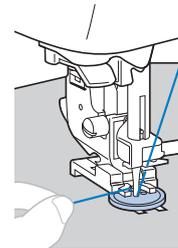
注意



- ぬう際には、ボタンに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 ミシンをスタートさせます。

スピードコントロールレバーは「ゆっくり」にします。

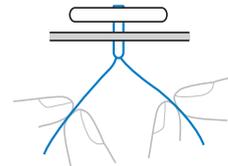


→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- あとで糸端を結ぶので、⊗ (糸切りスイッチ) は使用しないでください。

10 ぬい始めの上糸と下糸を、はさみで切ります。

ぬい終わりの上糸を布地の裏に引き出し、下糸と結びます。



11 ボタンつけが終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (TT) にし、補助テーブルを元に戻します。



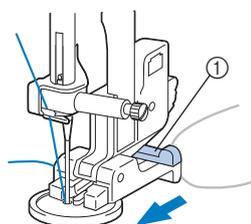
お知らせ

- 送り歯は、次にぬい始めたときに上がります。

■ 足をつけるとき

ボタンの付け根に足（糸足）をつけるときは、ボタンと布地の間にすき間をあけた状態でぬい、あとで手で巻きつけます。ボタンをしっかりとつけることができます。

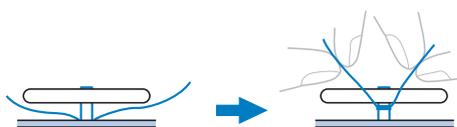
- 1 ボタン付け押え<M> にボタンを取りつけたら、足レバーを手前に引きます。



① 足レバー

- 2 ぬい終わったら、上糸を長めに切り、ボタンと布地の間の糸足に巻きつけて、ぬい始めの上糸と結びます。

ぬい始めとぬい終わりの下糸は、布地の裏側で結びます。



- 3 余分な糸を切ります。

ファスナーつけ

- 次の表の見方は、巻頭の『実用ぬい編』の模様表の見方で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
直線 (中基線)		1-03	03*	I

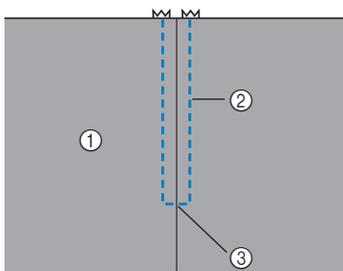
* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

つき合わせ

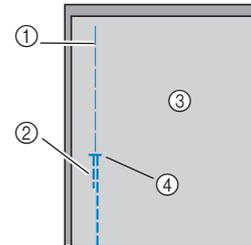
つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



- ① 表
- ② ステッチ
- ③ あき止まり

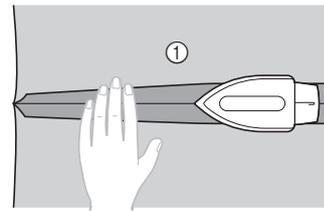
- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



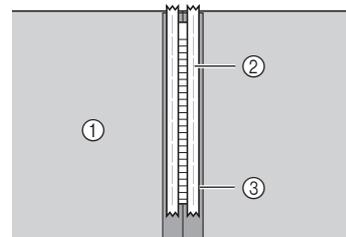
- ① しつけ
- ② 返しぬい
- ③ 裏
- ④ あき止まり

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



- ① 裏

- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。

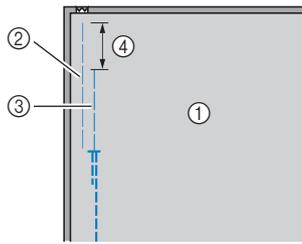


- ① 裏
- ② しつけ
- ③ ファスナー

S

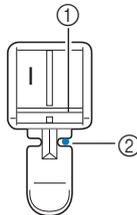
いろいろぬい方

6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどこきます。



- ① 裏
- ② ファスナーのしつけ
- ③ でき上がり線のしつけ
- ④ 5cm

7 片押え<1>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



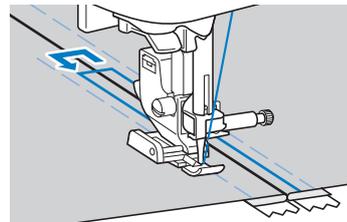
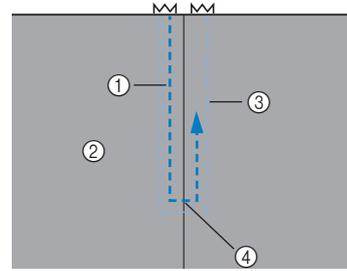
- ① ピン右側
- ② 針落ち位置

8 模様  を選択します。

注意

- 片押え<1>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

9 布地の表からステッチをかけます。



- ① ステッチ
- ② 表
- ③ しつけ
- ④ あき止まり

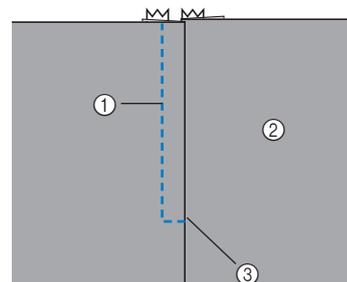
注意

- むう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

10 しつけをほどこします。

片返し

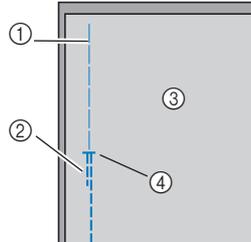
布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーの作品を作るときに使用します。



- ① ステッチ
- ② 表
- ③ あき止まり

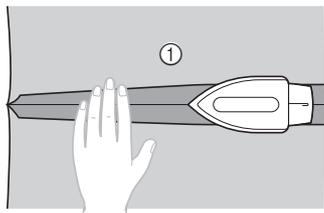
ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

- ① ジグザグ押え<J> を取り付けます。
- ② あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。
- ③ ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



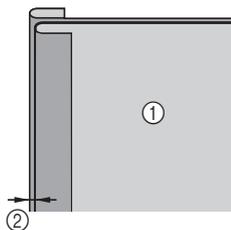
- ① しつけ
- ② 返しぬい
- ③ 裏
- ④ あき止まり

- ④ ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



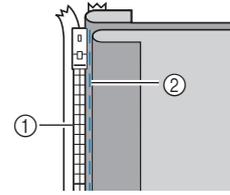
- ① 裏

- ⑤ 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを3mm出してアイロンをかけます。



- ① 裏
- ② 3mm

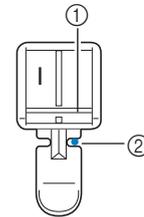
- ⑥ 3mm出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



- ① むし
- ② しつけ

- ⑦ 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



- ① ピン右側
- ② 針落ち位置

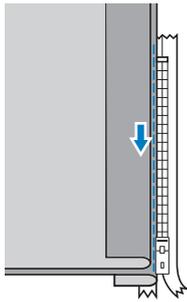
- ⑧ 模様  を選択します。

注意



- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。



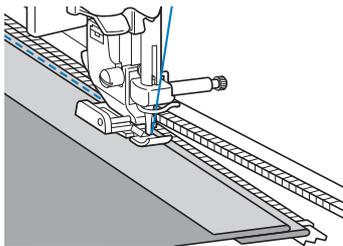
⚠ 注意



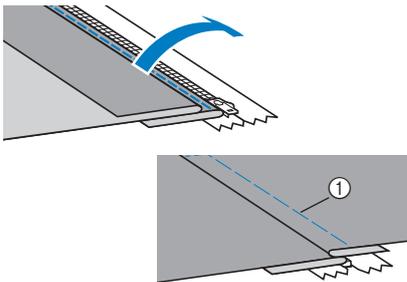
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 残り5cmの位置までぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 11 ファスナーを開いて続きをぬいます。



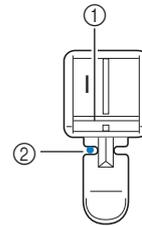
- 12 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



① しつけ

- 13 片押え<1>のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

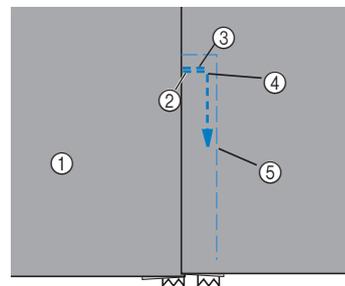
- 7 で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



- ① ピン左側
② 針落ち位置

- 14 布地の表からステッチをかけます。

- あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。



- ① 表
② あき止まり
③ 返しぬい
④ ぬい始め
⑤ しつけ

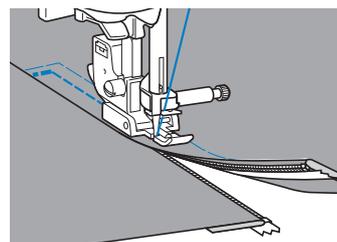
⚠ 注意



- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 15 残り5cmほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16 でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

- 次の表の見方は、巻頭の『実用ぬい編』の模様表の見方で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
伸縮ぬい		1-06	06*	J
2点ジグザグ		1-13	13	
3点ジグザグ		1-14	14*	
ゴムひもつけ		2-13	48	

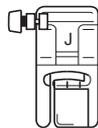
* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

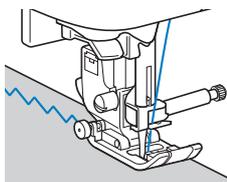
伸縮ぬい

- ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 模様 を選択します。

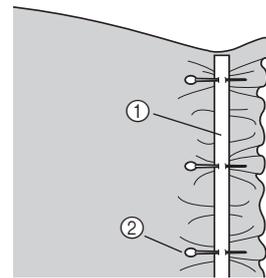
- 布地を伸ばさないようにぬいます。



ゴムテープつけ

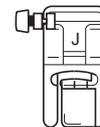
そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

- まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。
布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



- ① ゴムテープ
- ② まち針

- ジグザグ押え<J>を取り付けます。



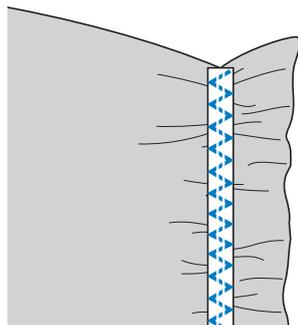
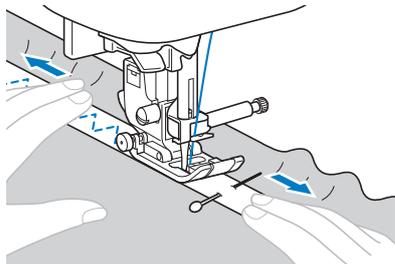
- 模様を選択します。

S

いろいろぬい方

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



⚠ 注意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ/パッチワーク/キルトぬい

- 次の表の見方は、巻頭の『実用ぬい編』の模様表の見方で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03	CPF73	押え
		シリーズ	シリーズ	
		模様番号		
ジグザグ (中基線)		1-09	09*	J
ジグザグ		1-33	33	
アップリケ		2-03	38	
		1-34	34	
ピーシング直線 (右基線)		1-29	29	
ピーシング直線 (中基線)		1-30	30	
ピーシング直線 (左基線)		1-31	31	
つきあわせ		2-07	42	
		2-08	43	
		2-09	44	
手ぬい風直線		1-32	32	
キルティング模様		1-35	35	

* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

⚠ 注意

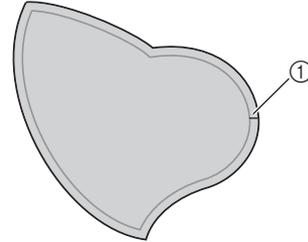
押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

お知らせ

- 模様右下に記されている「Q」は、その模様がキルト用であることを示し、「P」はピーシング用であることを示します。

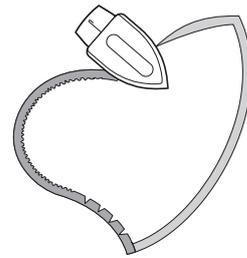
アップリケ

- アップリケ布は3～5mmのぬいしろをつけて裁断します。

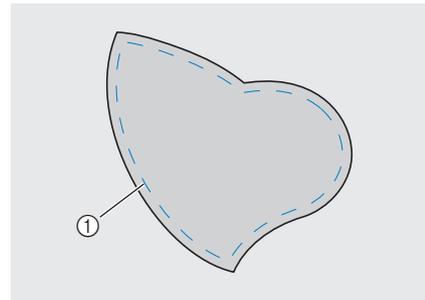


① ぬいしろ

- アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。



- アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつめたはのりでとめます。



① しつけ

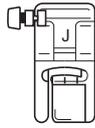
⚠ 注意

のりでアップリケ布を土台になる布地にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。

S

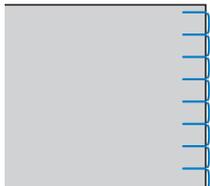
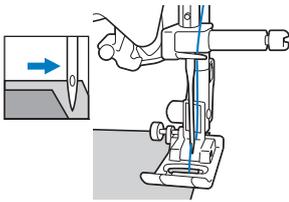
いろいろぬい方

- 4 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

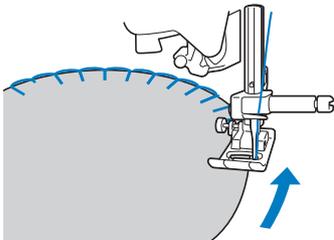


ジグザグ押え<J>

- 5 模様を選択します。
- 6 プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

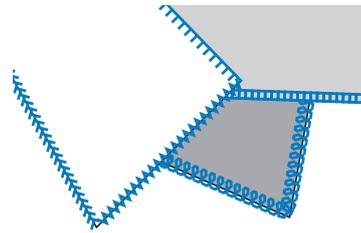
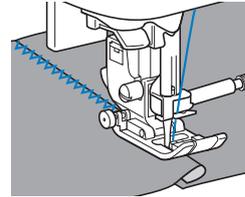


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク (クレイジーキルト)

- 1 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- 2 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

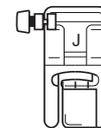


ピーシング

パッチワークで布と布 (ピース) をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて7mmのぬいしろを付けて裁断します。

ピーシング用直線は、押えの右端、または左端から7mmのところをぬいます。

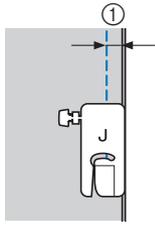
- 1 ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 3 模様 \overline{P} または \overline{P} を選択します。
- 4 押えの端に布端を合わせてぬいます。

■ぬいしろが右側のとき

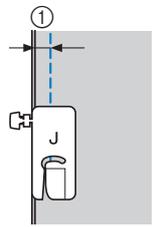
押えの右端に布端を合わせ、の模様でぬいます。



① 7mm

■ぬいしろが左側のとき

押えの左端に布端を合わせ、の模様でぬいます。



① 7mm



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）場合は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

■ガイド付ピーシング押え（別売）を使う

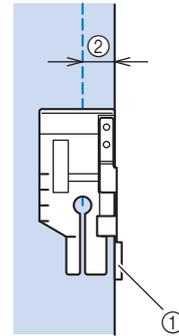
このピーシング押えを使うと、6.4mm または 3.2mm のぬいしろで正確に仕上がります。キルトのピーシングや、飾りぬいに使うことができます。

- 1  を選択し、次にガイド付ピーシング押えを取り付けます。

- 2 押えのガイドとしるしを使うと、正確なぬいしろで仕上がります。

ぬいしろ 6.4mm のピーシング

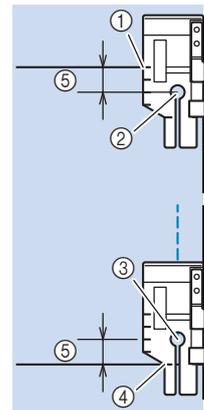
布地の端をガイドに当てながら、ぬいます。



- ① ガイド
- ② 6.4mm

正確なぬいしろで仕上げる場合

布地の端から 6.4mm の位置で、ぬい始め、ぬい終り、布地の回転を行います。



- ① このしるしを、ぬい始めの布地の端に合わせます。
- ② ぬい始め
- ③ ぬい終り
- ④ 布地のぬい終り、または布地を回転する側
- ⑤ 6.4mm

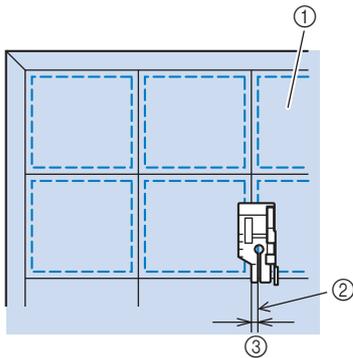


お知らせ

- ピボット機能を使用すると、ミシンを止めると自動的に針下停止の状態を押えが上がり、布を回転させるときに便利です。ピボット機能の詳細は、「基本機能編」の「ピボット」を参照してください。

3.2mm の飾りぬいキルト

布地の端を押えの左側に合わせて、ぬいます。



- ① 表
- ② ぬい目
- ③ 3.2mm

キルティング

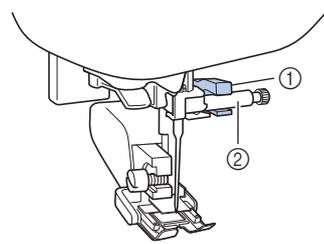
表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。別売のウォーキングフットやキルターを使用すると、きれいにぬうことができます。

お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通しレバーを使用する場合は、糸を通した後ウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみで使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないてください。自動返しぬい/止めぬいを設定するときは、ぬい始めに返しぬいをしない直線またはジグザグ模様を選択してください。詳細は、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。
- 設定画面で「自動押え圧補正」または「自動押え圧」を ON にすると、センサーが布地の厚さを自動的に読み取ります。スムーズに布送りでき、きれいに仕上げることができます。詳細は、「基本機能編」の「自動押え圧補正」を参照してください。

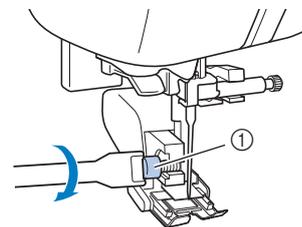
- 1 布地にしつけをします。
- 2 押えと押えホルダーを取り外します。
 - 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す/取り付ける」を参照してください。

- 3 ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。



- ① ふたまた部
- ② 針のとめネジの棒

- 4 押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを付属のドライバー（大）で確実にしめます。

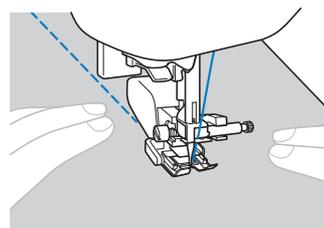


- ① 押えホルダーのネジ

注意

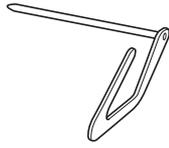
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジの締め方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にプーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 5 模様を選択します。
- 6 押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。



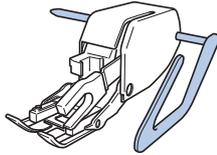
■ キルター（別売）を使う

キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

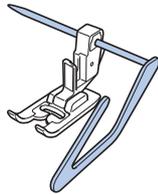


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

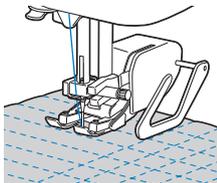
□ ウォーキングフット（別売）



□ 押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



フリーモーションキルト

フリーモーションキルトでは、フットコントローラー*を取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

* フットコントローラーは、EMG03シリーズでは別売です。

⚠ 注意



- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

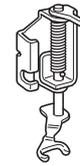
📖 お知らせ

- ミシンをフリーモーションモードにすると、押えがフリーモーションキルトに最適な高さになります。詳細は、「基本機能編」の「フリーモーションモードでぬう」を参照してください。

■ オープントゥキルト押え<O>* を使用する

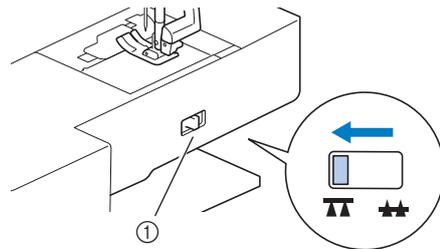
オープントゥキルト押え<O>は、ジグザグ模様や飾り模様でフリーモーションキルトをぬう場合や、厚さが均一ではない布地にフリーモーションキルトの直線ぬいをする場合に使用します。オープントゥキルト押え<O>を使用すると、いろいろな模様をぬうことができます。使用できる模様については、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。

* オープントゥキルト押え<O>は、CPF73シリーズでは別売です。



□ オープントゥキルト押え<O>

- 1 補助テーブルを外し、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側(▲▲)にします。



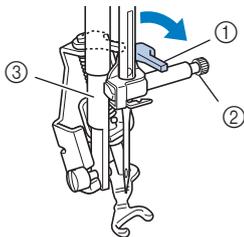
- ① ドロップレバー（背面から見た図）
→ 送り歯が下がります。

- 2 模様を選択します。

- 3 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す/取り付ける」を参照してください。

- 4 オープントゥキルト押え<O>のピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、オープントゥキルト押え<O>を取り付けます。



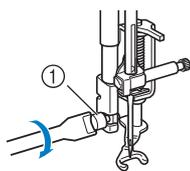
- ① ピン
- ② 針のとめネジ
- ③ 押え棒



お願い

- キルト押えが傾斜していないことを確認してください。

- 5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のドライバー(大)でしめます。

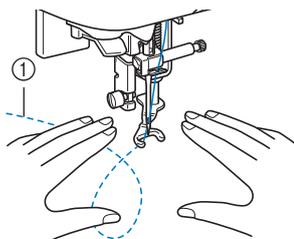


- ① 押えホルダーのネジ

注意

- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ~ 2.5mm になるようにぬいます。



- ① ぬい目

- 7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側(▲▲)にし、プーリーを回して送り歯を上げ、補助テーブルを元に戻します。



お知らせ

- 最初はきれいに仕上がらないことがありますが、練習を重ねて素敵な作品を作りましょう。

■ フリーモーションキルト押え<C> (別売) を使用する

フリーモーションキルト押え<C>は、直線針板(別売)を使用するフリーモーションぬいに使います。

- フリーモーションキルト押え<C>



注意

- フリーモーションキルト押え<C>を使用する場合、必ず直線針板を使用し、針位置を中央にしてぬうようにしてください。針が中央(中基線)以外の位置にあると、針が折れて、けがの原因となります。

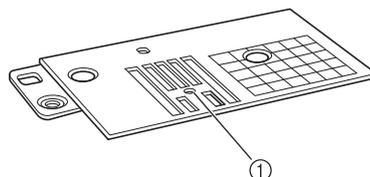


お知らせ

- ミシンをフリーモーションモードにすると、押えがフリーモーションキルトに最適な高さになります。詳細は、「基本機能編」の「フリーモーションモードでぬう」を参照してください。

- 1 直線針板(別売)を取り付けます。

- 直線針板の取り付け方については、直線針板に付属の説明書を参照してください。



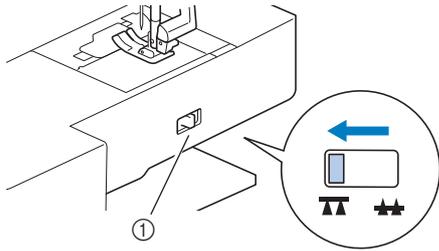
- ① 丸穴



お知らせ

- この針板の穴が丸穴であることに注意してください。

- 2 補助テーブルを外し、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側(▲▲)にします。



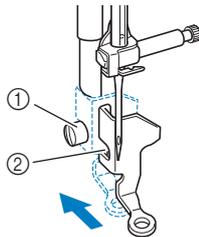
① ドロップレバー (背面から見た図)
→ 送り歯が下がります。

- 3 模様 $\frac{\text{甲}}{\text{p}}$ を選択します。

- 4 押えホルダーを取り外します。

• 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す/取り付ける」を参照してください。

- 5 押えホルダーのネジをフリーモーションキルト押え<C>のミゾに合わせて、前面から取り付けます。

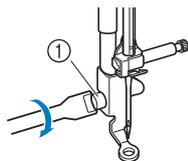


① 押えホルダーのネジ
② ミゾ

お願い

• フリーモーションキルト押え<C>が正しく取り付けられ、傾斜していないことを確認してください。

- 6 右手でフリーモーションキルト押え<C>を持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のドライバー (大) でしめます。



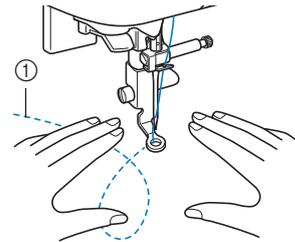
① 押えホルダーのネジ

注意



• ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 7 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約2.0～2.5mmになるようにぬいます。



① ぬい目

- 8 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側(▲▲)にし、プーリーを回して送り歯を上げ、補助テーブルを元に戻します。

- 9 ぬい終わった後は、必ず直線針板とフリーモーションキルト押え<C>を取り外し、針板と針板カバーを取り付けてください。

お知らせ

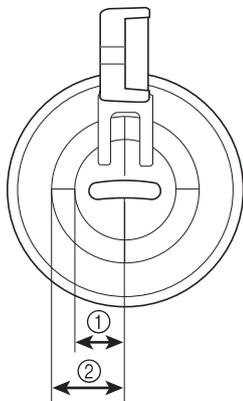
- オープントゥキルト押え<O> (別売) は、直線針板を組み合わせることもできます。厚さが均一ではない布地のフリーモーションぬいにオープンキルト押え<O>を使うことをお勧めします。
- 直線針板を使用するときは、直線ぬい模様がすべて中基線になります。振り幅の設定でも、針落ち位置を変えることはできません。
- 最初はきれいに仕上がらないことがありますが、練習を重ねて素敵な作品を作りましょう。

■ エコーキルト押え<E> (別売) を使用して、エコーキルトをぬう

モチーフの周囲を等間隔で幾重にもキルトする方法を、エコーキルトと呼びます。モチーフによって波状に広がる線が、エコーキルトの特徴です。エコーキルトにはエコーキルト押え<E>を使用します。押えの寸法を参考にして、モチーフの周囲を一定の間隔でぬいます。フットコントローラーを取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。



エコーキルト押え<E>の寸法



- ① 6.4mm
- ② 9.5mm

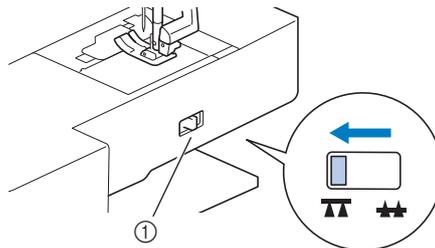
⚠ 注意

- フリーモーションキルトでは、布を送る速度がぬう速度に合うように調節します。ぬう速度よりも速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

📖 お知らせ

- ミシンをフリーモーションモードにすると、押えがフリーモーションキルトに最適な高さになります。詳細は、「基本機能編」の「フリーモーションモードでぬう」を参照してください。

- 1 補助テーブルを外し、ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側(▲)にします。

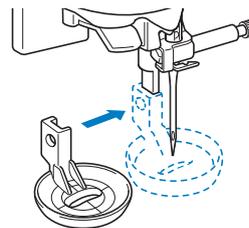


- ① ドロップレバー (背面から見た図)
→ 送り歯が下がります。

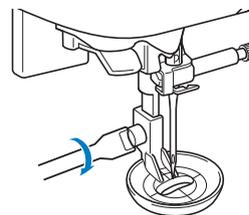
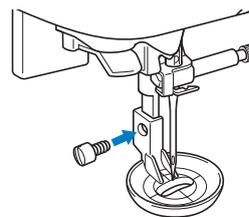
- 2 模様  を選択します。

- 3 押えホルダーとネジを取り外します。(「基本機能編」参照)

- 4 エコーキルト押え<E>の穴と押え棒を合わせて、エコーキルト押え<E>を押え棒の左側に置きます。



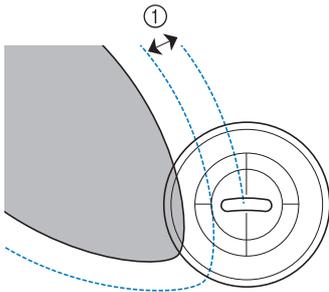
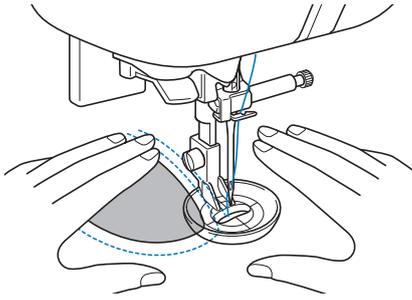
- 5 付属のドライバーでネジをしめます。



⚠ 注意

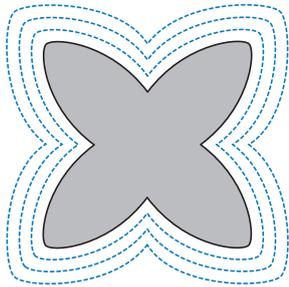
- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6 エコーキルト押え<E>の寸法を参考にして、モチーフの回りをぬいます。



① 6.4mm

完成した作品



- 7 ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側(▲▲)にし、プーリーを回して送り歯を上げ、補助テーブルを元に戻します。

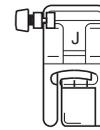
振り幅コントロールを使用したサテンぬい

サテン模様でジグザグの振り幅を変化させて、飾り模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。ぬう速度は、フットコントローラー*で調節します。

* フットコントローラーは、EMG03シリーズでは別売です。

- 1 フットコントローラーを取り付けます。

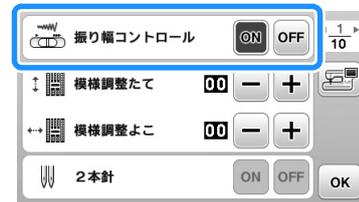
- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



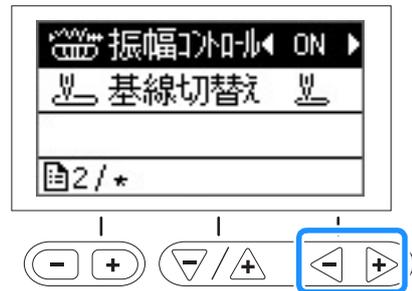
- 3 設定画面を表示し、「振り幅コントロール」または「振幅コントロール」を「ON」にします。

設定画面は、お使いのミシンのシリーズによって異なります。

EMG03シリーズ



CPF73シリーズ



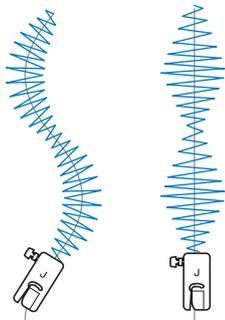
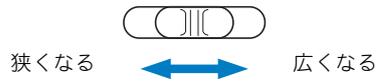
→ 模様の振り幅がスピードコントロールレバーで調節できるように設定されました。

- 4 を押します。

- 5 模様 を選択します。

6 ぬいながら、スピードコントロールレバーを動かして、振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと、振り幅は狭くなり、右に動かすと、振り幅は広がります。



- ぬい速度は、フットコントローラーで調節します。

7 ぬい終わったら、「振り幅コントロール」または「振幅コントロール」を「OFF」に戻します。



お知らせ

- 仕上がりは、布地の種類や糸の太さによっても変わりますが、ぬい目の長さを 0.3 ~ 0.5mm に設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するとき 사용합니다。

- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	模様番号		押え
		EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	
3重ぬい		1-05	05*	J
かんどめ		4-13	89	A
ダーニング		4-11	87	
		4-12	88	

* 印の模様は、「ダイレクト選択モード」で、該当する数字キーを押せば選択できます。「基本機能編」を参照してください。

注意

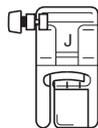


- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

3重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

- ジグザグ押え <J> を取り付けます。

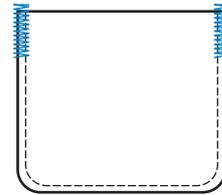


- 模様 を選択します。
- ミシンをスタートさせます。

かんどめ

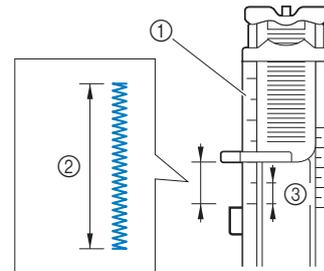
かんどめは、ポケット口やあき止まりなど、力のかかる部分を補強するとき 사용합니다。

ここでは、ポケット口にかんどめをする場合を例に説明します。



- かんどめの長さを決めます。

ボタン穴かがり押え <A> の押えスケールの目盛り (1目盛り 5mm) を合わせて、長さを決めます。

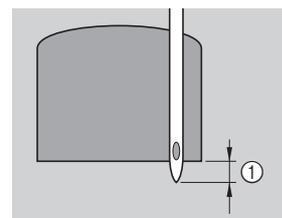


- 押えスケール
 - かんどめのでき上がり寸法
 - 5mm
- 最大約 28mm のかんどめができます。

- ボタン穴かがり押え <A> を取り付けます。

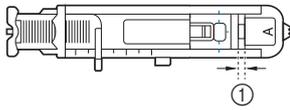
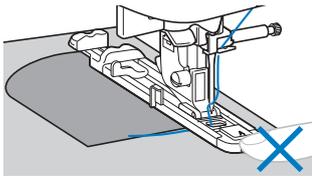
- 模様 を選択します。

- ポケット口が手前になる向きに布地を置き、ポケット口より 2mm 手前に針が刺さる位置で押えを下げます。



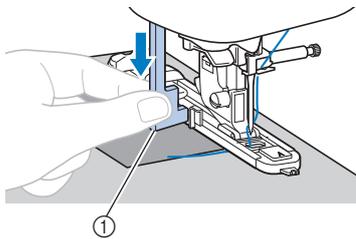
- 2mm
上糸は押えの穴から押えの下に通しておきます。

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。かんどめを正確な大きさにぬえません。

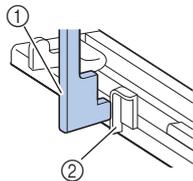


① すきまをなくさない

- 5** ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

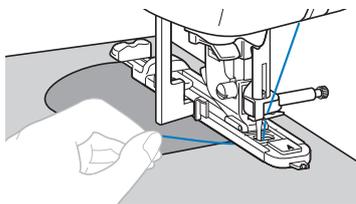


① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



① ボタン穴かがりレバー
② 突起部

- 6** 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



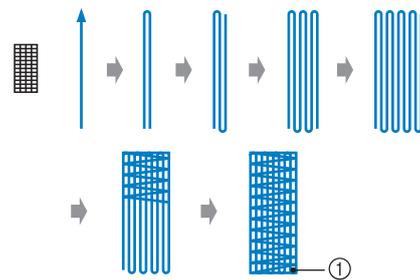
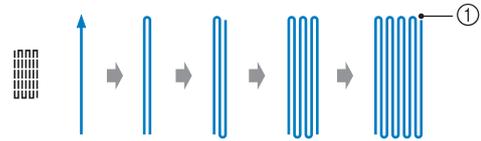
- 7** 押えを上げ、布地を取りだしてから、糸を切ります。

- 8** ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

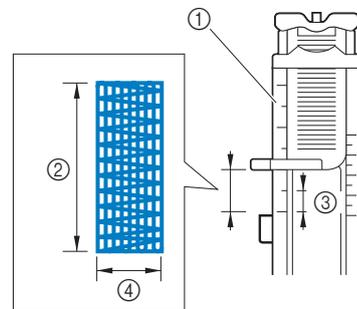
つくろいぬい（ダーニング）



① 止めぬい

- 1** つくろいぬいをする長さを決めます。

ボタン穴かがり押え< A >の押えスケールの目盛り（1目盛り5mm）を合わせて、長さを決めます。



① 押えスケール
② ダーニングのでき上がり寸法
③ 5mm
④ 7mm

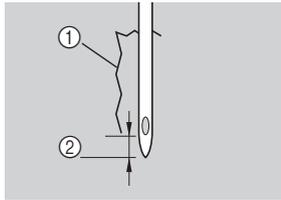
- 最大約 28mm のダーニングができます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 2** ボタン穴かがり押え< A >を取り付けます。

- 3** 模様 または を選択します。

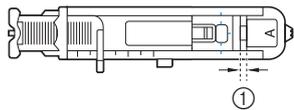
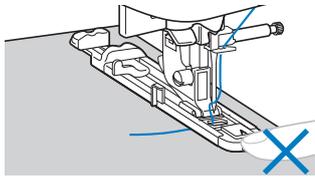
- 4 やぶれた箇所から 2mm 手前に針が刺さるように布地を置き、押えを下げます。



- ① やぶれた箇所
- ② 2mm

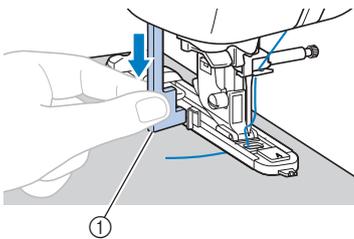
上糸を押えの穴から押えの下に通し、押えを下げます。

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。ダーニングを正確な大きさにぬえません。

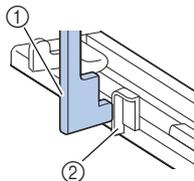


- ① すきまをなくさない

- 5 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

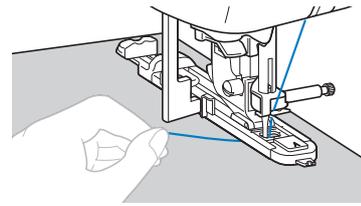


- ① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- ① ボタン穴かがりレバー
- ② 突起部

- 6 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



- 7 押えを上げ、布地を取りだしてから、糸を切ります。

- 8 ボタン穴かがりレバーを元に戻します。

 お知らせ

- 厚地などで布地が進まないときは、ぬい目を長く（ぬい目をあらく）します。詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

はとめ穴を作る

ベルトの穴などに使用するはとめ穴（アイレット）を作ります。

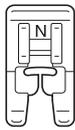
- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	 CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
アイレット		4-15	91	N

⚠ 注意

- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 1 模様ぬい押え < N > を取り付けます。



- 2 模様  を選択します。

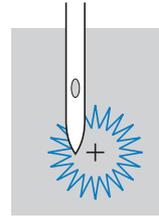
- 3 ジグザグの振り幅、またはぬい目の長さのいずれかを調節して、穴の大きさを選択します。



- ① 7mm
- ② 6mm
- ③ 5mm

- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」および「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

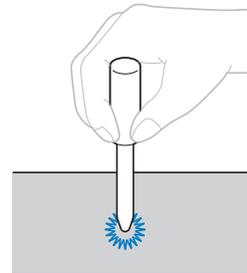
- 4 ぬい始めの位置に針を刺し、押えを下げます。



- 5 ミシンをスタートさせます。

→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

- 6 付属のはとめ穴パンチで穴をあけます。



- 布地の下に厚紙などを敷いて穴をあけます。

📖 お知らせ

- 細い糸でぬうと、ぬい目があらかくなる場合があります。その場合は、重ねて2回ぬうときれいにできあがります。

横送り（直線・ジグザグ）

袖やズボンなどの筒状の布地にワッペンなどをつける場合などに使います。

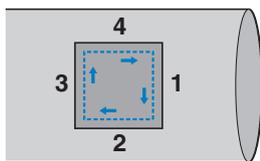
- 次の表の見方は、巻頭の「『実用ぬい編』の模様表の見方」で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え
		模様番号		
横送り直線	↑↓	5-01	92	N
	←→	5-02	93	
	→←	5-03	94	
	↓↑	5-04	95	
横送りジグザグ	↗↖	5-05	96	
	↘↙	5-06	97	
	↕↔	5-07	98	
	↔↕	5-08	99	

⚠ 注意

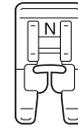
- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

筒状の布地をフリーアームに通し、図のようにぬいます。



- 補助テーブルを外してフリーアームにします。

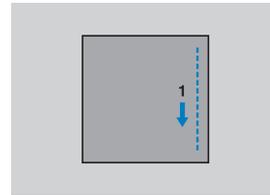
- 模様ぬい押え < N > を取り付けます。



- 模様  ↓ を選択します。

- ぬい始めの位置に針をさし、ミシンをスタートさせます。

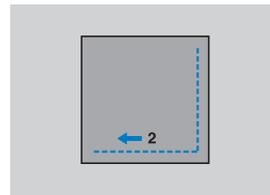
右上の角に針をさします。



→ 布地は通常どおり、奥へ送られます。

- 角までぬったら、ミシンを止め、模様  ← を選択します。

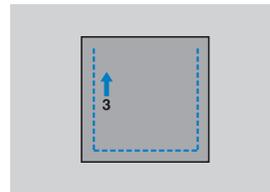
- ミシンをスタートさせます。



→ 布地は右へ送られます。

- 角までぬったら、ミシンを止め、模様  ↑ を選択します。

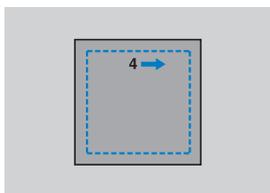
- ミシンをスタートさせます。



→ 布地は手前に送られます。

9 角までぬったら、ミシンを止め、模様  を選択します。

10 ミシンをスタートさせます。



→ 布地は左へ送られます。

11 角までぬったら、ミシンを止め、ふたたび模様  を選択します。

12 ぬい始めの位置で3～5針ぬってから、ミシンを止めます。



お知らせ

- 布地が送られる方向は、選択する模様によって変わります。布地が曲がらないように手で軽く押さえながらぬってください。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

- 次の表の見方は、巻頭の『「実用ぬい編」の模様表の見方』で説明しています。参照してください。

名前	ぬい方	EMG03 シリーズ	CPF73 シリーズ	押え	
		模様番号			
つきあわせ		2-07	42	J	
		2-08	43		
		2-09	44		
シェルタック		2-04	39		
スモッキング		2-10	45		
ファゴティング		2-11	46		
		2-12	47		
サテンスカラップ		2-05	40		
飾りぬい		3-04	58		N
		3-06	60		
		3-09	63		
		3-10	64		
		3-12	66		
		3-18	72		
		3-20	74		
		3-21	75		
		3-22	76		
		2-14	49	J	
		2-15	50		
		2-16	51		
		2-17	52		

注意



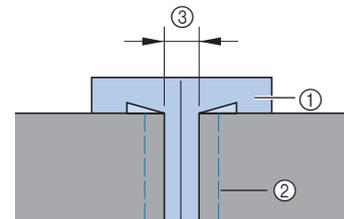
- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかかるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

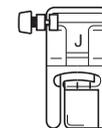
- 1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。
- 2 ハトロン紙などの薄い紙（または刺しゅう用接着芯）に4mmの間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）の中央に線を書いておくとぬいやすくなります。



- ① ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）
- ② しつけ
- ③ 4mm

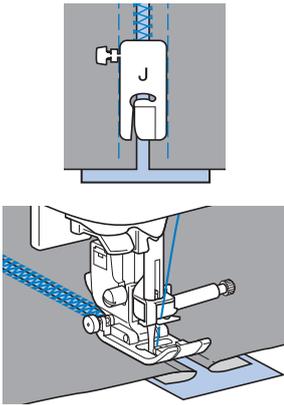
- 3 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



- 4 模様 または を選択します。

- 5 ジグザグの振り幅を7.0mmに設定します。

- 6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。

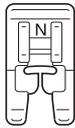


- 7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スカラップ

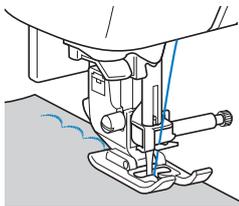
貝殻を並べたような連続した波形の模様を「スカラップ」といいます。ブラウスの衿やハンカチのふち飾りなどに使用します。

- 1 模様ぬい押え< N >を取り付けます。



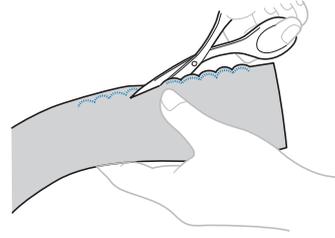
- 2 模様  を選択します。

- 3 模様が布端にかからないように、布端から少し離してぬいます。



- ぬう前に布地にアイロン用スプレーのりをかけておくと、きれいに仕上がります。

- 4 ぬい目にそって布端を切ります。



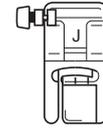
- 糸を切らないように注意してください。

スマッキング

ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スマッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

- 1 ジグザグ押え< J >を取り付けます。



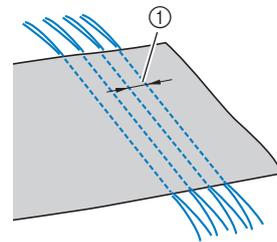
- 2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

下糸は上に引き出しておきます。

- 詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」「糸調子を調節する」および「下糸を引き出す」を参照してください。

- 3 1cm の間隔をあけて、平行に数本ぬいます。

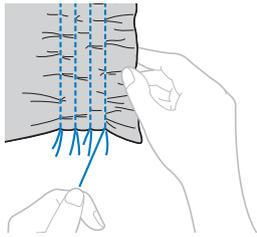
ぬい終わりは、糸を 5cm ほど引き出して切ります。



① 1cm

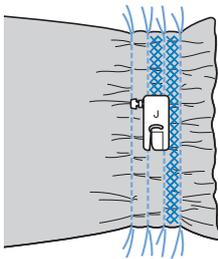
- 返しぬいと糸切りはしないでください。

- 4 下糸を引いてギャザーを寄せます。
アイロンでギャザーを整えておきます。

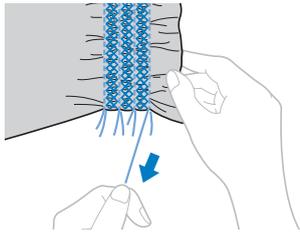


- 5 模様  または 、 を選択します。

- 6 直線ぬいの間をぬいます。



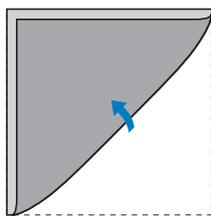
- 7 直線ぬいの糸を抜き取ります。



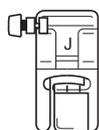
シェルタック

貝殻を並べたような連続したひだを作ることを「シェルタック」といいます。ふちどりや、ブラウスの胸もと、そで口の飾りなどに使用します。薄地の布地を使用します。

- 1 布地をバイアスに折ります。

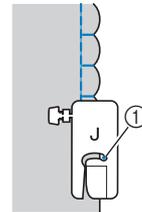


- 2 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

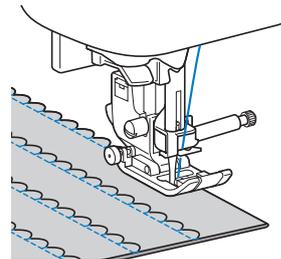


- 3 模様  を選択し、上糸を強めにします。

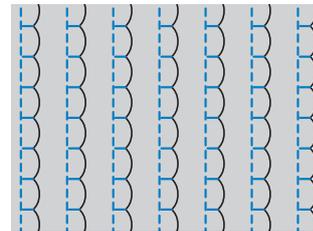
- 4 針が布端から少し外に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置



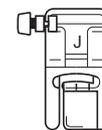
- 5 布地を開き、折り山を片側に倒してアイロンをかけます。



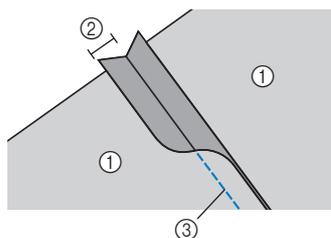
つき合わせ

つき合わせたぬいしろ部分の上から飾り模様をぬいます。クレイジーキルトなどに使用します。

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。



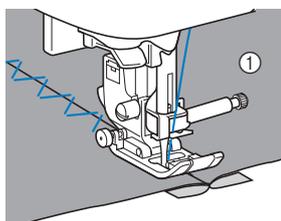
- 2 直線ぬいを選択し、布地を中表にしてぬい合わせ、ぬいしろを開きます。



- ① 裏
② ぬいしろ 7mm
③ 直線ぬい

- 3 模様 または 、 を選択します。

- 4 布地を表に返し、押えの中心と布地と布地の中心を合わせてぬいます。

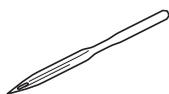


- ① 表

ヘアールーム

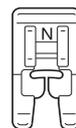
別売のウィングニードルを使用し、針穴を大きくあけてレース風の飾り模様をぬいます。すその飾りやテーブルクロスなどに使用します。薄地または普通地で、張りのある平織りの布地を用意します。

- 1 ウィングニードルを取り付けます。



- ウィングニードルは、モデル名：WN001 を使用してください。
- 針の取り付け方の詳細は、「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。
- ウィングニードルを取り付けたときは、糸通し装置は使用できません。糸通し装置を使用すると、故障の原因となります。針穴の手前から向こう側に手で糸を通してください。詳細は、「基本機能編」の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。

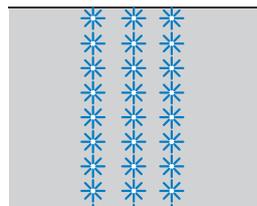
- 2 模様ぬい押え < N > を取り付けます。



- 3 模様を選択します。

模様は が適しています。

- 4 ミシンをスタートさせます。

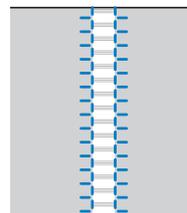


⚠ 注意

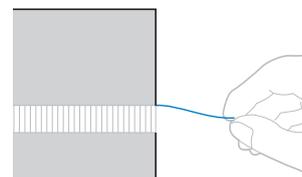
- ウィングニードルを使用するときは、ジグザグの振り幅は、6.0mm 以下に設定してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- ジグザグの振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ヘアールームの一種で部分的に糸を抜き取ってかかるぬい方を「ドロンワーク」といいます。織りがゆるい布地を使用すると、きれいに仕上がります。ここではドロンワークのぬい方の例を2つ紹介します。

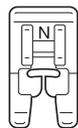
■ ドロンワーク (例1)



- 1 布地の織り糸を数本抜き取ります。

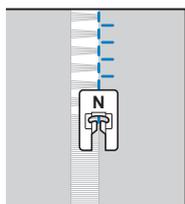


- 2 模様ぬい押え< N >を取り付けます。



- 3 模様  を選択します。

- 4 織り糸を抜き取った右端をぬいます。

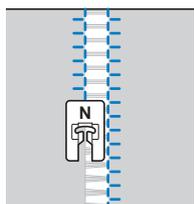


- 5 左右反転キーを押します。

- 詳細は、「基本機能編」の「模様を左右反転させる」を参照してください。

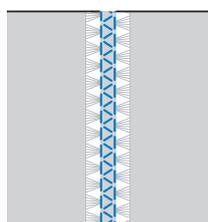
→ 画面に表示された模様が反転します。

- 6 模様が対照になるように、反対側をぬいます。

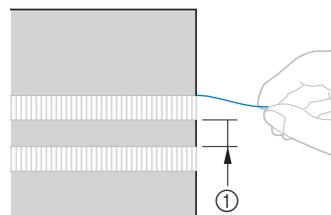


- 7 左右反転キーを押し、模様の反転を解除します。

■ ドロンワーク (例 2)

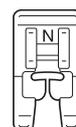


- 1 布地の織り糸を数本抜き取り、約 4mm の間隔をあけて、同様に抜き取ります。



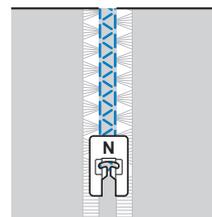
① 4mm

- 2 模様ぬい押え< N >を取り付けます。



- 3 模様  を選択します。

- 4 織り糸を抜き取った間の布地の中心をぬいます。



文字・飾りぬい編

ここでは、文字模様・飾り模様のぬい方や、調整・編集のしかたを紹介しています。さらに、オリジナルの模様を作成できるマイイラスト機能の使い方も紹介します。ページ数は、「D」の記号で始まります。

第1章 文字模様／飾り模様..... D-2

第2章 マイイラスト機能..... D-12

⚠ 注意



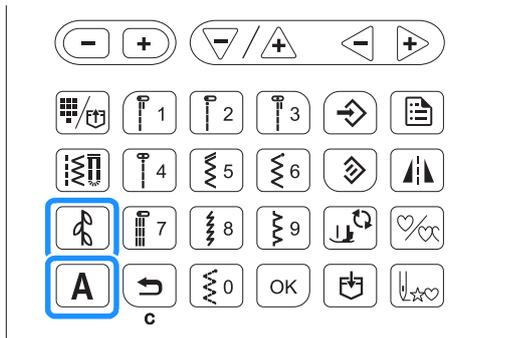
- 押えを交換する前に、必ず操作パネルの  (針・押え交換キー) を押して、すべてのキーとスイッチをロックしてください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをすることがあります。押えの交換については、「基本機能編」の「押えの交換」を参照してください。

第 1 章 文字模様／飾り模様

飾り模様をぬう

模様を選択する

本機には、以下の飾り模様、文字模様が内蔵されています。

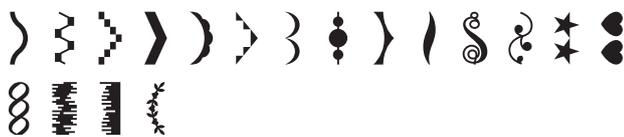


飾り模様

操作キー	模様の種類	アイコン
🎵	飾り模様 マイイラスト (97 番)	🔑1
	大型サテンステッチ 7mm サテンステッチ クロスステッチ	🔑2
	実用飾り模様	🔑3

🔑2 のカテゴリには、3 種類の模様が含まれています。

大型サテンステッチ



7mm サテンステッチ



クロスステッチ



文字模様

操作キー	フォント	アイコン
A	ゴシック体	🔑AB
	筆記体	🔑3
	アウトライン文字	🔑AB
	キリル文字	🔑AB
	ひらがな／カタカナ／数字／漢字	🔑あい

飾り模様／文字模様を選択するには、🎵 または A を押してから、数字キーを使って、ぬいたい模様の番号を入力します。

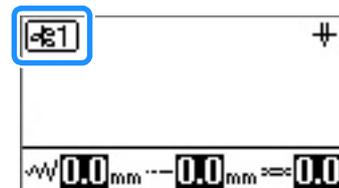
📖 お知らせ

- 内蔵されている飾り模様、文字模様については、別冊の「模様一覧」を参照してください。

■ 飾り模様を選択する

🎵 を押すごとに、以下の順で飾り模様のカテゴリが切り替わります。

🔑1 → 🔑2 → 🔑3 → 🔑1 . . .



お好みの模様を含むカテゴリを選択した後、模様番号を入力します。

📖 お知らせ

- 01 ~ 09 番の模様は、以下の方法でも選択できます。
該当する 1 桁の数字キーを押す (01 ならば「1」を押す) → OK を押す。
- 入力を間違えたときは、🔑 を押して、入力した数字を消去します。

■ 文字模様を選択する

[A] を押すごとに、以下の順でフォントが切り替わります。

[AB] → [23] → [AB] → [AB] → [あい] → [AB] . . .



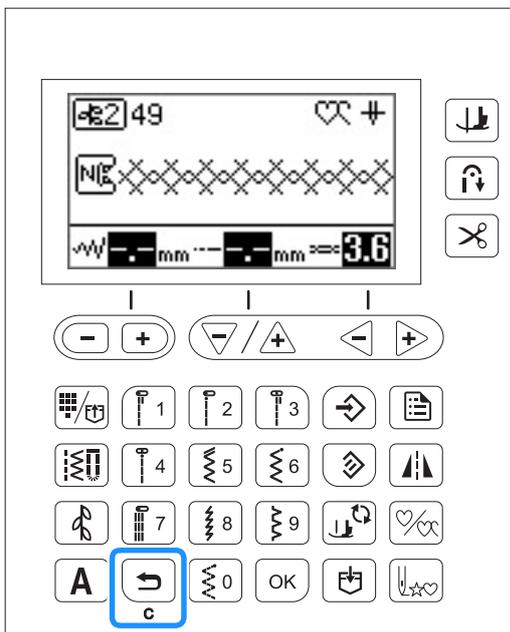
好みのフォントを選択した後、模様番号を入力します。

お知らせ

- 100 以上の模様を含むカテゴリから模様を選択する場合、模様番号を 3 桁で入力（例：001 など）すれば、[OK] を押さなくても模様が確定されます。1 桁か 2 桁で入力した場合は、[OK] を押して模様番号を確定させてください。

模様を消去する

選択した模様を消去する場合は、操作パネルの [C] を押します。



→ 選択した模様が消去されます。



お知らせ

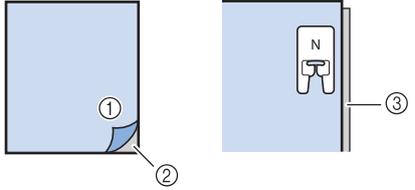
- 選択した模様を消去せずに次の模様を選択すると、最初の模様と次の模様が組み合わせられます。（D-5 の「模様を組み合わせる」参照）
- すでに 2 つ以上の模様が選択されている場合は、最後に選択した模様から順に消去されます。

きれいにぬうために

きれいに飾り模様／文字模様をぬうために、布地・糸・針については以下の表を参照してください。

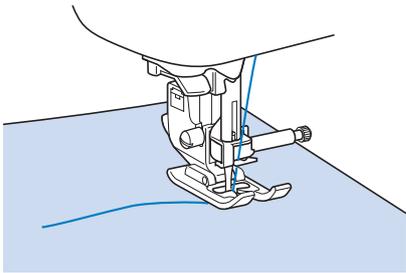
お願い

- 布地の種類や厚さ、接着芯の種類などによって、模様がくずれることがあります。必ず試しぬいをしてください。
- 布地の種類、ぬう速さによっては、模様の調整が必要になることがあります。実際に作品をつくるときと同じ布地で試しぬいをしながら、調整してください。（D-10 の「模様の調整をする」参照）
- サテステッチをぬうときは、ぬい縮みや目詰まりを起こすことがあるため、必ず接着芯を貼ってください。
- ぬうときには布地がずれないように、手を添えてぬってください。

布地	伸びる布地、薄地、織りのあらい布地は、裏面に別売の接着芯を貼ってください。接着芯を貼りたくないときは、ハトロン紙などの薄い紙を布地の下に敷いてぬってください。 
糸	50 ～ 60 番
針	薄地、普通地：家庭用ミシン針 11 番 伸びる布地：ニット用針（金色） 11 番 厚地：家庭用ミシン針 14 番
押え	模様ぬい押え < N > 模様ぬい押え < N > 以外を使用すると、きれいに仕上がらないことがあります。
2 本針	7mm サテステッチをぬうときは、2 本針（11 番）を使用することができます。その場合は、ジグザグ押え < J > を使用ください。

基本的なぬい方

- 1 飾り模様／文字模様を選択します。
- 2 模様ぬい押え< N >を取り付けます。
- 3 布地を押えの下に置き、上糸を押えの下から横に出し、④(針上下スイッチ)で針を下げた後、押えを下げます。



- 4 スタート/ストップスイッチを押してぬい始めます。

⚠ 注意

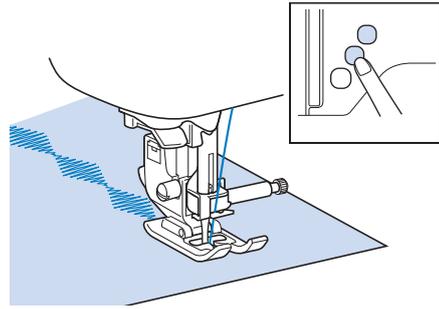
- 7mm サテンステッチを使った模様などでぬい目が詰まる場合は、ぬい目の長さをあらくしてください。ぬい目が詰まった状態で無理にぬい続けると、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。(「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」参照)

📖 お知らせ

- ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたりすると、模様があぐずれるおそれがあります。また、模様によっては前後に加え、左右にも動くため、布地がまっすぐ送られるように布を軽く押さえながらぬってください。

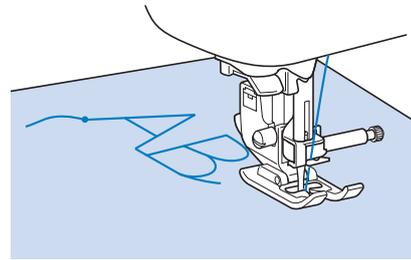
- 5 スタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めます。

- 6 ④(返しぬいスイッチ) または⑤(止めぬいスイッチ)を押して、止めぬいをします。

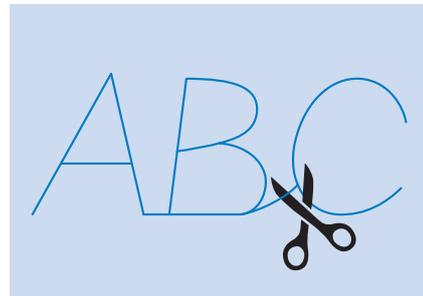


📖 お知らせ

- 文字ぬいの場合は、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬいをします。



- ぬい終わったら、余分な糸(渡り糸)を切り取ります。

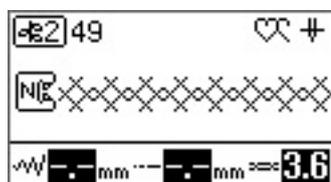


- 選択した模様によっては針が上に停止したまま布地を送ります。そのとき、縫製音とは異なった音がしますが故障ではありません。

模様を組み合わせる

1 ひとつ目の模様を選択します。

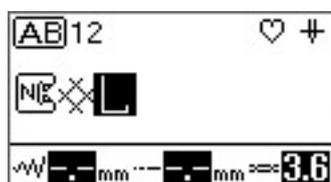
→ 選択した模様が画面に表示されます。



- 選択した模様は連続ぬいが設定されています。

2 次の模様を選択します。

→ 組み合わせられた模様が画面に表示されます。



- 選択した模様を消去する場合は、操作パネルの  を押します。最後に選択した模様から順に消去されます。

3 模様をすべて選択し終わったら、ぬい始めます。



→ 画面に表示されている順で、模様がぬわれます。

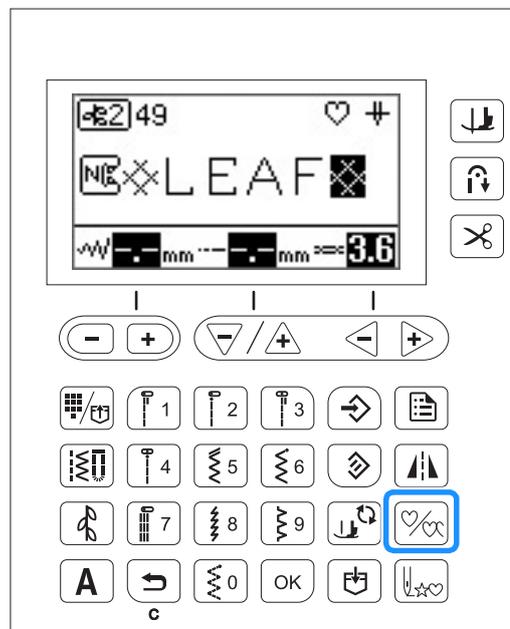
お知らせ

- 70 模様まで組み合わせることができます。
- 組み合わせた模様は、単独ぬい（表示された模様をひとつおりのぬい終わるとミシンが止まるモード）が設定されています。組み合わせた模様を繰り返しぬいたい場合は、D-5 の「組み合わせ模様を繰り返しぬう」を参照してください。
- 組み合わせた模様を記憶させておき、繰り返し使うことができます。詳細は、D-9 の「模様を記憶させる」を参照してください。
- 振り幅や長さを調節できる模様と、調節できない模様を組み合わせた場合、組み合わせた模様の振り幅や長さは調節できますが、調節した設定値は、振り幅や長さが調節できる模様にものみ反映されます。

組み合わせ模様を繰り返しぬう

組み合わせた模様は、単独ぬい（表示された模様をひとつおりのぬい終わるとミシンが止まるモード）が設定されています。組み合わせた模様を繰り返しぬいたい場合は、以下の手順で操作してください。

1 模様を組み合わせた後、 を押します。



→ 画面の  が  に変わり、組み合わせた模様が連続ぬい（繰り返しぬえるモード）になります。



→ もう一度押すと （単独ぬい）に戻ります。

お願い

- 連続ぬいの設定にすると、ミシンを止めるまで繰り返し模様をぬいます。
- ミシンの電源を切ると、連続ぬい／単独ぬいの設定は、初期値に戻ります。

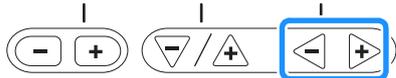
模様を確認する

組み合わせた模様が液晶画面に表示しきれないときは、次の手順で模様を確認します。

- 1 設定画面で \checkmark ABC を表示します。



- 2 \leftarrow \rightarrow で模様を横にスクロールし、模様を確認します。



- 3 \rightarrow を押します。

お知らせ

- 組み合わせた模様を記憶させておき、繰り返し使うことができます。詳細は、D-9 の「模様を記憶させる」を参照してください。

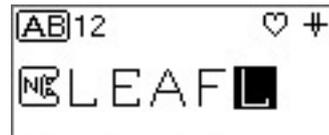
模様の大きさを変える

飾り模様、大型サテンステッチ、および文字模様は、模様の大きさを大／小に切り替えることができます。

- 1 模様を選択します。
- 2 設定画面で \square (大小切替え) を表示し、 \square (大) または \square (小) を選びます。



- 3 \square (大)



- 3 \square (小)



- 3 手順 1 2 を繰り返します。

LEAFLEAF

模様の密度を変える

大型サテンステッチを選択した場合は、模様の密度を変えることができます。

- 1 大型サテンステッチを選択します。



- 2 設定画面で、 \equiv (糸密度) を表示し、糸密度を選択します。 \equiv はあらく、 \equiv は細くなります。



注意

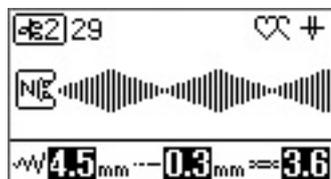


- 密度を細かく設定すると、糸によってはぬいづまりが起こり、針が折れることがあります。

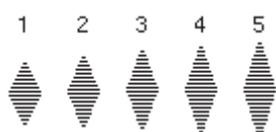
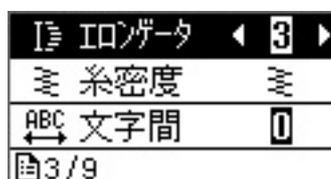
模様の長さを変える

7mm サテンステッチは、模様ひとつ分の長さを、5段階で変えることができます。

- 1 7mm サテンステッチを選択します。



- 2 設定画面で「I」(エロンゲータ)を表示し、「1」から「5」の中から、お望みの長さを選択します。



文字間を変更する

- 1 文字模様を選択します。
- 2 設定画面で「ABC」(文字間)を表示します。
- 3 ◀ ▶を押して、文字間を調整します。

設定値が大きいほど文字間は大きくなり、設定値が小さいほど文字間は小さくなります。

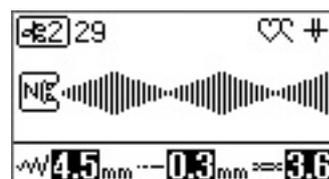


ステップ模様をつくる

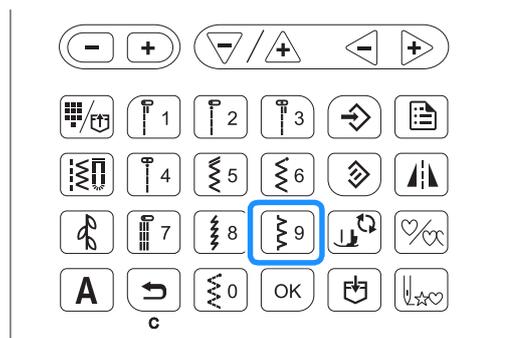
飾り模様は、模様の幅の半分の長さ分、右や左に移動させ、ステップ状の模様をつくることができます。これを「ステップ模様」といいます。ここでは、例として、以下の模様をつくる手順を紹介します。



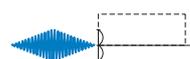
- 1 飾り模様を選択します。



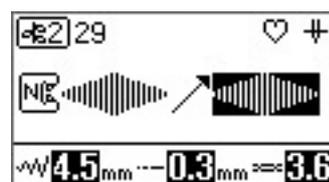
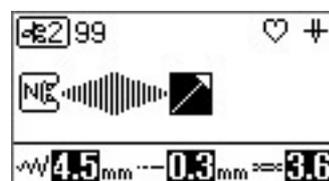
- 2 [9] [9]を押します。



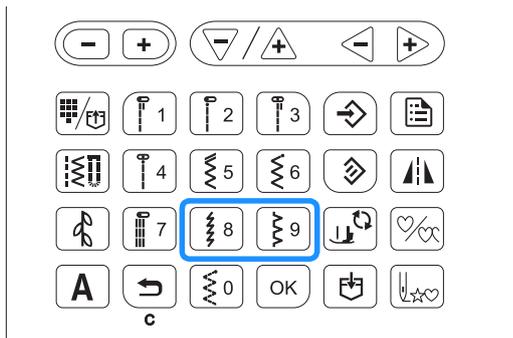
→ 次に選ぶ模様が、右へ移動します。



- 3 同じ模様を選択します。



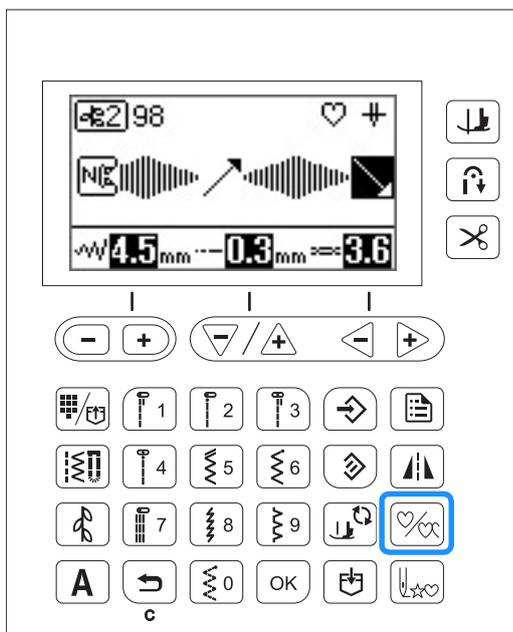
4 を押します。



→ 次に選ぶ模様が、左へ移動します。

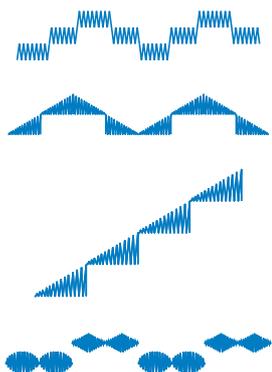


5 を押して、模様を連続ぬいにします。



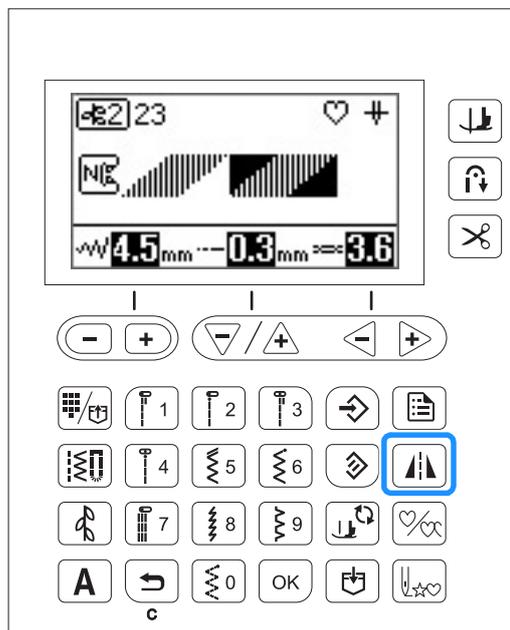
- 詳細は、D-5の「組み合わせ模様を繰り返しぬう」を参照してください。

■ その他の組み合わせ例



模様を反転させる

1 模様をひとつ選択した後、 を押すと左右に反転できます。



→ 画面に が表示され、選択した模様が左右反転されます。



模様の始めに戻る

試しぬいの後や模様が正しくぬわれていないときには模様の始めに戻ることができます。

- 1 スタート/ストップスイッチを押して、ミシンを止めてから、を押します。



→ ミシンを止めた位置から、選択された模様のぬい始めの位置（上の例では、「WJ」）に戻ります。

お知らせ

- ミシンの停止中に、模様の頭出しキーを押した後、数字キーを押したときは、組み合わせ模様の最後に模様が追加されます（下の例では、「！」が追加されています）。



- 2 スタート/ストップスイッチを押して、続行します。

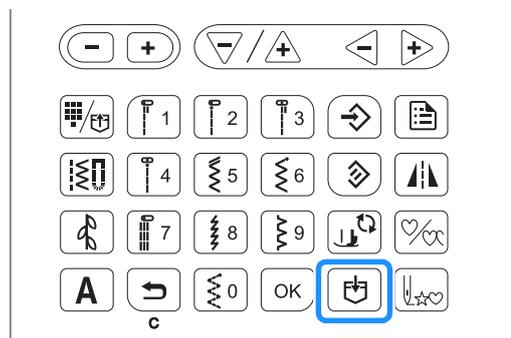
模様を記憶させる

組み合わせた模様は、記憶させておくことができます。記憶させた模様は、ミシンの電源を切っても失われず、いつでも呼び出して使うことができます。15 模様まで記憶することができます。

- 1 記憶させたい組み合わせ模様をつくりま

- 詳細は、D-5 の「模様を組み合わせる」を参照してください。

- 2 操作パネルの  を押します。



→ 模様を記憶するポケットの一覧が表示され、空いているポケットが選択された状態になります。

- 3  を押します。

- 模様の記憶中は、電源スイッチを切らないでください。記憶されている模様データが消えるおそれがあります。

お知らせ

- 模様を記憶するポケットを指定するには、 または  を押してポケットを選んでから、 を押します。
- すでに模様が記憶されているポケットに新しい模様を記憶させると、模様は上書きされます。
- 空いているポケットがない場合は、上書きされてもかまわない模様のポケットを選んでください。
- 選択したポケットの内容全体を確認したい場合は、  を押して、模様を左右にスクロールします。
- 一旦記憶させた模様を消去するには、別の模様で上書きする方法しかありません。ポケットを空にしたい場合は、模様を選択していない状態で  を押します。

模様を呼び出す

- 1 を1回または2回押して、以下のような、記憶した模様の一覧を表示します。



- 2 または を押して、呼び出した模様を選択します。



→ 選択されているポケットは、白黒反転表示され、記憶されている模様が表示されます。

お知らせ

- 選択した模様の全体を確認したい場合は、 を押して、模様を左右にスクロールします。



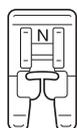
- 3 内容を確認して、 を押します。

模様の調整をする

布地の種類やぬう速さによっては、模様がかずれる場合があります。模様がかずれた場合は、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、調整してください。

模様の調整には、 の模様 (カテゴリーの80番) を使用します。

- 1 模様ぬい押え < N > を取り付けます。



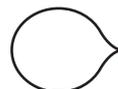
- 2 を選択します。

- 3 ミシンをスタートさせます。

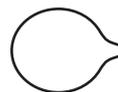
→ ぬい終わると、ミシンが止まります。

- 4 ぬった模様を確認します。

正しい状態のときは、模様の図の部分均等になっています。



模様が以下のような状態のときは、たて方向の調整が必要です。



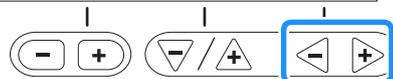
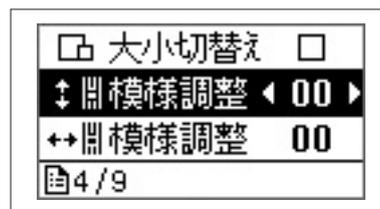
模様が以下のような状態のときは、よこ方向の調整が必要です。



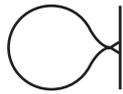
模様がかずれている場合は、以下の手順に必要な調整をしてください。

- 5 設定画面で、 (たて方向の模様調整) を表示します。

- 6 を押して、たて方向の調整をします。



→ ぬい上がりの状態に応じて、必要な調整をしてください。



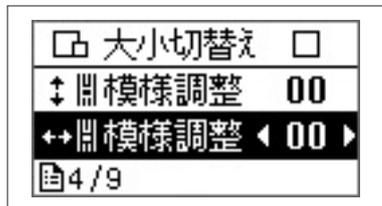
この場合は、を押して、模様をたてに伸ばします。



この場合は、を押して、模様をたてにつめます。

7 設定画面で、 (よこ方向の模様調整) を表示します。

8  を押して、よこ方向の調整をします。



→ めい上がりの状態に応じて、必要な調整をしてください。



この場合は、を押して、模様をよこに伸ばします。



この場合は、を押して、模様をよこにつめます。

9 を押します。

10 もう一度をぬい、ぬい上がりを確認します。

正しい模様がぬえるようになるまで調整してください。

第2章 マイイラスト機能

イラストデザイン

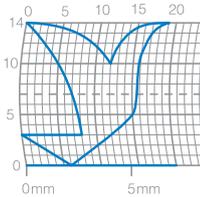
マイイラスト機能を使用して、オリジナルの模様をぬうことができます。

模様のデザインを描く

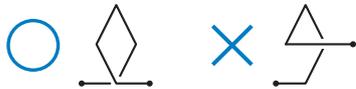
付属のマイイラスト用紙を用意します。



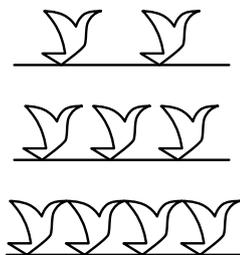
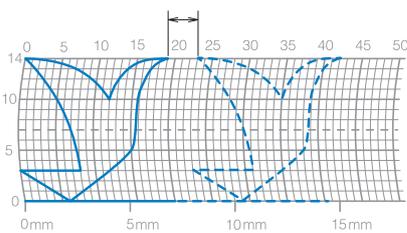
- 1 マイイラスト用紙に模様のデザインを描きます。



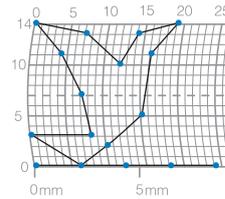
一筆書きの要領で、線の始めと終わりの高さが同じになるように描きます。



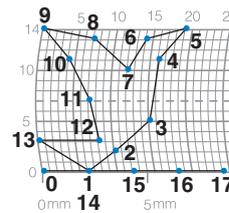
- 2 模様を繰り返す場合は、繰り返される間隔を決めます。



- 3 目盛りと交差するポイントを直線で結びます。



- 4 ぬい順と、各ポイントのX座標とY座標を決めます。

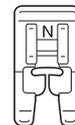


模様を閉じるように線を交差させると、よりきれいに仕上がります。

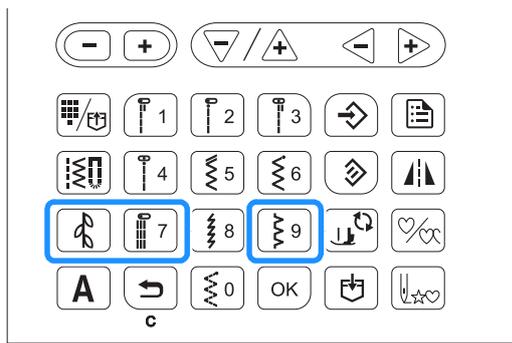


イラストを入力する

- 1 模様ぬい押え < N > を取り付けます。

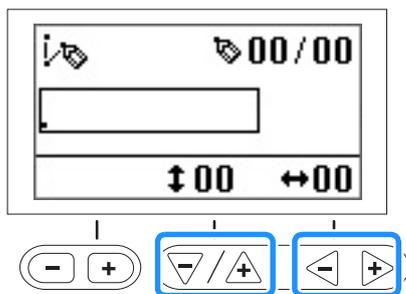


- 2 を必要回数押して を表示し、 を押します。



→ マイイラスト機能の画面が表示されます。

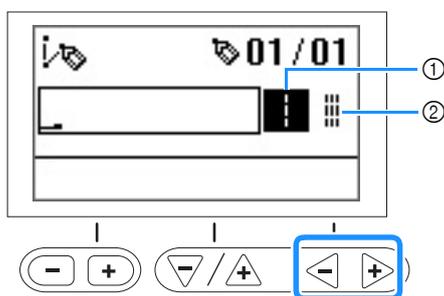
- 3 マイイラスト用紙を見ながら、1つ目のポイントの座標を指定します。、 を押して座標を指定し、 を押します。



- 4 2つ目のポイントの座標を指定して、 を押します。

- 5 最初の2つのポイント間で1針ぬいをするか、3重ぬいをするかを選択します。

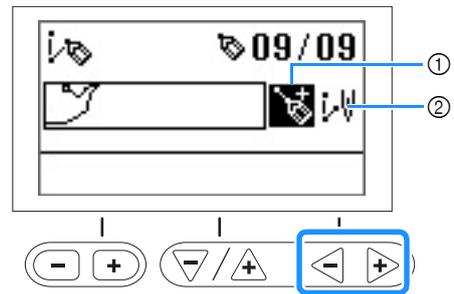
を押していずれかを選び、 を押します。



- ① 1針ぬい
② 3重ぬい

- 6 模様編集を終えて縫製画面に戻るか、編集を続けるかを選択します。

を押していずれかを選び、 を押します。



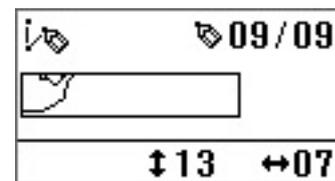
- ① 編集を続ける
② 編集を終える

- 7 手順④～⑥を繰り返して、すべてのポイントを指定します。

お願い
• 入力したポイントを修正するときは、画面が以下の状態のときに を押します。



1回押すと、最後のポイントが選択され、白く反転します。
もう一度押すと、ひとつ前のポイントを選択できます。
ひとつ後ろのポイントを選択するには、 を押します。
修正するポイントを選択したら、、 を押して正しい位置へ移動します。



• 最後のポイントを削除するには、 が表示されている画面で、そのポイントが黒く表示されている状態で、 を押します。

- 8 すべてのポイントを入力し終わったら、 を選択します。

- 9 他の模様と同じように、返しぬい/止めぬいなどのさまざまな設定をします。

お願い
• 作成した模様は記憶させておき、繰り返し使うことができます。詳細は、D-9の「模様を記憶させる」を参照してください。

作品例

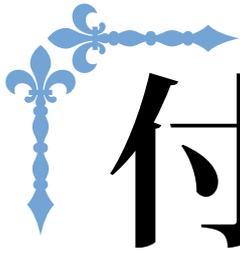
表に記された各ポイントを入力していくと、以下のサンプル模様をぬうことができます。

					
ぬい方	↔	↑↓	ぬい方	↔	↑↓
1	0	0	21	38	13
2	12	0	22	35	14
3	18	3	23	32	13
4	22	6	24	30	10
5	23	10	25	32	6
6	21	13	26	35	3
7	17	14	27	41	0
8	14	13	28	45	0
9	12	11	29	47	4
10	9	13	30	44	7
11	6	14	31	45	11
12	3	13	32	47	13
13	1	10	33	50	14
14	3	6	34	54	13
15	6	3	35	56	10
16	12	0	36	55	6
17	41	0	37	51	3
18	43	4	38	45	0
19	40	7	39	70	0
20	41	11			

					
ぬい方	↔	↑↓	ぬい方	↔	↑↓
1	0	0	21	16	10
2	3	5	22	18	12
3	5	8	23	21	13
4	8	11	24	25	14
5	12	13	25	28	14
6	17	14	26	33	13
7	20	14	27	37	11
8	24	13	28	41	8
9	27	12	29	43	5
10	29	11	30	44	0
11	31	9			
12	32	6			
13	30	3			
14	27	1			
15	24	0			
16	21	0			
17	18	1			
18	16	3			
19	15	5			
20	15	8			

					
ぬい方	↔	↑↓	ぬい方	↔	↑↓
1	0	0	21	10	11
2	30	0	22	12	10
3	32	1	23	8	9
4	32	7	24	12	8
5	32	10	25	7	6
6	33	12	26	12	6
7	35	11	27	6	3
8	35	8	28	10	2
9	37	12	29	5	0
10	35	14	30	10	2
11	32	14	31	16	1
12	30	11	32	19	0
13	30	5	33	23	0
14	29	3	34	22	6
15	26	8	35	17	10
16	24	10	36	22	6
17	18	13	37	23	0
18	13	14	38	19	0
19	12	14	39	42	0
20	13	12			

					
ぬい方	↔	↑↓	ぬい方	↔	↑↓
1	0	7	21	20	11
2	5	7	22	21	7
3	4	3	23	24	7
4	5	7	24	23	14
5	8	7	25	24	7
6	7	0	26	27	7
7	8	7	27	27	11
8	11	7	28	27	7
9	11	3	29	32	7
10	11	7	30	27	11
11	16	7	31	23	14
12	11	3	32	20	11
13	7	0	33	16	7
14	4	3	34	20	3
15	0	7	35	23	0
16	4	11	36	27	3
17	7	14	37	32	7
18	11	11			
19	16	7			
20	21	7			



付録

ここでは、困ったときのヒントや、本機を長くお使いいただくためのお手入れ方法などを紹介しています。
ページ数は、「A」の記号で始まります。

第1章 お手入れ／困ったときには	A-2
------------------------	-----

第1章 お手入れ／困ったときには

お手入れのしかた

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場所
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所



お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

画面の汚れの掃除

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。



お願い

- 湿った布で画面を拭かないでください。



お知らせ

- 画面が結露したり、曇ったりする場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、結露や曇りはなくなります。

ミシンの汚れの掃除

ミシンが汚れた場合は、乾いたやわらかい布地などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

⚠ 注意



- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

かまの掃除

針板カバーの下にあるかまを掃除します。

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。

- 1 ④（針上下スイッチ）を押して針を上げます。
- 2 電源を切ります。
- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。

⚠ 注意



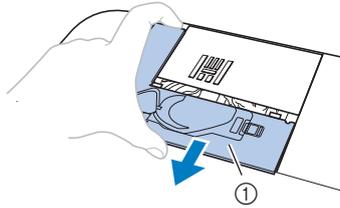
- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

- 4 押えを上げて、針と押え、押えホルダーを外します。
 - 詳細は、「基本機能編」の「針の交換」「押えの交換」を参照してください。

5 補助テーブルを取り付けている場合は外します。

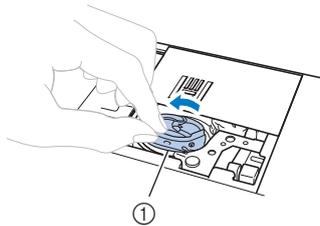
6 針板カバーを外します。

針板カバーを手前に引いて外します。



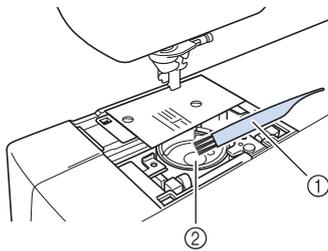
① 針板カバー

7 内かまを取り出します。



① 内かま

8 ブラシや掃除機で、外かまの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

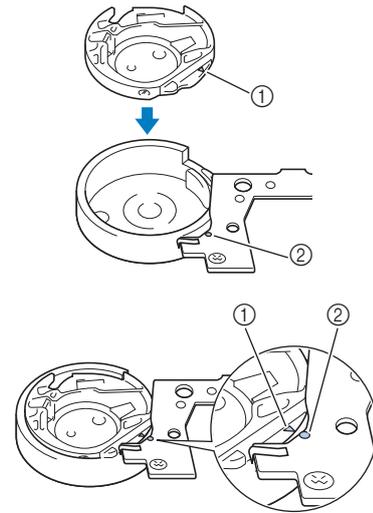


① ミシンブラシ

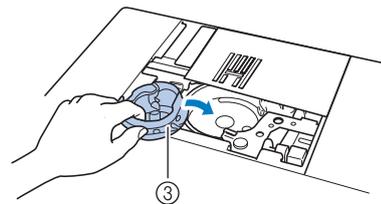
② 外かま

• 内かまに油をささないでください。

9 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



• ▲印と●印を合わせます。



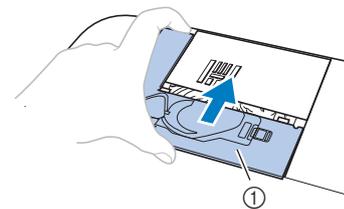
① ▲印

② ●印

③ 内かま

• 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

10 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



① 針板カバー

⚠ 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

A

お手入れ/困ったときには

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://s.brother/cphai/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。

それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

よくあるご相談

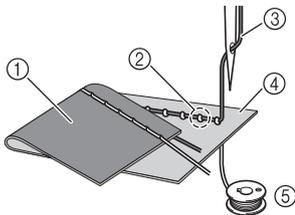
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	A-4 参照
布裏で糸がからまる	A-5 参照
糸調子が合わない	A-6 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	A-7 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	A-10 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている。（下図参照）
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸

■ 原因

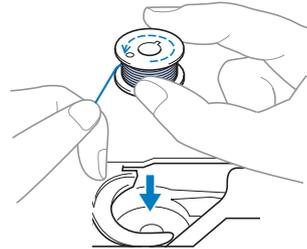
下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットしなおします。

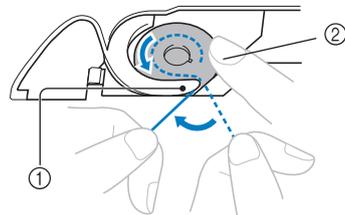
- 1 を押した後、押えレバーを上げます。
- 2 一旦ボビンを内かまから取り出します。
- 3 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。
 - 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

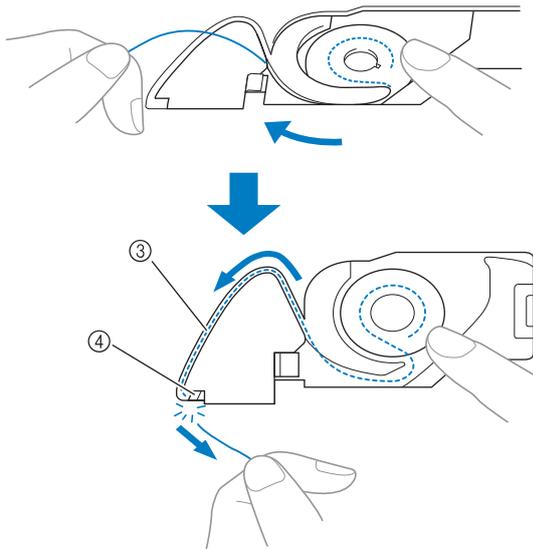
- 4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。



- ① ツメ
- ② 右手でボビンを押えます。

糸を引っぱりながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。



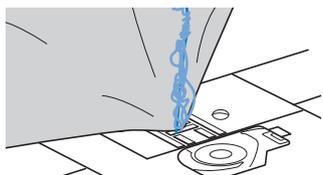
- ③ ミゾ
 - ④ カッター (カッターで糸を切ります。)
- 内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子でぬうことができません。

- 5 を押して、すべてのキーとスイッチのロックを解除します。

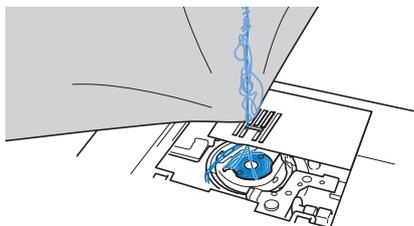
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- めい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

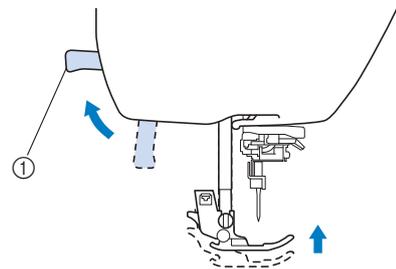
上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかりと引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

- 1 からんだ糸を取り除きます。取れない場合は、はさみで糸を切ります。
 - A-2の「かまの掃除」を参照してください。
- 2 一旦上糸をミシンから取り外します。
 - ボビンを内かまから取り出した場合は、「基本機能編」の「下糸をセットする」、およびA-4の「上糸がつる」の「対処方法／確認内容」を参照して、正しくボビンをセットしてください。
- 3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。押えレバーを使って押えを上げます。

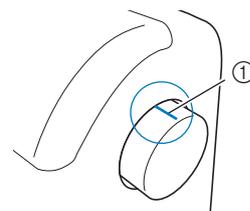


① 押えレバー

- シャッターが開いて、糸通しできるようになります。
 - 押えが上がっていなければ、正しく糸通しできません。

- 4 (針上下スイッチ) を1回か2回押して針を上上げます。

- 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが、下の図のように上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上になっていない場合は、 (針上下スイッチ) を押して、上にしてください。

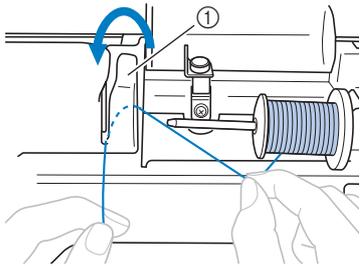


① プーリーのしるし

A

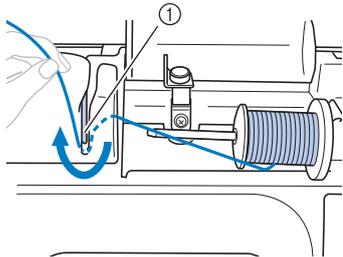
お手入れ／困ったときには

- 5** 引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



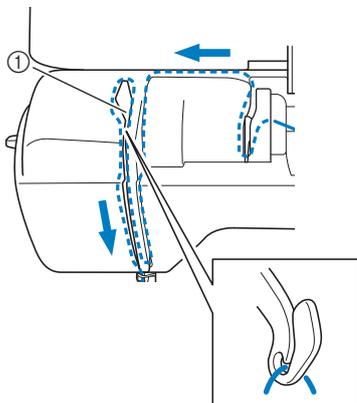
① 糸案内カバー

- 6** 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 7** 引き出した糸をたるまないように右手で持ち、矢印のように、ミゾにそって糸を通します。



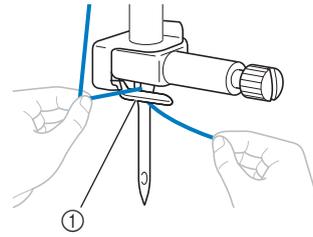
① シャッター

- 8** 押えを下げます。

- 9** を押します。

- 10** 針棒糸かけに糸をかけます。

下の図のように左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけるとかけやすくなります。



① 針棒糸かけ

- 11** 糸通しレバーを使って、針に糸を通します。

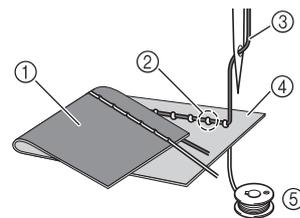
「基本機能編」の「針に糸を通す」の手順に従って、糸を通します。

糸調子が合わない

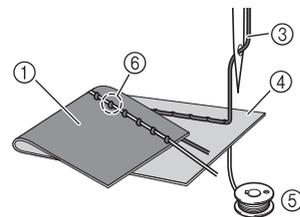
■ こんなとき

- 症状① 布地の上面にポツポツと下糸が出ている。(下図参照)
- 症状② 布地の上面で上糸が直線になる。
- 症状③ 布地の下面にポツポツと上糸が出ている。(下図参照)
- 症状④ 布地の下面で下糸が直線になる。
- 症状⑤ 布地の下面のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上面の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上面の面
- ⑤ 下糸
- ⑥ 布地の下面の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

<症状①、②に該当する場合>

下糸が正しくセットされていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-4の「上糸がつる」を参照してセットし直します。

<症状③～⑤に該当する場合>

上糸が正しく通っていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-5の「布裏で糸がからまる」を参照して上糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の使い分け」の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

「基本機能編」の「糸調子を調節する」を参照してください。

- * 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをして、糸調子を調節してください。

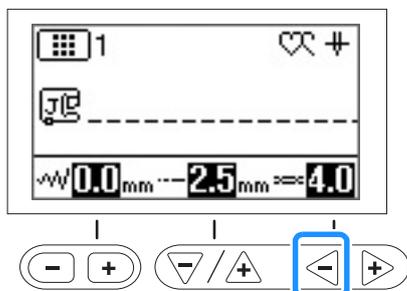


お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

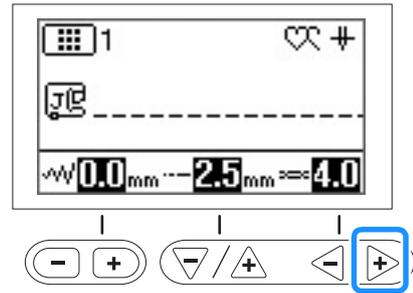
- 布地の上側に下糸が見える場合

◀を押して、糸調子を弱くします。



- 布地の下側に上糸が見える場合

▶を押して、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

- 1 直ちにミシンを停止させます。

- 2 電源を切ります。

- 3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

- 「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。

- 4 押えと押えホルダーを取り外します。

- 「基本機能編」の「押えを交換する」「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

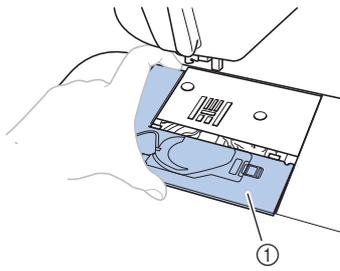
- 5 布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。

ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

A

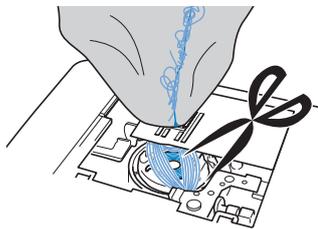
お手入れ／困ったときには

6 針板カバーを外します。

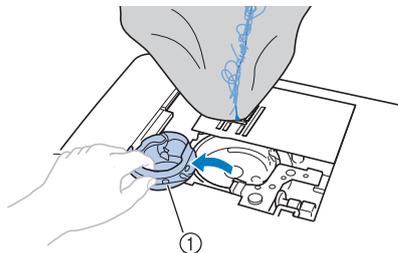


- ① 針板カバー
 • A-2の「かまの掃除」を参照してください。

7 からんだ糸を切ってポピンを取り出します。

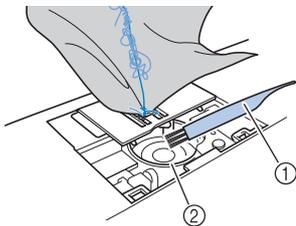


8 内かまを取り出します。
 内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



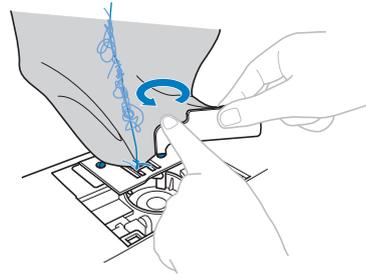
- ① 内かま

9 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



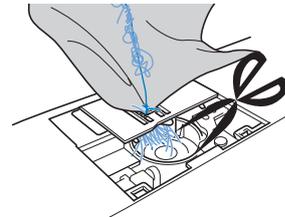
- ① ミシンブラシ
 ② 外かま

10 付属のL型ネジ回し（またはネジ回し）を使って、針板の2つのネジを取り外します。



お願い
 • 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

11 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。
 針板から布と糸を取ります。



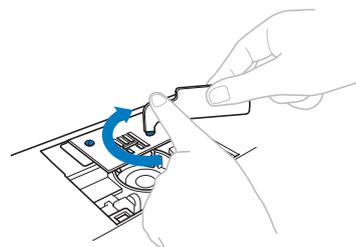
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン119番）」にご相談ください。

12 かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

13 プーリーを回して、送り歯を上に戻します。

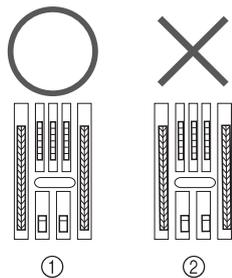
14 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

15 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをL型ネジ回し（またはネジ回し）でしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む

プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



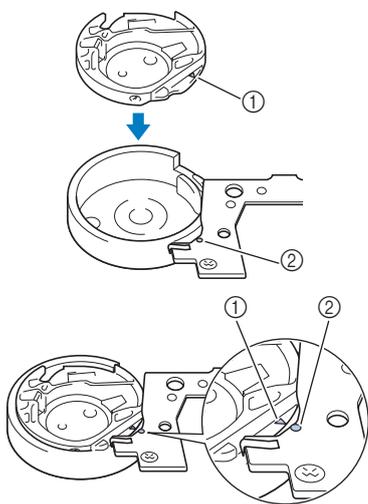
- ① 正しい送り歯の位置
- ② 正しくない送り歯の位置



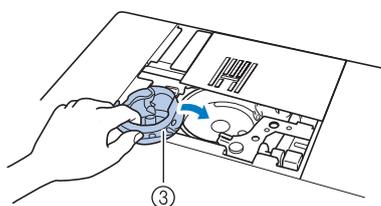
お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 16** 内かまの ▲ 印とミシンの ● 印が合うように、内かまを取り付けます。



- ▲ 印と ● 印を合わせます。



- ① ▲ 印
- ② ● 印
- ③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

注意



- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店にご連絡ください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 17** 針板カバーを取り付けます。(A-2の「かまの掃除」の手順⑩参照)

- 18** 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「基本機能編」の「正しい針の見分け方」「針の交換」を参照してください。

注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。



お願い

- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。



お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

- 1** 電源を入れます。
- 2** 中基線の模様  を選択します。

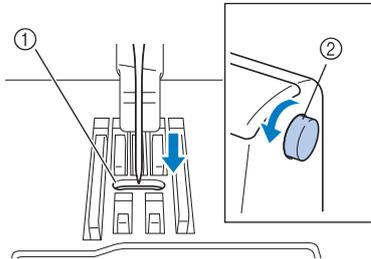


お願い

- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

- 3** プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、A-7の「布をミシンから取り外す」の手順⑬からやり直してください。



- ① 針板の穴
- ② プーリー

- 4** ジグザグ模様を選択します。このとき、ぬい目の長さとしぐざぐ振り幅を最大にしてください。

- 設定の変更については、「基本機能編」の「振り幅を調節する」「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

- 5** プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

- 6** 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

- 「基本機能編」の「下糸をセットする」「押えを交換する」を参照してください。

- 7** 上糸をかけなおします。

- 上糸のかけ方については、「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。

お知らせ

- 上糸が正しくセットされていない場合は、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

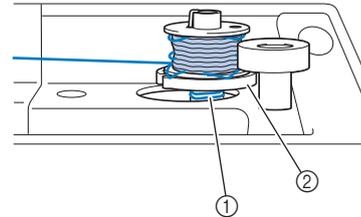
- 8** 普通地で試しぬいをします。

お願い

- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

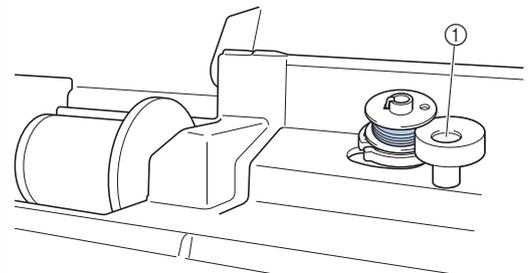
糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



- ① 糸
- ② ボビン受け座

注意

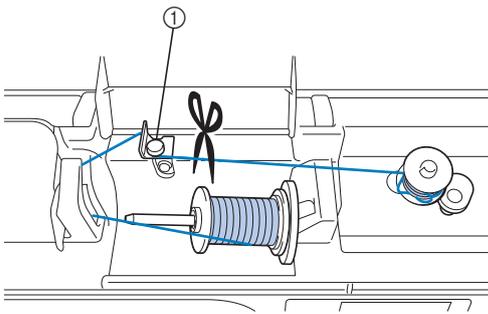
- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



- ① ボビンホルダーのネジ

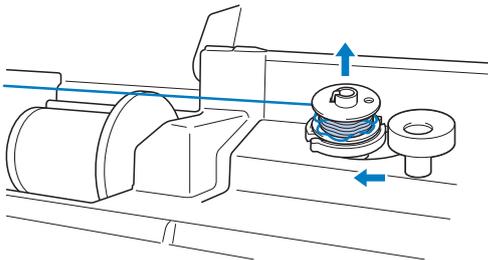
① ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、スタート/ストップスイッチを1回押して下糸巻きを停止します。
フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離しません。

② 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

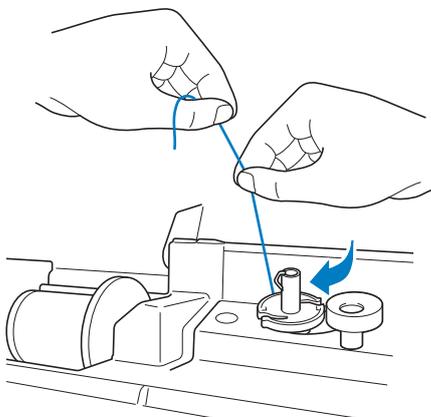


① 下糸巻き案内

③ ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。ボビンと軸の間で糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。



④ 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



⑤ 下糸巻きをやり直します。



お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。

A

お手入れ/困ったときには

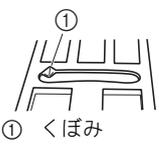
こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ めう前の準備

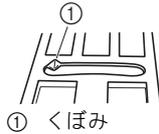
症状	原因	対処	参照ページ
糸通しができない 針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチを押して針を上げます。	B-3
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-27
	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-27
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
	糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	9 番の針を使っている。	糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	B-22
押えレバーで押えを下げるができない	押え上下スイッチを使って、押えが上げられている。	押え上下スイッチを押して、押えを下げます。	B-3
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっている。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	B-13
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	B-13
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに 5 ～ 6 回ボビンに巻き付けます。	B-13
	ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	ボビンのミゾと下糸巻き軸のパネの位置を合わせて、ボビンをカチッと音がするまで押し込みます。	B-13
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。	B-13, A-10
下糸を引き出すことができない	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-27
	下糸のセットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-16
液晶画面に何も表示されない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-8
	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	B-8
	液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる。	液晶画面の明るさを調整します。	A-19
液晶画面がくもる	液晶画面が結露している。	少し待つと、くもりはなくなります。	-
操作キーを押しても動かない	手袋をはめた手でキーを押している。 つめでボタンを押している。 静電容量式に対応していないタッチペンを使っている。	<ul style="list-style-type: none"> 操作キーは指で直接押してください。 市販のタッチペンを使用するときは、静電容量式に対応したものを使用してください 	B-4
操作キーを押しても動かない、またはキーの反応が強すぎる	操作キーの感度が、使用される方に合っていない。	操作キーの感度を調節します。	B-12
ライトが点灯しない	ライトが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
	設定画面で「ライト」が OFF に設定されている。	設定を ON にします。	B-11

■ぬっているとき

症状	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	B-34
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	B-13
	模様を選ばれていない。	模様を選びます。	B-33
	押えが下がっていない。	押えを下げます。	B-34
	フットコントローラーを接続したままスタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使ってミシンを操作してください。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外してください。	B-35
	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている（「振幅コントロール」がONになっている）ときに、スタート/ストップスイッチを押している。	スタート/ストップスイッチではなく、フットコントローラーを使って、ミシンを操作します。または、設定画面で「振幅コントロール」をOFFにします。	B-10, B-35
針が折れる	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-27
	針のとめネジがゆるんでいる。	とめネジをしっかりとしめます。	B-27
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-30
	上糸調子が特に強すぎる。	糸調子を調節します。	B-39
	布地を不当に引っ張っている。	布地を引っ張らないようにします。	-
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-13
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。 	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-29
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-27
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-13
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-16
	押えの取り付けがまちがっている。	押えを正しく取り付けます。	B-29
	押えホルダーのネジがゆるんでいる。	押えホルダーのネジを確実にしめます。	B-30
	布地が厚すぎる。	プーリーを手で回して針が布地に通ることを確認してください。	B-26, S-4
	厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	無理に布地を押しこまないようにしてください。	S-4
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくします。	B-38
下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-13	

A

お手入れ/困ったときには

症状	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒系かけから外れているなど）。	糸を正しく通します。	B-19
	糸にこぶや結び目がある。	糸のこぶや結び目を取り除きます。	-
	針に比べて糸が太すぎる。	針と糸の組み合わせを確認します。	B-26
	上糸調子が強すぎる。	糸調子を調節します。	B-39
	糸がからまっている。	かまなどからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-5
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-27
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。 	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-29
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
	糸が結ばれたり、からんだりしている。	上糸と下糸を通しなおします。	B-13, B-19
本機純正のボピンを使用していない。	厚みの違うボピンでは正しく動作しません。本機純正ボピンを使用してください。	B-13	
布裏で糸がからまる	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19, A-5
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
上糸がつる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-16, A-4
下糸が切れる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-16
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-13
	ボピンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボピンを交換します。	B-16
	糸がからまっている。	かまなどからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	本機純正のボピンを使用していない。	厚みの違うボピンでは正しく動作しません。本機純正ボピンを使用してください。	B-13
布地にしわがよる	上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。または、下糸を正しくセットします。	B-16, B-19
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-19
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	薄地に対してぬい目があらずすぎる。	ぬい目を細くします。	B-38
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-39
	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-30
ぬい目が飛ぶ	糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-27
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-27
	針板の下にゴミがたまっている。	ミシンブラシなどでゴミを取り除きます。	A-2
	薄い布地や伸びる布地をぬっている。	布地の下に薄い紙をしいてぬいます。	S-4, D-3

症状	原因	対処	参照ページ
ぬい目ができない	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-16
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
ぬい音が高い ガタガタと音がする	送り歯にゴミがたまっている。	ゴミを取り除きます。	A-2
	かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	かまの掃除をします。	A-2
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
	本機純正のボピンを使用していない。	厚みの違うボピンでは正しく動作しません。本機純正ボピンを使用してください。	A-2
	内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	内かまを交換します。お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	B-38
	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-30
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
	糸がからまっている。	かまなどからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え<J>の押え固定ピンで押えを水平にしてぬいます。	S-4
	押え圧が布地に合っていない。	設定画面で押え圧を調節します。	B-42
布地が逆方向に送られる	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
針が針板に当たる	針のとめネジがゆるんでいる。	針のとめネジをしっかりとしめます。針が曲がっている場合や針先がつぶれている場合は新しい針に交換します。	B-27
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
布がミシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下の糸を切ります。次にかまの掃除をします。	A-7
折れた針がミシンの中に落ちた	-	ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻します。電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
プーリーを回したときに重い	糸がかまなどからんでいる。	かまからんだ糸を取り除きます。内かまを正しい位置に取り付けなおします。	A-5, A-7
模様が正しくぬえない	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-30
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-39, A-6
	内かまなどで糸がからまっている。	からまった糸を取り除きます。内かまからんでいる場合は、かまを掃除します。	A-7
	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2

A

お手入れ/困ったときには

■ 仕上がり

症状	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-19
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸をセットし直します。 針板を取り外した場合は、針板を取り付けし直し、内かまを取り付ける前に針板のネジを確実にしめます。	B-16, A-2
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-26
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	B-30
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-39, A-6
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-13
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-27
文字・飾り模様がくずれる	本機純正のポピンを使用していない。	厚みの違うポピンでは正しく動作しません。 本機純正ポピンを使用してください。	B-13
	模様が正しく調整されていない。	模様の調整をし直します。	D-10
模様がくずれる	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-30
	薄地や伸びる布地なのに芯を貼っていない。	布地に接着芯を貼ります。	S-4, D-3
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-39, A-6
	ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。	布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	B-34
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	A-7

エラーメッセージ

誤った操作をしたときは、ミシンが止まり、エラーメッセージでお知らせします。エラーメッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。

表示中のエラーメッセージは[OK]を押すか、正しい操作をすると消えます。

	エラーメッセージ	原因/対処
1	❗ 押えレバーを下げてください。	押えが上がっている状態で、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
2	❗ これ以上組合せできません。	70 を超える飾り模様を組み合わせようとしたときに表示されます。
3	❗ 下糸巻き軸を左に戻してください。	下糸巻き軸を右にした状態で返しぬいスイッチ、止めぬいスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
4	⚠ 説明書の「エラーメッセージ」をみてください。	上糸がかまにからんだり、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止したときに表示されます。 A-12 の「こんなときは」を参照してください。
5	⚠ 電源スイッチを切ってから針板を交換してください。	別売の直線針板を取り付けた状態で、直線（中基線）以外の模様を選択しようとしたときに表示されます。
6	❗ 2本針設定を解除して針を交換してください。	㉹（2本針）がONに設定されている状態で、2本針でぬえない模様を選択したときに表示されます。
7	⚠ 針板カバーを取り付けてください。	ミシンの電源を入れたまま針板カバーを取り外したときに表示されます。
8	❗ フットコントローラーをはずしてください。	フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート/ストップスイッチを押したときに表示されます。

A

お手入れ/困ったときには

	エラーメッセージ	原因/対処
9	① 振幅コントロールをOFFにしてください。	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている状態でスタート/ストップスイッチを押したときに表示されます。  (振幅コントロール) を OFF にする (B-10 参照) か、またはフットコントローラーでミシンを操作してください。
10	① ボタン穴かがりレバーを上げてください。	ボタン穴かがりレバーが下がった状態で、ボタン穴かがり以外の模様を選んで、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
11	① ボタン穴かがりレバーを下げてください。	ボタン穴かがりレバーが上がった状態で、ボタン穴かがりの模様を選んで、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
12	① 模様が消えます。よろしいですか？	記憶されている模様を消去しようとしたときに表示されます。
13	① 模様の選択をキャンセルします。よろしいですか？	模様のカテゴリーを切り替えたときに表示されます。
14	① 模様を選んでください。	模様を選択していない状態で、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押したときに表示されます。
15	F** (** の部分は、2桁の数字)	ミシンが故障していることが考えられますので、お買い上げの販売店または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」までお問い合わせください。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■ 正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■ 誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■ 糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。
必ず原因を確認して改善してから、縫製を再開してください。

■ 電子音を消したいとき

- 1 設定画面で、 (ブザー) を選択し、「OFF」に設定します。



液晶画面に何も表示されないとき

電源を入れても液晶画面に何も表示されないときは、液晶画面の明るさが明るすぎる、または暗すぎる時です。その場合は、次の操作をしてください。

- 1 電源を切ります。
- 2  (止めぬいスイッチ) を押しながら、電源を入れます。
- 3   を押して、画面のコントラストを調整します。



- 4 もう一度電源を切って、電源を入れ直します。

A

お手入れ/困ったときには

仕様

項目	仕様
本体寸法	48.0cm (幅) × 24.9cm (奥行) × 30.0cm (高さ)
製品質量	9.8kg
ぬい速度	毎分 70 ~ 850 針
針	家庭用ミシン針 (HA × 1)
定格電圧/消費電力	100V (50-60Hz) /55W
ライト	白色 LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

数字

2本針	B-23
3重ぬい	S-6, S-37
7mm サテンステッチ	D-2
長さの変更	D-7

あ

アイレット	S-40
厚い布地をぬう	S-4
アップリケ	S-27

い

糸案内板	B-2
糸切り	B-2, B-35
糸切りスイッチ	B-3
糸こま押え	B-2, B-14
糸こまネット	B-14
糸たて棒	B-2, B-13, B-20
糸調子	B-39, A-6
糸通し	
上糸通し	B-19
手で針に糸を通す	B-22
針に糸を通す	B-21
糸通し装置	B-21
糸通しレバー	B-2, B-21, B-22
いろいろなぬい方	S-4

う

ウィングニードル	S-46
上糸	B-19
上ふた	B-2
ウォーキングフット	S-5, S-30
薄い布地をぬう	S-4
内かま	B-3
取り外し	A-2

え

液晶画面	
掃除	A-2
何も表示されない	A-19
見方	B-9
エラーメッセージ	A-17

お

大型サテンステッチ	D-2
送り歯	B-3
押え	
押え圧	B-42
交換	B-29
種類	B-30, B-46
押えホルダー	
押えホルダーのネジ	B-3
取り付け	B-30
取り外し	B-30
押えレバー	B-2
オリジナル模様	D-12

か

カーブをぬう	S-2
ガイド付ピーシング押え	S-29
返しぬい／止めぬい	B-36
返しぬいスイッチ	B-3, B-36

各部の名称とはたらき	B-2
飾り模様	D-2
かま	A-2
換気口	B-2
かんだめ	S-37

き

基本のぬい方	B-32, D-4
キルター	S-31
キルティング	S-30

く

クレイジーキルト	S-28
クロスステッチ	D-2

こ

困ったとき	A-4
-------	-----

さ

サイズ	D-6
作品例（マイイラスト機能）	D-14
皿	B-15, A-10

し

シェルタック	S-45
ジグザグぬい	S-12, S-27
ジグザグの振り幅	B-38
下糸	
引き出す	B-23
巻く	B-13
下糸巻き案内	B-2, B-13
下糸巻き装置	B-2
しつけぬい	S-6
実用模様	B-32, B-46
自動糸切り	B-41
自動押え圧補正	B-42

す

スカラップ	S-44
スタート／ストップスイッチ	B-3
ステップ模様	D-7
スピードコントロールレバー	B-3, S-36
スモッキング	S-44

せ

設定	
画面の言語	B-12
自動返しぬい／止めぬい	B-36
操作キーの感度	B-12
模様	B-38
設定画面	B-10

そ

操作キー	B-4
操作スイッチ	B-3
操作パネル	B-2, B-4
掃除	
かま	A-2
画面の汚れ	A-2
ミシンの汚れ	A-2

た

台皿	S-16
たち目かがり	S-11, S-12
試しぬい	S-2

ち

直線ぬい	S-6, S-21, S-28
------	-----------------

つ

つき合わせ	S-21, S-45
つくろいぬい (ダーニング)	S-38
筒ものぬい	S-2

て

電源コード	B-2, B-8
電源スイッチ	B-2, B-8
電子音	A-19

と

止めぬいスイッチ	B-3, B-36
トラブルシューティング	A-4
ドロップレバー	B-2, S-31
ドロンワーク	S-46

に

ニーリフター	B-44
ニーリフター差し込み口	B-44
ニット用針	B-26

ぬ

ぬい方	
基本のぬい方	B-32, D-4
ぬいしろの幅をそろえる	S-3
ぬい目の長さ	B-38
ぬう方向をかえる	S-2

の

伸びる布地をぬう	S-5
----------	-----

は

パッチワーク	S-27, S-28
針	
糸通し	B-21
交換	B-27
正しい針の見分け方	B-27
使い分け	B-26
手で糸を通す	B-22
針の位置を変える	S-7
針板	B-3
針板カバー	B-3
針板ふた	B-3, B-17
針上下スイッチ	B-3
針棒糸かけ	B-3
反転	B-41, D-8
ハンドル	B-2

ひ

ピーシング	S-28
ビニールや皮革をぬう	S-5

ふ

プーリー	B-2
ファゴティング	S-43

ファスナー付け	
片返し	S-22
つき合わせ	S-21
ブザー	A-19
付属品	B-5
付属品収納スペース	B-4
フットコントローラー	B-35
フットコントローラージャック	B-2, B-35
フリーモーションキルト	S-31
エコキルト押え<E>	S-34
オープントキルト押え<O>	S-31
フリーモーションキルト押え<C>	S-32
フリーモーションモード	B-44
振り幅	B-38

へ

ヘアルーム	S-46
別売品	B-6

ほ

補助糸たて棒	B-23
補助テーブル	B-2, B-4
ボタン穴かがり	S-15
ボタン穴かがりレバー	B-3, S-17
ボタン付け	S-18
ポビン	
純正品	B-13
セット	B-16

ま

マイイラスト機能	D-12
まつりぬい	S-8

み

ミシンの汚れ掃除	A-2
----------	-----

め

メッセージ	A-17
-------	------

も

文字間	D-7
文字模様	B-33, D-2
模様	
確認	D-6
記憶	D-9
組み合わせ	D-5
繰り返し	D-5
サイズ	D-6
種類	B-32, D-2
設定	B-38
設定値	B-46
設定の記憶	B-40
選択	B-32, D-2
調整	D-10
長さ	D-7
反転	B-41, D-8
ピボット	B-43
密度	D-6
呼び出し	D-10
模様のデザイン (マイイラスト機能)	D-12

よ

横送り	S-41
-----	------

り

リップパー	S-17
-------	------



アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（マシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのマシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（マシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（マシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（マシン 119 番）」までお問い合わせください。

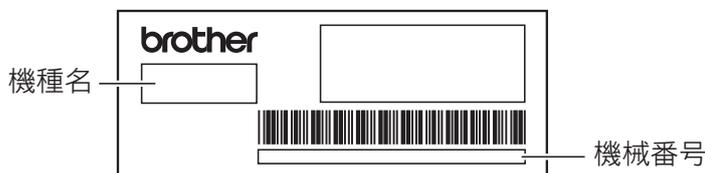
〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（マシン119番） Tel : 050-3786-1134
050 (ゼロ ゴー ゼロ) で始まる電話番号です。
Fax : 052-824-3031

受付時間：月曜日～金曜日 9：00～12：00 13：00～17：30

休業日：土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（マシン 119 番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
マシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（マシン 119 番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://s.brother/cphai/>



Brother SupportCenterは、ブラザー製品のサポート情報（取扱説明ビデオやよくあるご質問など）を提供するモバイルアプリです。ダウンロードするにはApp StoreまたはGoogle Play™にアクセスしてください。

